

技 師

## 福留並喜氏

☒……土木部技術課長たる福留君は高知縣香美郡美良布村の人で明治十三年四月生れの働き盛りである、而して繁雜交錯する市土木事業の第一線に起つて日夜東奔西走し汗みどろになり乍ら部下を督勵しつゝ職務に精勵して居る、君の赴任は未だ年餘を出で無い、従つて事業其ものゝ経過に對する自身の研究もあり兼ねて部下統帥の責を負ふのであるから敢て此の精勵を特筆するに出過ぎた觀もあらう、併し乍ら新任した何人も君同様勵む云ふ譯けもあるまい、況んや君の如きは殆ど寢食を忘れて事務を見るのだ

☒……君は校庭的には高知縣立第一中學を出で第三高等學校より京都帝國大學に學び明治三十七年土木工學科を卒業した立派な工學士である、又社會的には鐵道省技師となり京都電氣鐵道會社、播州鐵道會社等の技術主任に歴任した経験家である、而して十年九月澤井部長の斡旋に因りて始めて市技師となつたので君が眞銘眞正の經綸は蓋し今後に就て納得されるものであるが併し過去の君は行くこして可ならざるは無い状態であつた、殊に京都播州等の各會社は屢々工事難を傳へられた難關に遭遇するや君は然考一番大ひに完成したものである、然らば比較的學術的な都市の土木事業の如きは對比して洵に容易とする所である

☒……君は生來無口な性質を帯びて居て訪人接客に對する斡旋は尤も拙いものがある、偕て技術に亘る論議研究さな

らばあの無口な鍵は取り拂はれて滔々萬言立案の適確なる、計畫の詳密周到なる甚だ妙なのである、従つて味へば味ふ程次第に君の異光は解せられて行くのだ、最近に入り都市計畫事業に伴行すべき道路擴張其整理改造の事業多くなるや君は不言實行益々技能を發揮して居る

☒……君は多忙の餘日を以て其好む所の釣魚をする撞球もすれば圍碁もやる、運動と來たら抑も學生時代は其選手であるからすさまじい、短艇に、庭球は殊更天狗の技を持つて居る

### 電氣會社電氣部助手

堂々辯舌流るゝが如く昔なら一軍の將もあらう人に見える。天賦の良い性質を持つて生れた人で覇氣強くも亦強い。

何れは宗教界に身を投ずる考へである。閑暇があれば讀書をする。大電の旅行には缺かさず出席して居る、運動ではテニスをする。歌劇、活動寫眞等を見に行く事もある勞働運動は本來から云へば賛成で大正十年五月大電爭議の場合にも最初は一般職工側と行動を共にして常に陣頭に立つて居たが『途中馬鹿らしくなつて來て獨立を標榜して爭議の解決せられる迄は會社にも組合にも顔を出さなかつた、注意深く我が一家を守つて世を送る人である。』



主 事

## 才賀留吉氏

☒……才賀君は前後二十年間市役所奉仕を爲す勤勉家なり、現に土木部庶務課に屬し浩翰なる實務を瀟灑極りなき所の經驗を以て滞りなく處理し遂に謬るもの微細だもなし、君の如きは眞に理想的執務家と謂ふべく可もなく不可もなき平凡なる偉大の人なり、既に十年の公吏生活は苦痛や多く且つ夫れ難し二十年間動かざるは又以て難中の難也

☒……然るに君は非凡の才能に眞似ず奔脱氣鋭の故智を學ばず只孜孜として撓まず身を粉碎する迄も牛歩を歩み環視も放置も更に顧みる暇なく表裏何處にあらん我れ天道に通せんとするのみと固く信じて今日の地歩を占む、曾て人あり君を笑つて曰く不斷の機械なりと實に穿ち得て甚だ妙なる君の半面なるべし

☒……君は小兵の體軀を提けて寸分の藩なく勤直無比なる點は片桐君と併稱せられ剛膽放志の抱負を時に表現するは萬人の異ミする所なり、往事土木事業の益々範圍擴大されんミする前後、君敢て腹案を筆すさみ縷々數千句をものし獨り會心の笑を呑み居たるが偶々訪人意中を叩くに會し然らばミ叫んで滔々所論し次いで市當局に建築を惜まざりき

☒……居住平常公利の別を極めて明かにし苟も混同するが如き事なく、又寡言實踐の徒なり、其性癖も見るべき潔直にして整理的性分は君が周囲の凡ゆる方面に施され何事も處理し調整せずんば自ら足らずミなす、故に繁忙重疊の機にも嫣然屈する事なく立ち所に用を辨す

☒……君は兵庫縣美方郡温泉村の人にして明治十六年四月生れ比較的理學方面に特能を有し附近玄武洞の天然を幼少より眺め小學時代に一應の疏明をする事屢々ありし也三十六年市に就職し大正十年主事に任す好む所の俳句を見れば奇想甚だ多し

### 電燈會社機械部職工 (其二)

香川縣綾歌郡○○村の人である。舊丸龜藩に屬し千戸程の農村である。特産物として砂糖がある。家は代々百姓をして居た父は彼の十七の時に亡くなつた。實母は三つの時に亡くなつてゐる。義母は今に達者で兄と一緒に居る。他は腹違ひの姉があるがこれは義母の連れたもので本當の兄弟は彼と兄との二人きりである。高等四年を卒業すると共に彼の義姉の嫁入り先きなる金澤へ行つた。姉の夫は金澤から金石に通ふ金石電氣鐵道會社に勤めて居た。十七の時から電車の乗務員として兄の勤めて居る會社で働いて二十四の年迄金澤に居た。金澤には汽車修繕會社があるので電鐵から其方に轉つて鐵工として働きもした。大阪に来てからは機械工として町工場をそれかちそれへと移り歩いた。大電には大正八年に入社したものでまだ平職工です月收も九十圓内外である。

二階六疊に三疊、階下三疊二間に四疊半で二十四圓の家賃である二階を十圓で他人に貸してある。此家は古風の家では有るが玄關は廣く南に小庭があつて光線の具合もよく立派な住宅である。小庭の向ふが小川になつて居て其向ふが安治川發電所の塀になつて居る。家族は彼等三二つになる男の兒である。



技 師

## 長尾鐵雄氏

☒……何が偕て経験は偉大な實學である、學校教育も或る意味を以てすれば其の一局部とも受けとられる、従つて深遠宏大にして將に日月を捉へる様な學究も顧みれば足は地球を離れて居る譯けでない……今日の飯を食はずして明日の命を保證する事は不可能である、もつと簡單に告白すると學歷對經驗は互角で其の差はゼロ其量度は均衡である

☒……只茲に差等を生じ優劣を示すのは當事者の能不能に依つて轉轍されるに過ぎない、無學文盲なお爺が敏銳才幹の士を指揮するものもある、要は只其人々の心掛け一つにあるに信じて居る長尾君は九州の健兒である、彼れは明治七年五月宮崎縣東臼杵郡岡富村に生れて屢々行藤の瀧、可愛の嶽等の清氣に接して育成した

☒……沫散る壯觀は好奇に唆はれ易い幼年の鐵坊を蓋し言はず語りの異常な教練をしたであらう、則ち鐵坊は小學を卒へると間もなく北東五百里遙かに東都に渡つて明治二十七年東京工手學校土木學科を卒業し螢雪の功を深く胸中に收めて再び其故山に立ち歸つた、而して直ちに傳手を求め宮崎縣廳土木課の一技手になつた

☒……居る事十有餘年其の間縣土木工事に精勤を勵むと共に傍ら長崎港灣改良工事に參加し起工當時より事業竣工に至る迄援助した、尙其の別途事業として施行された稻佐沿岸改良工事も染手して之れ亦竣工に盡す所多かつたのである斯くて以て三十九年には播但鐵道會社技師に轉じた

☒……其後故あつて三重縣四日市市に赴任し精銳な傾力をなす事となり當時市の重要問題たる三大事業即ち築港河川水道等の爲めに寢食を忘れて盡瘁し首尾良く根本計畫を樹て囑託の任を完ふしたが之れを辭して群馬縣廳に奉職の上天狗岩水利組合の新規水路計畫を凝し爾後明治四十年東京電力、名古屋市上水道創業時代に參與して四十一年大阪市役所に就任し現在土木部に在つて其の敏腕を揮つて居る

☒……彼れは多く口數を利かぬ男であるが事務に就ては何人の苛責なく自説を主張する人である

## 電燈會社機械部職工 (其二)

妻君は子供があるから何も内職をしては居ない。「アー」ミが「ハー」ミか云ふ女の人らしい嘆聲が奥の間から洩れて来る妻君が風邪の氣味で寢て居るのである。近頃の風邪は質が頗る悪しく四十度位の熱が四日位續きそれで肺炎にならずにすんでも後は二週間も三週間もよくならない。彼女の風邪になつた原因はこうである。正月三日を利用して堺の實家に歸る爲め川口から船に乗つたが非常に寒いので船の隅に小さくなつて居た。實家に歸つたら急に熱が出て寢込んでしまつたのであつた。五日程したら少しよくなつた様なので「お正月早々病氣で寢たりして濟みませんでした」ミ云つてお暇をして來たのであるが又船の中で風邪を引返したのであつた。結局病氣しに家に歸つた様なものである。「あきません。私は朝早うから出ねばなりませんし子供は母を離れ様しませんからね」ミ云ふ。又しても溜め息が洩れる。女の人の溜め息許り男の心を掻きむしるものは無い「さうだ具合が悪いのか。」返事がない。裏の發電所から金ミ金を磨る様な騒音



技師

## 松田八郎氏

☒……粥を啜つて朝飯に代へ粟を以て麥に代ふ凡そ山國の陋習は粗食にして剛健である、松田君の生れ故郷佐賀縣一帶の地は殊に傳來の風習を尊重して行く所で貴賓と雖も朝食は必ず粥に箸を下さねばならぬ、然も活動は猛烈を極め荷も遊隨な微風を排撃して終ふ朴實な地域である

☒……君は此の地佐賀郡嘉瀬村に明治十八年十一月出生、泌みく〜とお國自慢の嚴格な型に育てられたので頗る質朴な男である、暇さへあれば清流川上流の沿岸に出で、一竿の糸を垂れ無我想只之れ天然の曠きに身を委せた其の快美感が今も尙一種の趣好であり、必需的素質として釣魚を棄てる譯けに行かぬ事となつた

☒……松田君は今大阪市役所土木部道路係技師で線路の改造には獨特の技術を發揮し敬慕されて居るのである、君は其の道程に於て幾多實地の訓練を経て今は何もの、變態施工にも更に顧慮する所なく直ちに考案斷定を下す迄に熟達したのである

☒……彼れは郷里の中學を出身すると直ちに熊本に走り高等工業學校に入りて明治四十二年土木科を卒業後其年大阪市土木課に就職した而して下水道改良係として鋭意貢献する所があつた、大正三年一時辭職の上福岡縣若松市役所土木課に轉じ同八年迄同市に勤め再び大阪市に來た

☒……爾來腰を据えて餘生を大阪市の爲めに奉仕せん事を庶幾して居る、彼れは寡言默考の士で良く調和する人である、寧ろ技術に放置するならば何日の間でも精勵已まざるものがある

### 電燈會社機械部職工 (其三)

が聞ゆる。子供の教育だけは充分させ度いとも思つて居るが何學校に入れるとも考へては居ない。勞働する者の妻になつた程氣の毒な事は無い。彼は常にそう思つてゐる。閑暇の利用方法としては妻を連れて近郊を散歩したり旅行したりするのみである。「家内に満足を與へるのが一番の楽しみです」二十九の時に結婚して一子をあけたのみで火事災難等には遇つた事が無い。

如何にも話し好きと見ゆる人で漆の様に黒い髪を美しく分け座を正しくして喜色満面で話しかける爭議の當時は電業員組合に入つてゐました。何時も役員に選ばれてゐました。〇〇が支部長であつた時には萬事都合よくいつてゐましたが〇〇が代つてから會社側を欺いたり職工側を偽つたりしたので兩方共立場が悪くなつて來ました。私は爭議に入るに共役員は止めました家の宗教は眞宗であるが彼は無宗教である。機械工は永らくやつて來た仕事であるから之を止めて何かやらうと云ふ様な氣は無い。人懐かしがりで何から何まで行き届いた人である。(一、二三)



技師

桂 璋 氏

☒……従順なる事羊の如く猛きこ蛇の如くあれど叫ぶ牧師に言行一致するもの果して幾人あらう、偶々以て彼等が未信者と稱して指弾する者に謬らざる遵奉者を見出すから世の中は皮肉である、桂君の如きは聖教を其儘實行して行く従順と鋭敏とは君の二大特質である

☒……學歷に因つて人の眞價を左右するものならば所詮貧乏人から天才偉人が出ない理窟となるが事實は凡て此の陋習を打破して居る、桂君を擁して天才偉人は主張せぬ、只彼れが萬難を物ともせず張り詰めた勇氣を維持し遂ひに今日の位置を築き上げたのを賞讃せねばならぬ

☒……彼れは勳八等大阪市技師の現職にある、明治七年八月大阪府下豊能郡箕面村に生れ豊かならぬ家庭に育つて中學も中途に退いたのである、其後明治三十四年血涙を揮つて彼れは一腰辨に身を甘んじ大阪市役所に入り土木課の雇員となつた

☒……然し中學を去るや彼れは人知れず土木業に關する智能を練り實地の訓練を怠らずして吏員に就職したのである故に僅か一ヶ年の努力は直ちに衆望を博し三十五年臨時技手となり茲に始めて其志を伸ばす時が來たのである、明治三十七八年戦役には滿洲の野に轉戦した

☒……明治三十八年十月復職し其年十二月に技手に任じ爾來十有餘年間市土木事務に従事し益々技倆を磨き上げ十年四月特選されて技師に進んだ、彼れは頗る努力家である

電燈會社機械部職工 (其一)

九條上の町の最も柄の悪い處に彼の家がある六尺さない道を間に一間二間の部屋に仕切つた長屋が並んで居る兩側の屋根から屋根に竿を渡して干し物をする様になつて居る。随分汚い。貧民窟云ふのは此様な處を云ふのであらう。『ドン底生活者の群』には此様な處に住む人々に捧ぐる名前であらう然し乍ら其は形式から云つたもので其他にも實質的な貧民窟はある。ドン底生活者の群も居るのである

彼の故郷は三重縣飯南郡○○村であるが最近に籍を移して本籍は四貫島にある。父は五歳の時に亡くなつた母は六十八で今に達者である。○○村は普通一般の農村で特産云ふ様なものはない。高等科を卒業するに共に來阪して木型職を習つた。木型云ふのは鑄物の型を作るについての必需品で木を指定の形に削る職である。男のみ四人の末子であるが次兄が大阪に來て居たので兄の家から勤め先きに通つた。勤め先きは石井鐵工所と云ふ鑄物會社であつた。當時は小さい個人の經營に係るものであつたが其後發展して今では三百萬圓の大會社になつた。日本紡機工業株式會社云ふのが之である。兵役は歩兵として合格し津市の第五十一聯隊に入營した。軍隊に於ける成績は悪い方で眞面目に勤めぬいたに拘はらず除隊迄に僅かに一等卒になつたのみである

技師

## 田中有泰氏

⊗……大阪市役所内に於ける經驗派に屬する人で春風秋雨幾歳かを忍び來つて今日港灣部河川課主任として精勤する男である、實歴の陶冶を經た實質は牢固にして今時の學究肌を撞着せしむるに多分な技能者であり切れ物である技術家の多くは内面的で線香花火の様に瞬間的優秀と光彩を誇るものは甚だ僅少である、

⊗……君の如きも亦牛歩を固め艶消しの型である、其の粗野にして無頓着なるはコスミチックに撫で髪の有象に劣りヘリオトロープの香氣を纏ふ無象に及ばずとも造詣深く立案精巧なるは蓋し河川技師の首班として且つ獨歩を稱せられる、従つて彼れを掘り出しの金砂に譬へれば虚空を包む外美觀連は硝子の玉を謂つてもよい、

⊗……君は明治三年四月愛媛縣松山市に生れ勝山城主久松氏の藩列に侍した舊士族の流れである、幼時より嚴格なる家庭に人となり道後温泉の天景に惚れては人知れず温浴するのを常とした、畢竟彼れの天賦の素質は猥りに窮窮な壓迫をのみ甘受する事を許さなかつた爲め時に逸奔の小天地に悠々として遊ぶのであつた、

⊗……長じて松山中學を卒へるや斷然宗旨を確立し自ら信ずる事深き科學的方面に獨學を志し尙其行程として明治二十三年愛媛縣土木課に奉職したのである、茲に於て彼れは寸時を割いて土木方面の智識を練磨し業能漸く進み他の懸望に引かれて一轉南豫鐵道會社の創設と共に入社し尙高野鐵道成るに及び再轉した、

⊗……而して明治三十一年大阪電鐵部の業起るを俟つて市役所入りを遂げたのである、爾來既に二十有余年間精勵止まず克く其妙技を捧けて市の爲めに悉く貢獻して居る、大正六年に至り擢んでられ現任となり之れ亦五ヶ年の歲月は優に流れ去つて居る

⊗……君は見かけに依らぬ多趣味な人で先、傑出したものは繪畫殊に洋畫をものする、恰も黒人の如くである、メケツチ帖を一瞥すれば瀬戸内海、石鐵山籠等今更乍ら若々しい氣分の溢れた筆致である、

### 電燈會社機械部職工 (其二)

軍隊から歸つて大電に入つた月收は百圓に足らない。

既に述べた通り彼の家は極めて柄の悪い處にある。玄關の間が四疊半、奥の間が六疊で家賃は九圓八十錢である。何十軒と云ふ長屋に水道は僅かに一個であり便所も共同便所である。一疊圓にも當らないから安い様でもあるが實際は相當な家賃である周圍の態狀は陰鬱と不潔の二字に盡きてゐる。

家族は彼等三四歳になる女兒で、女兒は少し行儀がよく無い。妻君は氣の利いた人に見ゆ客と見て早速に御菓子を買つて來て薦める。此様な事は例もある事乍ら有難迷惑でやめて貰ひたいものだ子供があるので妻君は内職をして居る暇が無い。六疊の間には立派な諸道具が並んでおり如何にも豊かな感じを與へる。入口の四疊半の間には稻荷様を祀つたものである。神棚に澤山の燈明をあけて餘程の信心家らしい。



技師

### 萩野竹四郎氏

⊗……大阪市役所港灣部河川係技師に萩野君ある事を知らざる人多し、君は平凡なる工學士を以つて自ら甘んじ其の技をすする所の直線曲線螺線を引きて定規を友とし日中孜孜として斷之間無く精勵する眞の技術家にして青齡尙未だ春秋に富む前途有爲の人たり、

⊗……試みに行きて彼れを訪へば恬然として圖面を措かず人の語る所に魅惑さるゝ事なく遽かに應ぜざる變り者なり和して語れば雅氣亦愛すべく流暢の辯を重ねて懇懇、赤心を人の前に吐露し更に遲疑するもの無し、カンパスに育つものは一點に斃れてこそ本望なれ……とは彼れが熱を語る警句也、

⊗……如實彼れの熱誠は自ら講く所の一點一線に籠り苟も信ずる技術を描寫し錯誤なからん事を之れ專念する點に顯著なり、而して營々役々として従事し尙克く樂悅を其の裡に獲取するは豈に衆人の模倣を宥すものぞ、それ君が獨特の會通ならずんばあらざる也、

⊗……變化もなく差別もなく千變一律の執務は概ね萬人が永續せざる所ミす、譬へ自家處世の專獨の事ミ雖も多くは斷續的に之れを行ふは一般の風習なるが此の定律を破りて持續を録す君の如きは執着と忠盡の兩徳を併有せる得難き男と謂ふべし、

⊗……君は兵庫縣水上郡成松町の人にして明治二十年四月出生、幼少より數理學的特能を有したりしが柏原中學時代の如きは特に數學圖畫を得意とし鹿兒島造士館即ち七高に入るや益々技能進み大正五年東京帝國大學土木科を卒業せり  
⊗……君の七高時代は著しく運動を好み短艇庭球兩部に熱中して其の選手となり頗る名を印したるが學業の蹉躓を恐れてより大學時代は庭球のみ連續し他は之れを自制したり、故に現在にありても其の好む所は庭球にして山國育ちの體腕を揮ふ事屢々なり、

## 第十四節 教育部

教育部には庶務課、校園教育課、社會教育課の各課がある、

### 庶務課

庶務課は庶務係、豫算係、調査係から成る

庶務係は部員其他所管吏員直轄學校(實業補習學校を除く)學區所屬實業學校(實業補習學校を除く)圖書館職員の進退、賞罰給與其他身分に關する事項 文書の收受、發送、審査及整理に關する事項、物品の調達、出納、保管及處分に關する事項、學校、幼稚園等の設備に關する事項、學校、幼稚園の儀式及び接待に關する事項、學務委員に關する事項、學區の設置、廢止及區域變更に關する事項、其他の課、係に屬せざる事項を掌る  
豫算係は豫算調製及管理に關する事項及議案の作製に關する事項を掌る  
調査係は教育上の諸調査統計及報告に關する事項、直轄學校(實業補習學校を除く)學區所屬實業學校(實業補習

學校を除く)の設置、廢止、編制、教科、學則等に関する事項、視學會議其他視學事務に関する事項を掌る

### 校 園 教 育 課

校園教育課は教務係、人事係、教育衛生係から成る

教務係は小學校、幼稚園、裁縫學校及實業補習學校の設置、廢止、編制、教科學則等に関する事項、學齡兒童就學に關する事項、商工補習教育に關する事項、私立學校及幼稚園に關する事項、其他普通教育及實業補習教育の獎勵に關する事項を掌る

人事係は小學校、幼稚園、裁縫學校及實業補習學校職員の進退、賞罰、給與其他身分に關する事項を掌る

教育衛生係は學校幼稚園の衛生に關する事項、學校醫の職務に關する事項、其他教育衛生に關する事項を掌る

### 社 會 教 育 課

社會教育課は社會教育係、青年教育係から成る社會教育係は市民博物館、圖書館、美術館等の事業に關する事項、兒童及少年の社會的教育に關する事項、其他社會教育に關する事項を掌る

青年教育係は青年團體に關する事項、公衆運動場の事業に關する事項其他青年教育及市民體育に關する事項を掌る

### 視 學

## 小 畑 富 記 氏

☒……明治十七年七月一日熊本縣宇土郡綱津村に生る、有名なる八代灣を俯瞰し有明海を経て、金崎山を望み附近一帶の温泉浴は敢て俗塵を拂つて素打の人間を産むに適せり、君幼にして此の形勝地に自然の大氣を呼吸し後進誘導の事に志を起して小學を卒へるや直ちに縣立師範學校に入り明治三十八年恙なく出身し更に進んで東京高等師範學校地歴部に規定四ヶ年の業を修得し四十二年茲に始めて當初の志を貫徹せり、

☒……後ち京都市小學校に教員となり約一ヶ年にして故山に去り熊本縣立中學校教諭に任じ非凡の統御力を傾けて生徒の歸依を受けたるも深く決する所ありて再び沖繩縣師範學校教諭に轉じ新開地域の教員養成に熱心盡力したる後漂然自ら小學教育の衝に當るべしと神戶小學校長となりて赴任し前後三ヶ年間功獻大いに勉めたり其の間各種の研鑽に余念なく他日雄飛の素養を急ぎつゝ、ありしが若輩派の囑目荐りに動き自ら亦自治體奉仕の是なるに鑑みる事となり大正四年一月大阪市の招に應じて視學に就任し爾來實蹟大ひに擧がるものあり遂ひに十年九月主事兼視學に拔擢され現に教育部庶務課長として抱負を著々印刻す、

☒……君や溫厚にして貴公子然たる風眸を備へ喜々として如何なる難事にも好んで自薦し克く判別し攻究的才能を顯はせり、僅かに自制の余り體裁振るものあれども年々共に熟すべき又以て多言を要せざるべし、然も庭球の闘將となるや才幹頓に陣容に澄澗するは蓋し情熱の人にして理性を失はざらんと心懸くるに因らん





主事兼視學

## 菅沼松彦氏

君の嚴父は權兵衛大將を陶冶し、君の叔父岡本中將は又桂公と強論して譲らず脊族の大半は陸海軍人たりき、君は則ち其の間の寵兒として明治七年八月十三日和歌山市城下茶屋町に生る、乃父は幕末の勇士にして榎本武揚の麾下に屬し五稜廓に奮戦せしが矢盡き力折れて歸順した士なり、故に育兒も從つて嚴格の型に因る、君は幼時より諄々として之れに従ひ毫末も背向する所なし、其の東都赤坂に移住するに及び君も亦つて乃木大將宅附近に住し、小學校に入り、日夕周圍の陶冶に浴して他日海軍々人たらんことを志せり、

立志の年に達して當時海軍士官養成の機關なりし東京芝政玉社本科に入學汝々勉勵の上卒業するや嬉々滿々先づ兵學校の選抜試験に應じたりしが時に利あらず數學に失敗し次年は病氣の爲め不如意なりき遂ひに斷念の已むなきに至り一家と共に和歌山市に歸還す、

茲に方針を一轉して同縣師範學校に入り明治三十一年卒業 滿一ケ年間同校附屬に訓導して奉仕し翌年東京高等師範學校開設と同時に入學專修科生となり三十四年卒業せり、初め鳥取縣師範學校教諭に赴任せしが尙高等女學校にも同様教鞭を採り前後四ケ年間職を完ふし三十八年大阪高等商業學校教諭に聘せられ直ちに應じて子弟教育に盡せり而して大正二年迄校運を開拓するに勉め一旦退職す、後ち北區第二課長(學務)に任じ居る事五年間赤誠を捧げ大正七年

四月市書記に進み、爾後教育部の要職に在り最近主事に拔擢せらる、

君の性順良にして創造力に富み何人にも快感を領つ所深く包むが故なり、

### 電燈會社機械部職工 (其三)

せんが』云つてモグムとしてゐるのを見る之も一種の無宗教らしい。二三日前神戸で流行してゐる無言講と云ふ一種の怪教を信じた爲めに夫から蹴殺ろされた女がある。前夜撲たれて頭が痛む床の中に寢て居た妻を夫が足で蹴殺ろしたのである。死んで眞の無言に徹した譯だ。彼は「さうして仕うして私共には分りません。」云つて遂に彼の信仰を打ち明けない。「私は何も知らない」云ふ禪宗の坊主の様に白ツバクれてしまつて始末におわぬ。閑暇があれば旅行遠足等をする。伏見桃山御陵に参拜してから稻荷様に参詣すれば何回参つても何時も新しい神様の御示めしを受ける云ふ。子供は是非に女學校だけは卒業させるつもり云ふ二十六歳の時に結婚して女兒をあげたのみである。先年野田に居た時に盜難に遇つた事がある、泥棒は近所の者らしく二階住ひの彼の家に押入つて箆笥を開け二十二枚の着物を持つて行つた。裏が空地になつて此始末に及んだものである。將來も木型職をなす考である。



主事兼視學

# 山 榭 儀 重 氏

⊗……東洋第一と號する三朝ラヂウム温泉の所在は君の故郷を去る二里の地なり、附近に名和長年の精忠を語る船上山巍峨と聳え五百年の往時を偲ばしむ、裾野狭く丘陵荐りに起伏し豈よく隨心を許すものぞ、君は其の鳥取縣東伯郡上灘村に明治二十二年四月二十四日生、圍繞の天地は文人の爲めに好孚の慈母たり、君も幼にして文才長じ群童を抜く、其小學時代の如きは知覺と情熱に於て教師に畏愛せられ、長じて屢々郷黨の推賞を博せり、

⊗……然れども郷土に永く駐るを得ず家人に拉せられて大阪に移住し明治四十年大阪明星中學を卒業す、在學中は運動部に文藝部に自ら趣味に委せて發展し山榭の名を友人間に印刻せり、後ち市内各區の小學校に教員たる事六ヶ年に及び教育事業の研究に没頭したりしが逸才徒らに池沼に甘んずるものなく大正三年に至つて猛然向上の一階段を踏めり、

⊗……則ち難關と目さる京都帝國大學文學部哲學科の選科に受験し首尾良く入學して前後三ヶ年限り正式の學究を試み大正六年卒業す、同年直ちに愛知縣第一師範學校教諭に任じ赴きて教鞭を採り二ヶ年の後大正八年三月大阪市に入り教育部勤務となり視學たり、十年に至り主事に轉じ理任校園教育課調査係主任たり、

⊗……君や意氣健昂にして不屈不撓の活氣に富み觀察力強し多少圭角あり雖も年と共に必ず熟すべく指彈するに足らず、明快徹底の辯を揮つて萬端を處理す將來を矚目せらる、唯一人なり、力行の士にして一教員に甘んじ實は費を積

みて學研の爲めに準備したる所滔々として情事に溺れ現職に萎縮し若くば金給に酔ふて何事も爲し得ざる現代柔弱分子には以て投棄とするも不可なけん、

## 勞 働 調 査

### 電 燈 會 社 機 械 部 職 工 ( 其 一 )

彼の父は伊丹の人である。伊丹は灘と共に酒の名成である。銘酒は近頃灘に負けてしまつたが劍菱、白雲、一文字等が僅かに氣を吐いてゐる。其中劍菱は少し衰兆がある。白雪は伊丹に本店はあるが灘でも魚崎でも醸造して居るから伊丹の地のもの云ふ事は出来ない。彼は此の六分農家で四分が酒屋關係者云ふ伊丹の町で大きくなつた。彼の家は雜貨店であつた。疊にすれば百五六十疊も敷ける大きな家で家族から使用人迄入れ、ば十六七人が缺けない大きな家であつた。彼は其家の四人兄弟の長男に生れた。父の商賣上の失敗からして大阪に引越さねばならぬ様な事になつた。兵役は福知山聯隊に工兵として入隊した。日露の役には従軍して鐵嶺附近に轉戦した硝煙彈雨の間を馳驅して充分の功を立てたのであつた。當時の金鷄勳章と迄はゆかなかつた。明治三十九年兵から歸つて高野鐵道に勤める事になつた。當時の高野鐵道は汐見橋長野間で誠に微々たるものであつた。火夫として居たが其後一時運轉の方もした。明治四十二年四月高野鐵道を罷めて神職になつた。彼の家の先祖は神職で彼の父も一時其方に關係したりした事がある。中之島の豊國神社で修業して京都の平野神社に勤める事になつた官幣大社であるから貰ひ物が頗る多く正月等には鯛が食ひきれない程あつた。神宮奉齋會で曆等の分配もした。



視學

生田五郎氏

君は兵庫縣栗原郡山崎町の人、明治十七年一月元旦に生る、學齡に達するや同町小學に學び出で、同縣御影師範學校に入りて努力已ます三十七年卒業と共に母校の小學に教鞭を採り二ヶ年間兒童教導に専念したるが鋭敏なる君は單に老朽するを慨し奮然籌を罩めて東京高等師範學校に入りて英語科を卒へ、四十三年前途有爲の才能を自ら屈して先づ神戸小學の教員となる、則ち友人知己の冷笑大ひに著しきものありたるも君は私かに期待する何ぞ燕雀輩の窺知すべけん覺悟し乍ら著々として將來の基礎を博識の經驗上に樹立すべく觀念したるに因る、

一小學教員に甘んじて實は補習教育の攻究を遂げ得度の後ち四十四年朝鮮釜山高等女學の教諭に赴任し數年にして大分縣師範教諭に轉じ同縣視學に進み時の知事(現任宮城)力石雄一郎君の愛護を蒙りしも去つて熊本縣女子師範主事となり附屬幼稚園教育を研究し而して後再び大分師範主事に招致され大正七年陽春三月大阪市視學に招聘さる、現に視學兼校園教育課長として市教育界の要路に在り、

彼は其の履歷の示すが如く過去約十年間に亘り幼稚園より高女師範等各方面の教育實地の研鑽を修得し經驗博し故に市教育事業の方途如何の難關に遭遇するも敢て迷倒するもの無く慧敏なる觀察力と共に重寶誠に然り、又文學的趣味を有し語學に長じ殊更に誇る事なく没趣味漢と自銘を打つ人なり、僅かに人に接して輕快の印象を投ずる點あるも實は好漢崎の如く咀嚼するに隨ひて美味あり、



主事

兼田嘉藏氏

滋賀縣高島郡高島村の人、明治七年十一月十七日を以て生る、由來農家に棲みて附近琵琶湖の情景に養はれ竹生島の暮趣を望み雄大なる天來の示現に染み乍ら徒らに軀幹を野生するは之れ豈に滿々たる野望を遂ぐるの途ならんや君即ち悟徹する所あり、居村の小學校を出で、同縣尋常師範に入り卒業後直ちに東京高等師範の試験に登第し入りて專修科に體操其他を專攻せしが明治三十四年首尾良く出身するや招かれて滋賀縣高島郡海津に學校長となり錦衣纏ふて故山に歸るを得たり次いで實蹟益々舉るものありて京都府師範學校教諭兼舍監に轉じ居る事二ヶ年間生徒の陶冶操縦に獨特の妙技を發揮し更らに明治三十五年大阪府天王寺師範學校教諭兼舍監に榮轉し大正八年五月に至る前後實に十六年間倦怠なく後身の爲めに薰育を遂げ修身生理衛生、及び體操等を教授し極めて慈父の如く敬愛せられたるが其の平凡に似て然も大局に動せざる特能は偶々福士部長等の意に投じ擢んでられて市に入る事となり主事に擬し現任教育部社會教育課長となる、

君資性一見鈍重に似たれども圓轉滑脱の世故に長じ着實不戻の健歩を行く、其長年月なる子弟訓育の實地より習得せる活學は渾然として圓熟し來り新規奇珍の經綸なしと雖も善く適切にして合理の方途を案出するに妙あり、故に青年團操縦及び社會教育を主査するは材の適するを見る、會つて軍兵となり志願將校に進み正七位に叙せらる凡ゆる運動は尤も得意とする所にして園藝の如き市廳舎中君の右に出づる者なしと。



主 事

## 田中徳太郎氏

⊠……市教育部に偉魁なる壯漢を見るは既に十餘年滄る所なし、而して彼れや風彩甚だ整ふ者にして部内切つて押し出の利く珍品也、之れ即ち田中君なるが別名字引とも敬稱せらる、

⊠……君は滋賀縣の人、明治八年三月十八日、栗太郡大石村の豪家に生れ、強壯の體格を以て郷黨に羨望さる、學齡に及びて居村の小學校に學び資に飽かず國漢兩學を私塾に學ぶ、其技大ひに進むに連れ故山に袂別して當時名聲著しき杉浦重剛翁の門下生となり修得する事數年深く漢學に長け將に教鞭を採るの至當なる域を超えたれども敢て早成を好まず、一方法律經濟の學究に志し當今の中央大學の前身たる法學院に入り明治二十九年卒業せり

⊠……後ち郷黨の要望に遭ひて故山に歸り偶々家業の繁忙に没頭をなし遂に志を達すべき機會なく年月を迎送せしが固より哲學味を有する君は、何等啣つ所もなく俗塵に讓らざる精勵を致せり、故に近隣知己の人は翕然として君が一身に蒐り隠然勢力を得しも明治四十二年更に拘泥する所なく志を更新して大阪市學務課に入り爾來今日に至る前後十有五年間市教育界の事務を執筆し些細もなく悉知す、故に仇名も亦當れりと謂ふべし

⊠……君性豪邁にして深く自覺し禪味を保有し自ら語りて曰く泰然として實は腰抜けと、併し乍ら十目は等しく讓辭として君の逸材なるを肯定すべし。



市醫兼主事

## 村上保夫氏

⊠……醫者にして主事たる者は市役所にあつて君一人である、村上君は未だ年齢三十歳の若年ではあるが頗る付のシツカリ者として優に四十代の如く賣り出し得るのだ、思慮分別に於ても日常の行動に於ても醫者云ふ陰性な氣分に犯されず左りて若年云ふ血氣に逸る事なく殆ど中庸に起ちて人生行路の直曲險且を徐ろに歩んで居るのである、君の考ひからすると世の中は凡てが花見時の様なものであるさうだ、花に愛好の念を奪ひ取られた者は其凋落に遭遇して遂に悲風をシタ、か味はねばならぬ、花の色香に我れを忘れて心を動かす者は、のつまり行く途の石に氣付かぬ、それは蹟く者である、禁制の一枝を手折る者は犯則者として惡果を與へられるのだ、

⊠……君の持論は聽て生きた花も夫れ斯くの如し一轉するから色氣が出る、要するに人生行進の途は溺れず離れず偏せざる所にあるのださうだ、尤も若い身空であるから單調な點は免除する外はないが其吐露する所に一縷の曙光燦たるものがあるではないか、君自身は實際の渡世に於て充分に理想を發揚すべく勉めつゝある男だ、完全に一致したか如何かは今後の問題として努力其ものばかりでも充分に大書するの價値があるのだ、

⊠……君今や教育部衛生係主任の椅子を占め多少でも教育界に脚を入れて居るから或は自制的に理想の高尙を云爲するのぢや無いかこ心なき好事家は言下に非議するが君の性格を知る者は敢て青年醫家の真相を忘れないのだ、君は全く

の書生肌な豪放磊落な男である、多少血氣の脈々たる餘沫が飛ぶ場合あるもそは一時的現象で實は爲すあるの勇氣を抱くからである、眞價は更に順良にして潑瀾たる精神に燃ゆる熱中する所の新進な快男子だ、

君は兵庫縣の人明治二十六年七月揖保郡龍野町に生れ龍野中學出身後大阪市に來り醫科大學に入り大正九年卒業同年七月大阪府の防疫醫員となり同十二月一年志願兵として軍隊生活に入つたが同十年二月現役を免除せられ再び母校に於て内科を研究したのである、市に赴任したのは大正十一年二月で直ちに現任になつたのであるが今後の活躍に其手腕を期待されて居る、君の尤も好む所は音楽即ち和洋兩面のそれである。

#### 電燈會社機械部職工 (其二)

大電に入社したのは大正五年の八月である。今は助手代理として二十人程の人を使つて居る。

昨年五月の爭議の時には部下の者をつれて罷業せぬ様にした。それは人と争ふ事は無益の事であると云ふ彼の信條から來て居る。現在の月収は百圓内外

二階六疊に四疊半、階下四疊半二間に三疊であるから勞働者の住宅としては廣過ぎる様でもあるが「狭いので困ります大阪の家は何故此様に狭く建てたものでせう」と云つて居る伊丹の彼の家比べて小さいと思ふのである。家賃は十八圓敷金は三十圓丈入れてある。

家族は彼等と女兒と他に弟の子が一人ある。父は今年一月十二日に亡くなつた。神職にあつた事もあり世話好きで好人物だつたので町内の誰彼からは常に立てられて居た。此處の下三番町には北中會と云ふのがあつた、之は町内の人達の親睦を計るに云ふ意味の會である



視學

### 淺野成俊氏

君は尾洲中島郡萩原の産、明治二十一年二月十二日を以て生る、淨土宗末寺の生家に在りて日夜乃父の薰陶を受け傍ら同町小學を卒へ進んで京都東山中學を優良績にて卒業後直ちに名古屋に歸參し第八高等學校に入る、性來宗教面の思索に興味を有ち深く人生岐路の示標を求めん事に努力せり故に明治四十四年同校第一回卒業生として出身するや東都に笈を負ひ一意専念文科大學に哲學殊に教育を攻究し大正二年文學士となりたるも尙助手になつて前後二ヶ年半に亘り之れを専攻せり後去つて石川縣金澤師範に教諭たる二ヶ年半附屬主事を兼任する事更に一ヶ年半に及び眞摯圓熟の育型を編み屢々周圍に敬慕せらる、大正九年九月に至り遂ひに福士教育部長の推薦する所となり現任大阪市視學に轉じ社會教化事業に没頭す性恬淡然も質實善く文筆を呵し衆議を雅號して既に感化教育之研究、輓近教育施設の二著あり、君は尙教育學術帝國教育等の誌冊に寄稿忘らず君は思ふ所あり大正十一年六月退職す



視學

## 鈴木治太郎氏

⊠……其の眼を見よ、炯々として犯すべからず時に錯綜する人の腦裡をも透視して徐ろに敬虔の念を起さしむ、彼の口の口は猥りに開かず、雖も事に當つて滔々たる雄辯あり、蘊蓄深き學識を披瀝して何もの、障害をも奪ひ去らん、頭腦は之れ洗練を経たる傑物なれば敢て人伍に列しての拔群ならざるは無く、其耳は古今東西の警言を聽いて刺す所は非ざるべし、

⊠……鈴木君は而して市視學たり、夥多の教員を視察し其行績と執務の適否を監察し屢々肯綮に當り諄々説いて止まる所を知らず該博適切なる指導に依つて克く彼等の木擇みなる、然も清濁併せて聽くを惜む事なく一意専念以て市教育界の爲めに滿腹の熱誠を捧げ貢獻愈々精勵する人なり

⊠……君は八景の秀望に養はれて明治八年四月滋賀縣琵琶湖伴の膳所町に出生後恰も無爲の子として成長しき、始め郷里の小學窓を出づるや自ら擇びて師範學校に入り之れを卒業次いで郷黨に招かれ小學校教員たる事數年遂ひに志を樹て一氣呵成の勢ひを以て獨學の功を積み茲に修身及び教育の文檢試験に合格し中等教師となる

⊠……其後彼れは更に研究を怠らず教育等各種方面を究めたりしが滋賀縣師範學校に訓導として滿三ヶ年奉職し普く生徒の仰敬を蒙り君の施設方針は甚だ優良なるものとなして同職間に絶大の敬意は拂はしめき、此間よく、子弟教育に

處しては人格的指導を旨とし勉めて教育界の因襲的陋習に一投石を試みし也

⊠……君にして抱負誠に多し、雖も恐らくは未だ當時微弱なる新進氣鋭の士に過ぎず故に其造詣する所を敢行するに、は余りに陋壁堅かりし也、則ち去つて滋賀縣立彦根高等女學校教諭に轉じ前後三ヶ年妙齡の子女を建全の思潮に伴はしめ然も功績茲に顯著なりき、後ち再び去つて大阪天王寺師範に教諭となり附屬主事を兼任する事正に十二ヶ年大正六年現任に轉ぜり

⊠……君は喜怒哀樂に遭遇すれば則ち、笑噴涙慰の機微に觸るゝ事吾人と何等の差異あるに非ず獨り過去廿年間の苦闘は君のみ人格的優越を確保する所、到底遽か師の追従する能はざる也、

⊠……君は猛烈なる反撥心を有する人なるが多年の陶冶自ら宜しきを得今や圓曲なる事然り、好んでテニスをなす、

### 電燈會社機械部職工 (其三)

彼の父は其専務と云ふ事であつた此一月も北中會の新年會の事で奔走してゐたが十二日の四時頃具合が悪いと云つて寢た切り死んでしまつた。腦溢血で亡くなつたのである。母は六十四で今に達者である。彼は父の後を繼いで北中會の専務になつた北中會は新年會忘年會の他に運動會もすれば其他種々の催しをするので其方の事務が仲々急がしい。其他彼は終美會の幹事をして居る終美會云ふのは一種の旅行會で他にアルコールを用ひ取り止めの無い氣焔をあけると云ふ様な意味を持つて居る弟達は東京邊に働き出掛けて居るが何時歸つてもい仕事だと云ふ。三十二の時に結婚したどうか一向子供が生れなかつたが昨年漸く女兒が生れた。彼の家庭は極めて圓滿である。



視學

## 武本謙吉氏

⊠……大阪泉南、南近義村には犬鳴山の不動尊ミ水間の觀音が鎮座して近郷近在の崇敬を占めて居る、未だ難波路に葦の葉茂る時代の遺物と謂はゞ言へ茲は名代の靈驗を以て心ある者を合掌せしむるにしくはない所である、眞逆其靈證が顯れたミ謂ふのでは無いが然し今大阪市視學の任にある、武本君を此地から送つた以上多少の因縁は肯定せねばならぬまい、

⊠……君が明治十五年五月近義村の豪農に生を享けた、而して不動明王の加護鮮かに何んの恙もなく育つて行つたが或夜密かに水間寺の椽に額づいて自から柔かな氣分に浸りたいミ無邪氣な願ひを草めた、誰知らう筈のない此の逸事は偶然なくも村の長老から洩れて謙坊の只ならぬ將來に注目するに至つたのである、

⊠……其の期待に叛かず彼れは雄々しい然も弱き者の爲めには熱涙を振るつて力添へをする性格を日々に練磨して行つた、小學時代の如きは最早泡沫の如く記憶を消されて居るが極めて明晰な兒童として教員間の話題に上る事幾度であつたらう、然し別段に机に嚙りついて居る様な努力をするでも無かつた、

⊠……君は其當時から小さき理想を抱いて居た、教へる者は教へられる者の心を呑み込まねば困るミ……泌々考へたのである、左りとてそれを小賢しく詮議立てする事が出来無い小さな胸にはいつそ一思ひに自ら教へる者に成つて見や

う……と決心するに至つた、則ち家人の意に叛いて斷然大阪府立師範學校に入學し三十七年卒業後進んで廣島高等師範の地歴部を四十二年に出身したのである、

⊠……年月は矢の様に流れて茲に謙坊から謙吉氏ミなる迄には既に三十年をけみして居る、其間の行路は陵夷交々到つて彼れの心を陶冶した、先づ學校出の新米は岡山縣私立天城中學校教諭の職で荒波の洗練を受け更に東區第二高等小學校長小松武平氏の首席訓導たる二ヶ年之れ亦曲折甚だ多かつた、去つて京都市視學に任じ居る事二年愛知縣師範に轉じ二年間切磋琢磨をしたのである、

⊠……其後大阪市の小學校に五ヶ年間勤務の後大正十年九月市視學に現在した君の學生時代からの特技は庭球である美事選手權を掌握しつゝあるのであるが運動類は曰く何んでも来いミある、殊に柔道は大東流の名手、迂濶に締められずは、助からない

### 電燈會社機械部職工 (其四)

久しく神職にあつて心身の鍛鍊をなしたのミ父から受けたよい血液の爲めに理屈は云はないが心身共に圓滿な發達を遂げた人である。『さうです。神職の方では靈様が常に宇宙を遊行してゐて人間の身體の何處かに無理があれば其邊に病氣をつける(御示しして)ミ云ふ様な事を申します、私杯も病氣になれば神様さうぞ悪う御座いましたから此處の處の御叱責を除去して下さいミ云ふ様な事を願つたりしたものです。然しコチコチに神道に固つてしまつて病氣ミ云ふものは皆宇宙の遊行神がこつついたミ考へる事はよくない事と思ひます。



視學

三橋節氏

⊗……妙義山の景勝を知て波瀾が嶽の奇勝を知らぬ人は未だ共に談するに足らず近年擡頭し世に知れたる名所にして土砂の柱簇立すが故也、彼れは會ふ人毎に此の警句を放ちて荐りにお國自慢を爲すは其故郷徳島縣阿波郡林村の附近に土柱矗立するに依る此天恵の奇勝は風化作用によりて生じたる攝理にして單純の科學的證明を加れば更に不可思議なし

⊗……然りと雖も脆き土柱がせめて天を際する態は當代の珍奇に價ひし間はす語りの奇蹟なれば苟も造化の妙に心醉する者は尙以て歎美と賞讃とを惜まざるものなり、君は此處に明治十九年一月元旦を以て生る生來思索に興味を有する三橋君の爲に土柱の傳説は夫れ幾何の好奇を啖りしものぞ常に親しく之を眺めて然も眞髓を究めんとは試みたりき

⊗……今大阪市教育部に大兵肥滿にして風彩堂々然も眼光炯々たるの士を見る、之れ則ち三橋君の現在なり、彼れは市視學として英氣を傾け市教育界の爲めに粉骨碎身の努力を爲しつゝある人なり、其謂ふ所頗る豪快にして理智に富み飽迄事理を抉剔して徹底せんば己まざるは特長と謂ふべし

⊗……鄙に育ちし節君が三千教員の監督に當る迄には然り純然たる奮闘史を過去に有せり、彼れは富饒ならざる農家に育ちて明治三十七年徳島縣師範學校を卒業するや先づ慈親の下に孝養を怠す寸暇を惜んでは好む所の哲學的思索を續けて益々練磨の歩を進め他日學閥に狎るゝ輩の聲旨を打破せん素因を築き遂に今日をなせり

視學

村田次郎氏

⊗……丹波の國綾部町は大本教事件から急に著名になつた、嘗にお直婆の立教的經過のみを注目すべきではない此の一帶の地は京阪の文化に蕩盡されぬ純な氣質を今以て漂はして居るのが何より珍らしいのである。宗教が裏日本に交渉が多いのも其原因であらう、交通不便も其動機であらう、然し傳來の郷土堅氣が儼として持續されるとの發揮する人々が宗教的であるのを忘れてはならぬ。

⊗……村田君は綾部の人明治十九年四月に生れ慈親の抱擁の下に強く郷土風を烙印されたのであらう純な性格には斷雲にも紛ふ可き慮外な策略はない、而して勤勉な調和的な精神には謙讓と克己の美德を靜かに貯へて居る、然も崇敬心強く根ざして宗教に對する憧憬と信念とを會つて棄てた事のない篤志家である

⊗……彼れは故あつて廣嶋縣に遊び明治四十年此處に中學を卒へた、而して同四十年四月東京高等師範學校に入り四十四年其本科英語部を卒へ大阪に來りて育英高等小學の訓導となつた、其後金毘羅尋常小學訓導兼校長に進み更に東區第一高等小學校訓導兼校長に轉じ大正十年九月特に選拔されて市の視學となつたのである

⊗……其常に好んで努力するものに二様の方途がある、彼れには先づ自己開拓の要諦として寡黙を賞美し讀書の修養を怠らない、殊に小供に關する文献の探索教育原理の研究には絶わざる努力を拂つて居る、時あつてか彼は滔々意見を



披瀝し微妙な然も活きた立論を試みるので重視されるが家庭的には自ら厳に持し社交的には抱括し且つ抱括されて行くに勉めて居る

⊗……彼には不平もあれば欠点もある、一家言を爲す迄眞價を養つても情實關係の現代は英志を伸ばすに甚だ不便であり且つ狭いあの蒼空を翹る鳥の如く思ふ存分飛んで見度い位ひの不平感に彼れの心中に植わすして芽ざして居るがそれより以上に教導方法が眞實に小供の自然律に異はすに行き度い……而して自ら其先驅を成さんとする抱負が不平なつて居るのである

⊗……此の芳志から迸る村田式の努力は蓋し將來永遠に續くであろう、欠点も特長も併せて茲に收めて行く彼れは遣る瀬なき心の闊ひは散歩に依つて慰めそれでも猶足らぬ折節には金盤の音やピアノの律果てはオーケストラの大韻の如き洋樂の妙韻に垢離をするのである、

#### 電燈會社機械部職工 (其五)

……から其様に考へず放つて置け今に癒る位に考へる方がよいのです」云つて誠に其様な事を云ふ人に似合しい顔をして居る。作らず飾らぬ面貌態度の所有者である。「私の先生は神道本局の〇〇部長です。京都での先生は修齋會の〇〇部長です」云ふ。して見れば彼の先生は相應に力のある人達であらう。信者の中に彼の如く幼少の時がら種々なる困難に遭遇して居乍ら暢々したそして能率の有人を見れば古神道の有難さを出はない譯にはゆかない。今は勞働をして居るが何時かは再び神職をする考である。中津の町にしては相當に賑かな道路に面してゐるから格子を取り除いて何か商賣を始めれば相應ゆけるのである。兩方やつてゆく考で目下計畫中である。然し彼の本當の心は田舎に引込んで盆栽なり野菜なりを作つてゆつくり暮したい云ふ考である。熱鬧の大阪に少し樂が効き過ぎる感がある。



視學員

### 八幡さきみゑ女史

⊗……和歌の浦波靜かに眠り弓張り月の影淡く傾いても名草の山は動搖みなく座つて居る、十年前も二十年前もそれは異りなき容裝であつた、夏來れば青鬢其處に燃え爛れ、冬訪づれて白衣纏ふ彌生の暮夜強い藻の香は風のまに／＼流れて來て秋は錦の此の天恵の景勝地に植へんとするは當然の勢ひであるが併し乍ら後年女流視學を生む所は神ならぬ人の知る由もなかつたのである、

⊗……八幡女史は漸く拓かれんとする此の地に明治二十八年七月十八日産聲を擧げ望月の光圓かに育まれたが今は大阪市教育部を色彩する女流視學員兼務の奈良女子高師助教授である……私の様な者に何が出來ませう教育界のお話などは一向駄目で御座います、それなのに皆さんが引き立て、下さいます全くお恥かしい事ですが然し考へて見るに凡ての期待を裏切つて迄逡巡するのも意氣地がありません、のみならず自ら恥ぢますから一生懸命勤める決心です

⊗……彼の女は飽々も強い謙讓の壁を廻らし自らを空しく乍ら與へられた運命に忠實ならんとして居る、偶々機會來つて女史を招ぐあらば九天の奥深海の底何づれば厭はず泰山の重き苦難も携けて邁進する用意は之れを常に練つて居るのである……人は各々持つて生れた星が御座ひます、此の運命の星を守つて行かねばなりません、私なきは教育に従事する様生れて來たのかも知れませぬ……と女史は流石に自信に生きて居る

⊠……今二十八の芳紀は無味乾燥の教育界それは凡ゆる弱者としての鞭を受けねばならぬを好んで闊歩して行くには餘りに妙齡であり而して痛はしい、妙くももう若い女の避けんとする荒海であらう、茲に身を投ずる者は鐵をも溶かす熱誠一切妄念を去つた鏡の様な信仰を必要とする。それは女史の既に性格とする所であつた、左なきに鋭利な腦漿は多年の篤學で不拔な珍光を放つて居るのである。

⊠……女史は天稟の才智を斯うして磨いた、始め和歌山市の小學校を今の尋常六年迄修め四十一年同縣立高等女學校に入り四十五年卒業後補習科に進み大正二年奈良女子高等師範博物家事部入學の上優秀の成績を以て六年之れを了へ直ちに研究科に就き七年三月卒業と同時に囑望されるまゝ母校の助教授となつたのである、而して十年九月大阪市の視學員として永井女史と共に時代徴象の一人となつた、

⊠……只夫れ丈けでは女史の半面である、其の他面には未婚の女子と云つた様な天真爛漫なデリケートの氣分を漂はせて居る脈々として柔かい肉をめぐる血潮は程よく調和された美貌を抱擁して若い魂を浮き立たしめる温容を備へ然も凛とした眼ざしには賢い者の徑象が溢れ出で、敬慕を購ふに充分な名實を併有して居る、そして己れを忘れて人の爲めに殉ぜんとする血もあり涙もある長所が発見される

⊠……女史の如きは朽ち果てた女流教育家の爲めに恰好の模範である、然も理性に鮮やかな脳裡は無暗に感情に捉はれんとする若きものゝよい手本となる、尤も神様でない女史には短所もあるが、それは好む所の手藝と時に生物學的の讀書に因つて妄念を一掃するのである、つまり之れも亦女性の爲めに萬丈の氣焰を吐きつゝある人と謂ふべきであらう



視學員

## 永井ヤス子女史

⊠……古代は情緒の發露より女を凝視し而して物件視した、従つて其の智的方面の能力をさへ否定して只惟れ男性のみ優先するものゝ如く振舞つたのである、男尊女卑を謂ふもの即ち一句を以て萬般を竭した形容であつた、然るに焉んぞ知らん性を超越して智能は割愛されて居た、而して天稟夫れく普遍的に性の差別もなく享受して居たのである、それは近代に入つて益々立證され現代に於て漸く男女機會均等が實現されたのである

⊠……大阪市教育部にも此の時代思想が齎した女流視學が二人發見される、其一人が即ち永井女史である……別段變つた経歴も抱負もありませぬが與へられた天職を考へて全力を注いで居るんですは女史が蕾の様な口から吐く平凡な氣焰である、油の乗つた豊艶な面ざしには今二十代の若葉が燃えて信念の赴く所百の障害も踏み破らんとする優しい強固な決心を物語つて居る

⊠……永井女史は若い身空を教育に委した篤志家である、獨身ではあるけれど無暗に宗教の權威を慕ひ求めるトラビストの修道院に居る人達は譯けが異ふ教育を天職とし家事を生命と信じ切つて活舞臺を切り抜けて行く人である、其の之れを破壊されるならば利鎌の様な敏銳な智と岩をも咬み砕く様な強烈な熱を以て我が學究を擁護せんとする女性である

⊗……若し拗ね者と呼ばねばそれは女史の信念堅牢な裏書に過ぎ無い、女流學究だから謂つて概括的に冷めた觸  
體の如く謂ふのは當らない、沖に瞬く漁火は故郷に招ぐ想ひもします、風薫る初夏の夜なごは砂地を甜める謎の眩きに  
浸つて見たいと思ひますよ花も好きです只散るのが惜まれます随分可笑しな事も御座いますし泣き度い時もあります  
と女史は語つて居る

⊗……女史は奈良女子高等師範の教授で市の懇請に應じ視學に任じて居る、明治二十六年四月二十三日和歌山縣に生  
れたが幼少の折りから父母に随つて靜岡市で育つた、理解力に富んだ彼女は附近賤機山や安倍川に遊んで早くも順良な  
成長を遂げ、そして小學校から女學校に進んで明治四十二年に卒業し翌年補習科を了へ四十四年四月に青丹よし奈良の  
郡に來つて女子高等師範に入學したのであつた

⊗……天才肌の彼女は未だお下け時代から群童に優つて居た、高師生徒になつてからも教授連が敬服する程學業は優  
良であつた、大正四年數物化學部を卒業後直ちに同校研究科に入り同六年之れを修了し擢んでられて其の母校に助教授  
となつたのである、超えて十年九月に至り大阪市視學員に兼任した事は既記の通りである、履歴に何んの波瀾はない、  
然し女史の努力は造詣遂ひに男子を凌ぐものとなつた 而して今度は歐米視察の途に上事となつた、

⊗……女史に就いて特筆せねばならぬ事は友情に厚い事である、會つて同窓の友が躓いて終つて教職を去つた時彼女  
は飽迄流れ行く者の爲めに力を添へて我身の如く之れを悲んだ、今日に於ても尙心を碎いて其幸福を祈つて居る、又繪  
畫に興味を有する女史は寸暇を割いてスケッチを忘れない而して優しい心の持主は訪人接客に溫容を相頷つのである

### 第十三節 社會部

#### 庶務課

社會部には庶務課、事業課、調査課の各課がある

庶務課は庶務係、計理係、救護係から成る庶務係は部員の進退、賞罰、給與其他身分に關する事項、公印の監守及  
部内の取締に關する事項、文書の審査及議案の作成に關する事項、慈愛、救濟其他社會事業の寄附に關する事項、  
統計及報告に關する事項、其他他の課、係の主管に屬せざる事項を掌る  
計理係は豫算の編製及管理に關する事項、決算の調査に關する事項、工事其他の請負、物品の賣買、人夫及職夫の  
供給に關する事項、物品の出納手數料、賃貸料其他收入に關する事項を掌る  
救護係は棄兒、迷兒及遺兒に關する事項、窮民及事項、弘濟會其他慈惠救濟團體に關する事項を掌る

#### 事業課

事業課は住宅職業兒童課の綜合したものである  
住宅課は住宅係及宿泊所係から成る住宅係は市營住宅の管理及經營に關する事項、  
市營浴報、人事相談所、實費診療所及理髮所に關する事項、其他住宅に關する事項、市民館に關する事項、市民の  
福利増進に關する事項、其他他の係に屬せざる事項を掌る  
宿泊所係は共同宿泊所に關する事項及簡易食堂に關する事項を掌る

職業係は紹介係及聯絡係から成る  
紹介係は職業紹介、労働紹介に關する事項、  
職業紹介所及労働紹介所の監査に關する事項、失業保護に關する事項を掌る  
聯絡係は公私職業紹介所及労働紹介所の聯絡統一に關する事項、其他他の係に屬せざる事項を掌る  
児童課は児童相談所、少年職業相談所、託兒所、乳兒預所及産院に關する事項、其他幼兒の保護並衛生に關する事  
に關する事項、等を掌る

### 調 査 課

調査課は労働調査調査に關する事項、生活調査に關する事項、其他社會的施設の調査に關する事項を掌る



### 主 事

## 里村安二郎氏

⊗……電車瀛車に乗りて貴旅的旅行を爲すは嫌ひ也 自ら剛健の氣を煽つて山野を跋渉するに如かずは君の常套語なり、君は如かく克己に富み精勵を行はんとする、故ある哉君の前半生は夫れ涙痕に因りて大半を蔽はる則ち明治二十年十月十五日大阪市北區南安治川一丁目に生れてより漸く小學を卒へるや先づ嚴父を亡ひ茲母の手に辛くも補習教育を完ふし、いざ攻究の門出を試みんませる十五才に至るや次いで其の母をも失ひき

緣者は在り兄弟姉妹一人も無く天涯無限の孤兒となりて、行く所思ふ如く達せず、想ふ所悉く行くを得ず、月夜蒼星を仰いでは乃父の愛を憶び、暗夜冷やかなる土を履むでは亦茲母の慕思切々たり花に醉ふ蝶にさへ聽ては悲痛の仇情け涙と共に昔を顧みる栞りとなり悲痛哀念深く君が頭腦に染みき、従つて實在に克ちて猛然奮起せずんば措かざるものあり  
⊗……君は茲に意を固めて境遇を支配すべしと爲し獨學勉めて遂ひに關西大學に入り法律經濟の諸學を學び明治四十二年卒業せり

⊗……始め辯護士を志したるも自家の事情甚だ纏綿し未だ其舉を許さざるを以て暫く會社生活を爲し傍ら制度及び社會救濟事業の研究を急ぎしが大正元年大阪市主事に招致せられ現在社會部庶務課長として天野部長を輔け市社會事業の活舞臺に手腕を磨きつゝあり

⊗……君資性温順にして人を敬し同情の美德を有し敏銳の才氣を以て克く雜務を處理す

山 口 正 氏

⊗……社會部が市役所に於て重要視せらるゝに至つて其尤も消極的業務ではあるが核子とも謂ふべき位置にあつたのは何んと云つても調査課であり事業課であつた、従つて之れが課長たるの人選には可成頭を痛めたものである。當時山口君は教育課にあつて一視學たる職に就いて居た而して事毎に非凡な能率を擧げて認められつゝあつたのである、一方人選は汝々として外部關係から拉し來らんし幾多の候補者に就いて考慮したが遂に市が要求する如き適任者を見出す事が困難中の困難であつた、然るに部長天野君は英斷を以て内部から好適な人選をすべく方針を變へ先づ第一着に白羽の矢を立てられたのが山口君である

⊗……斯うして山口君は他動的に選拔され現任社會部調査課長の要位に轉じたのであつた、其後幾轉回内部の改造行はるゝや君は其都度メキメキと重視され事業課長欠員の場合には之れを兼任するの勢ひである、夫れ只單に一視學の身を以て一躍社會事業の原動力なるべき事務に轉するのは甚だ失敬な申分であらうが六ヶ敷問題である、一は型の多い教育家で稍々監察眼を備へる職務他は之れ千變萬化一も常態なき世波に掉さして其機微を穿ちつゝ目的を達せねばならぬ云ふ職務である、無責任な者は原則を知る者は推理推論は可能である従つて視學なるが故に必ずしも社會事業の要位に失敗なく就任執務する事難しとは限らぬ、山口君の立場は獨占すべきもので無い何人も山口同様績を成すを如何せん

と云ふ、

⊗……多少の眞理はあろうが然し百人百色大同小異であるからには可能でもあり不能でもある、但し山口君の偉とすべき待長は現職其ものに甚だ適當して居る以上好適の士を何人にも求め得られるものぢや無い然れば視學時代から既に異常の社會施設に關する見解を持ち其誘導に一指針を與へつゝあつたのである、因つて現任となるや適材適所の強味から將た嘗人の欲する事務なりし故を以て猛然努力を傾け其豊饒な經驗を行ふに至つた、調査の如きも從前著しく小規模であつたのを君が献言宜しきを得八方に手を延ばし殊に勞働問題の方面には一段の光彩を放つ事とはなつたのである、

⊗……最近大阪市が躍然として社會事業に力癩を入れ全國に冠たる地位に進んだ背後には君が正鵠詳密な調査報告をなし隠に奮起のヒントを與へた結果とも見る事が出来るであらう、顧みれば大正七年始めて内務省の監察官來阪し市行政を監察した時市の社會事業は微々として揮はず、尤も貧弱なものであつた、爲めに當時主務省から特に此方面に意を須るる様示達されたのである、然るに大正十年に至り僅々四ヶ年間の裡には他の追従を許さぬ模範都市となり全國各都市は勿論内務當局でさへ大阪市を見學せねばならぬ様な立場に累進したのである、此貢獻は主腦部の劃策其宜しきを得た結果ではあるが特に山口君の手腕も忘れてならぬ記録である

⊗……君は大阪府下の人明治二十年六月泉北郡美木多村に生れ富田林中學卒業後廣島高等師範に入り英語科を明治四十四年卒業した而して更に京都帝國大學文學部に入りて大正四年社會學專攻を了へ文學士となつたのである爾來一ヶ年宛大分縣立竹田中學校、宮崎縣立宮崎中學校の教諭として奉職したが大正五年七月大阪市視學に視任し三ヶ年の後同八年主事となり社會部に轉じたのである、君は性温厚篤學の士運動を好み入りては社會問題關係の讀書三昧に耽るのだ



主 事

### 渡 邊 茂 夫 氏

⊠……市廳舎内に在つて老妾を提げ弱年にある人物は頗る多し君亦其一派に屬せり、接すれば既に四十歳を過ぐるが如く、語れば諄々老輩の如し若し人ありて初對面せば豈によく弱年を指摘するものぞ

⊠……君は滋賀縣甲賀郡岩根村の産、明治二十四年三月二十六日生れ未だ三十代の壯者なり、始めて居村の小學を終へるや深く慮る所あり家産亦豊かなるに乘じ膳所中學に入り四十四年卒業後直ちに京都第三高等學校第一部に入學、經政兩様修得の基礎を固め勉勵己む事なく常に成績を擧げて同窓に敬せらる大正六年卒業進んで京都帝國大學法學部經濟科生となり正規年限を終へて大正六年法學士の稱號を得茲に活社會に出動せり、始め貿易に志し神戸市に到り自ら輸出入商を經營、前後三年間健闘大ひに勉め開拓多々爲す所ありしが深く感ずる節あり飄然素志を換へ大正九年八月市に奉職す、現在主事に昇進の上社會部住宅課員の要位に在りしが、大正十一年四月退職した

⊠……君は齒は未だ若く圭角に富むと雖も尙良く抱擁力と理解力ミを具有して珍らしき性格を示現す、好む所を問へばブラツク事日を浴びて青草に轉び讀書する事は勿論猛烈に運動する事業を擧ぐ宜なる哉彼や滿身を持ち極端より極端を飛躍せんとする人なり



### 三 田 谷 啓 氏

⊠……人間は、有馬の山に咲く花の色こそ錆びね香芳しきは畑違ひの歌を捻つて逆襲する君の口すさみ也温容を包んで寡黙なる偶々以て訪人の爲めに木強漢の如く直感する、ミ雖も一度語を交へて瞬間を経へんか、遂に論理的確不拔なる言々の警句を吐き風發の談論は細大洩さざる論陣を張つて聽者を噁然たらしむ

⊠……然も明快の辯辯は其裡に限りなき信含み慈愛と親誼とを包含して益々旁人を魅惑敬慕せしむ、醫者にして自らしき篤行の上なり、殊に寸暇を惜みて凡ゆる方面の讀書を怠らず修養又修養連綿たる事一日の如く不斷の努力は爲し自ら超然たらんと試みる性癖を矯めて専ら俗流の清濁を併せ以て處世の針としつゝあり

⊠……君は兵庫縣有馬郡鹽瀨村の人、明治十四年九月一日一農家に生る、附近寶塚、武田尾及び有馬温泉等に育まれ温愛限りなき父母の膝下に長じて居村の小學を卒へ暫しは家庭の暖爐を圍んで冥目以て爲す所なく我が行く途を熟考せりき、然も其の中學に於ける各種學科等は獨學に因つて修得し郷黨を驚嘆せしむる屢々なりし也、

⊠……一夜月三更萬象靜り返つて聲なく山端にかゝる群星は爛々ミ下界を照し寂寥甚たし君紅燈を排して窓間に之れ眺め眠れる下界を誨へんには教育家のみ然りミ肯定せり、時に靜室を破る一聲の杜鵑血に啼いて飛來す、多情多感なる君の鐵腸は遂ひに敗れたり、即ち飄然ミ志を樹て病める者を癒さんミ深く決せり

⊗……爾來切々として勉學に餘念なく、大阪府立高等醫學校に學び明治三十八年卒業後約六ケ年間斯學を研磨し醫師として故山に聲名を博したりしが固より大望を有する君は更に四十四年より大正三年に至る迄英獨に留學し獨國のゲッチンゲン大學及びミュンヘン大學にありては醫科を專攻するに同時に文科をも修め歸朝す

⊗……其後東都に於て學究を續けしが業成り名を遂げて茲に大正七年四月大阪市醫員となり十一年四月退いた趣味を叩けば答へて曰く至つて無趣味なりと然も東西の醫學文學の萬書を繕いて釋然己まざる也

配 給 係 (其一)

船が毛馬の閘門を上つて新淀川に出るには水門を閉ぢて水を溜め、一段二段と上つてゆく。それで時刻の来る迄は船は悉く控所で待つて居る、控所には各種の和船が並んでゐる。船には主人も女房も娘も子供も居る。所謂十月小春日和の午後の陽が惜しがも無くその光を投けてゐる。船の下では小さい魚族が嬉しげに躍つて居る。それを釣る爲め六、七人の人達が釣を垂れる。釣れてくるのは目高の大きくなつた様な魚で美人の指程もない。鯛はらは溶ける様な魚である。それを釣つてやはり食ふのであらう。食ふに云ふよりは釣る事自身に趣味を持つのである。

船から陸に渡した長い橋板がある。それを傳つて女や子供も通る。コンクリートで固めた石垣の上にガンテキを置いて何處かで拾ひ集めたコークスの款を焚き、今や一人の女房が何かを煮やうとして居るのである。たしか十六鍋と覺しき鐵鍋をかけ水を注ぐと見る間に湯が沸きる。見よ側にあつた山の様な菜が煮物であつたのである。其の菜が片端から萎れてゆく。さしにも多量の菜も悉く鍋の中に萎れしまふ。

市立乳兒院長  
三野 裕氏

⊗……三野君は大阪市が新設した乳兒院の院長である、職業婦人や男やもめで然も二歳以下の乳兒を持ち生存競争に伍して行けない悲惨な逆境にある人々の爲めに之れを受託して幾分か救済をする……と謂ふ目的の乳兒院には尠くも人生行路の難關に親しく嘗酸した人が統御者でなければならぬ

⊗……三野君は先年名古屋に醫師開業中其の愛妻を喪つて乳房を求めて泣く愛兒の爲めに萬解の血涙を絞つた苦い經驗と耐ひ切れぬ哀傷を抱いて居る人である、従つて何により以上に此の種の實感に富んで居り而して同情の念に燃えて居る畢竟乳兒院長には最好適任者である

⊗殊に君は性來質實にして温厚極みなき素質を持つて居る、乳兒に對する慈父に房はしい所の内面を有して居る人である、醒めて泣く小兒の聲に凡てを忘れて愛護をせんと勉めて居る、泣き止む態を眺めても異常を氣支な柔かな感觸を備へて常に天職を完ふせんま心掛けて行く得難き人である

⊗……此の情緒の持ち主は一見粗野な風彩と威めしい容裝を有つて居るが、それで居て小兒の眼からは又なき慈父の如く魅して行くのである、君は香川縣高松市の産、明治十七年十一月二十五日生れで相當年輩の壯者である、比較的世事には馴れぬが専門とする醫術には同僚間に敬服されて居る

⊗……始の居村の小學に學び明治三十七年高松中學出身後直ちに大阪府立高等醫學校豫科に入り四十二年十一月卒業し茲に小兒科醫となつた、後ち大學令改正につれて當初の醫學士となつたのである、卒業後は同校の病院に勤務し四十五年六月懸望されて岐阜縣立病院内科副醫長に赴任、

⊗……大正三年同院小兒科醫長に累進したが翌五年には衆望已むなく去つて同市に開業した、そして非常なる信頼を博し隆盛を見たが月に叢雲花に嵐の皮肉は君の一家にも襲來したのである、八年に至つて令閨逝去の爲め自然閉鎖の悲境に落ち再び大政に歸つて育英小學校醫となりて精勵する事となつた

⊗其後大正十年に至り市立乳兒院の設立を計畫するに及び特に囑目されて其の院長となり現任して居るのである、君は園藝を好み、又畜類鳥類を飼育する事に趣味を有つて居る

配 給 係 (其二)

彼女は傍で魚を釣つて居る男に話しかける。「兄さんは何處ですか」「私は大阪です」「大阪云つた處で他所の者が多いですね、皆寄り集りですね。」向ふの船の上では十六七の少女が米を磨ぎ出した。子供が多勢平氣で舷で遊んで居る。川の向ふは城北村でボブラの並木が堤防に並んで居る君々は今開門の上に立てゐる。水が多くなれば木材を沈めて水を堰く仕掛けで其邊は自然に對して人間の示めした雄しき抵抗を見る人達の爲めに小公園の様に開放してある。淀川の瀬に棲む魚を料理する家もあつて風景がよい

彼の家は毛馬の開門から數町離れたロヤール刷子工場の附近にある。彼は〇〇〇組合長である

第三章 區 役 所

區役所には會計係及第一課第二課がある

會 計 係

會計係は收入及び支出に關する事項、現金及有價證券の出納並保管に關する事項、決算の調製及精算に關する事項、物品の出納保課に關する事項を掌る



## 第一課

第一課は庶務係、學務係、戶籍係、兵事係から成る

庶務係は區有給吏員、雇、使丁、給仕の進退賞罰、給與其他身分に關する事項、選舉に關する事項、名譽職員の資格及給與に關する事項、揭示に關する事項、褒賞に關する事項、慈善救濟及水難救護に關する事項、神社に關する事項、公印監守及廳内取締に關する事項、文書の收受、發送、編纂及保存に關する事項、統計調査に關する事項、物品の購買貸借及處分に關する事項、衛生に關する事項、土木に關する諸願届の經由に關する事項、其他他の主管に屬せざる事項を掌る

學務係は小學校幼稚園等の設備並學齡兒童の就學に關する事項、學務委員の資格及給與並小學校、幼稚園等の職員の進退賞罰、給與、檢定其他身分に關する事項、小學校教員其他の退隱料及恩給基金に關する事項、私立學校其他教育に關する事項、區會の議事に關する事項、小學校、幼稚園等の基本財産及積立金其他區有財産の管理に關する事項、廳舎、校舎及區有建物の營繕に關する事項、青年團に關する事項を掌る、

戶籍係は戶籍、寄留及印鑑に關する事項、埋火葬の認許に關する事項、民刑事處分の通知整理に關する事項を掌る  
兵事係は徵兵、徵募、召集、徵發其他兵事に關する事項、軍人軍屬の身分、恩給並軍事救護法に關する事項を掌る

## 第二課

第二課は徵稅係、督稅係、檢査係から成る

徵稅係は諸稅其他の公課の賦課徵收に關する事項、使用料、授業料、保育料、及手数料の徵集に關する事項を掌る  
督稅係は徵收金の督促に關する事項、滯納處分に關する事項、間接國稅犯則者處分並強制執行の立會に關する事項を掌る  
檢査係は徵稅及督稅事務の檢査に關する事項を掌る

## 南區長

## 高久 要氏

⊗……計理の觀念に富む者多々あれども凡そ華城公吏中君の如くの確密なるは珍らしい、君は實に先天的に斯道に長けて居る、然も理數學者の様に一局部を究明するのみで應用出來無いのことは譯けが違ふ、君の天資は敢て學者と比肩する程で無いが二天作の五を何處までも自在に應用を試みる所に他人の企起し得ざる微妙さがあるのだ、手取り速く言へば計數を基礎としたる處世術に獨特の技を編み調和と謙讓を以て謬り無き途を常に走つて居るのである、君が茲に於て先つ以て採算し、考慮した事には此の齟齬云ふ出來事を聽かぬ、概ね達成し又は遂行の途に就くのみである

⊗……斯くの如く高久君の長所は他山の石も尙我前裁に拉し來り自家の所用に供して終ふ點に發見される、而して強くて短所と言はゞ恐らく此長所を直ちに轉用する場合然りと觀るべきであらう、則ち明察余りに透徹せる君高久君は時あつてか恐るべき打算家と唱へられる、其數計の頗る當を得る點は遂に凡俗の解し得ざる高遠な域となつて矢鶴に非聲を注がれ易いのである、でもなんでも君の精神は夫れ不屈不撓の權化である、従つて窓外甚だ喧騒たりと雖も會つて願み且つ歎聲を洩らした事の無い男である、よしさらば斯くても人の噂やあるに低唱誦詠の裡にぬけ目なき第二第三の途を立ちどころに編み出して終ふ此の邊の銳氣なごは實に美事なものである、

⊗……君が現職たる南區長の地位は南區其ものが背向すれば實に七面倒臭い所で一朝若し機宜の措置を缺かば蜂然と

して群據する類論家が正面攻撃を敢てする區である而して若し又適當用意調ふならば忽ち衆議一夫を立てる所である、左れば曾つて區長たりし紫安新九郎君なごの如く地の利を觀じて自己の力を有効に用ゐれば直ちに立ちて代議士たるべく又實業家に區民は仕立て上げるのだ、然し反對に人心の收攬を謬るならば一舉にして廢黜せしめられる、即ち他なし男子力量を試みる金石の箇所と稱すべき一難關である、然るに高久君の區長たるや既に同區に久しいのだ、凡々たるの手腕や坦々たる資質であつたならば、如何に酒間低頭の藝當に魅すればきて、衆目の視る所夫れ一句を茶化されないのである

☒……宜なり君には却つて難關に處し困難に渡るべき充分な實力を保有して居る區内萬般到る所に其の英資が植ゑられて最早區民の信憑を一身に蒐めて居るのだ、只に君が、數理の途に通じて居るのみならず世相を透視し世間の波に棹さし乍ら一卷の煙草に越し方行末を鳥瞰立案し以て靜礁の危を除去し安堵の途に座する技能を有つのである、君の公的地歩は今や全く確立されて獨り南區に根強いのは無い、市政全體に及んで重鎮視されて居る、殊に池上市長の如く部下操縦に心を碎く人の下にありては益々本來の力量を盡す事が出来る状態なので前途頗る囑望されて居る

☒……君は大阪の人、年齢將に五十路を過ぎて居る、然も男子白髪を撫さずんば眞に大事を背負ふ資格無しと放言し笑つて年の瀬を失敬して行く、蓋し君の心底には我大事を爲すは近づげり囁いて居るのだらう、宜なり事毎に流決の裁斷あり精勵盡くる所を知らざる君は一歳半歳の去來の如き殆ど問題にならぬのである、寧ろ累年形を成して行く自治政の精華に凡ての苦難歎聲を忘れ去るのである、

☒……君は明治十三年以來大阪府の官吏として會計事務に従事し後市政實施に當つて初代の市長田村太兵衛氏の囑目する所より尙當時の知事菊池侃二氏の推舉を受け市役所に入つたのである、爾來三十年間市の會計其他重要事務に従事して居るのである、市の創業時代にあつては専ら會計並検査課長となり主務省の管下によく厘錢の誤りもなく事務

處理をなし流石綿密嚴重な主務當局も君の零屑にして確的なものには一驚を喫する有様であつた、其後經理課長となり著々經驗したが大正三年特に抜かれて北區長に進み更に現任南區長となつたのである、

☒君は之れ舊型の人である、而して新習識を培養した人である、崇神忠誠の點に至つては之れを古人の精銳なるに對比すべし論議材題東西に採りて歸納する所減多に壯者に劣らぬのだ、元來君の性格は唯心論者に近い其邊幅を飾らず世辭を用ゐるすす暇あらば冥想以て熟慮し常住座收悉く職務の一端を心がける當代稀れな公吏である、

配 給 係 (其三)

戸口には日本労働總同盟の支部、共益社購買組合出張所云ふ風に澤山の看板を並べて盛んな事である。彼は共益社の得意取配給を兼ねて働いて居る。

共益社の報酬は少ない。事務員で最高七十圓配給の方は五十圓平均である。今の處北區が彼の受持で活動して居るか得意を取るにしても購買組合の何物なるか、ら説明して掛らなければならぬので、全く苦戦である。妻君が子供を連れて市岡の親類に行つて居り、彼は未だ就職時間中なので家は鍵のか、つた儘いつ迄たつても誰も歸らない

彼の故郷は岡山縣和氣郡○○村である。彼が三つ許りの時に彼の父は家の事一切を弟に委せて大阪に出て来て、本町の木綿問屋に奉公じて居つたか何か天望を懐いて大阪に出て来たものらしかつたが彼の十五の年に亡くなつたので父の望の何物であつかは彼にはよく理解出来ずに濟んだ唯其内容が普通一般に云ふ金を貯へるさか云ふ様な意味のものでない。

西區長

池川大次郎氏

⊗……大阪市吏員中の尤も寵兒だ稱せらるゝ池川君は西區長の椅子にあつて恰も市に於ける全權使臣の地位にあるのみである、而して本廳の事務よりもモット繁忙にして苦勞多い所に重い責任を以て座して居る、此の方面から窺知すれば名ばかりの美辭に過ぎ無い様であるが併し主觀的に考察すれば苟も市長の延長である見様によつては全く全權である、加之、法定上の獨立區に區長たるは小さき市長と同様である、従つて例令事務萬端であつても其處に慰むべき、數個の事由が存在するのだ、殊に壹千に近き市吏員中に僅々四人だけ特拔されて占める區長の椅子は客觀的に著しく羨望を購ふものである、因つて池川君が今其の特選に座しつゝある境遇を見て寵兒と稱せらるゝは無理も無い話であらう、

⊗……勿論池川君自身から言はせるに必ずしも區長の要位に最後の満足を保存しては居無い、男子一度天地間に棲息す須らく史上の頁を飾らざるべからずの雄大な志操を寸時も忘れては居無い、謂はゞ其第一步を踏み出すべき區長の階段に立ちて彼れは尙一層深く案じ健固な歩調を思考して居るのである、斷じて小康に晏如たる男では無いのだ、君の意圖を知らぬ第三者が賞讃し羨望し昇下する域に彼れの魂はブラ付いては居らぬ、モツミ崇高な理想を描いて而して其處に下界の取沙汰を笑つて居るのである、だから寵兒なき、勿體らしく吹き立てる連中の低き着想と罪なき羨みとは彼れの目から見れば頗る當らぬものなるに過ぎない、

⊗……併し乍ら斯う云つて終へば池川君たる者甚だ超越し過ぎて莫然たるが如く想像されるが叙上の考ひは之れ彼れの内心深く秘められてある囁きであつて何人にも不可侵の裡に低迷するものである、之れを兎や角評したら問題に供する事は野暮も野暮大きな間違ひの種である、彼れの實世間に於ける態度は飄然として理想の深遠な域から脱却し來つて時代の趨く通り謬る所なく調和し添ふて行くのだ、従つて聞けば甚だ親しみ難い彼れの風眸も會へばシンミリ語り熱き握手を成し遂げねばならぬ様になる親密な而して通俗的な抱擁力を有つ濃厚の上で如才無い圓滿な紳士である事に三嘆するであらうそれが特に遽か作りのもので無い自然的に迸り出づるものであるから愈々以て感嘆の外辭も出ないのだ、

⊗……君は全體ならば故山の風土俗習に沁みて如何しても個人主義的傾向に陥るべき人である、四國の人間は猿に等しいと云ふ俗諺が示す通り君も四國であるからには何處にか其遺質を帯びて居る筈なのに全然蟬脱して其氣配が少しも無いのみならず全體的に各別に有する特長美點を一方で體驗した如く相對性の變化に順應し適當な開放を行ひ且つ和するのだ、型から謂ふに稍々茫漠たるタイプで要領を得た如く得ざるが如く掴み出せ無い男であるが、それで頗る要領を得て居る人だ、特に數へるならば細密至極の明晰な頭腦を有し新裝したボールドの様に何一ツ漏さず腦に刻んで居る、従つて外觀ハッキリせぬにも拘らず内面剃刀の鋭きよりもモット切れもし確實に用を辨せられて居る、

⊗……更に其非凡な行政的手腕に於ては臨機の措置に尤も長じ通常の立案施設の如きも圖抜けて特色ある怪腕を持つて居る、加ふるに一面政治的天才は閃めいて恐ろしい程斯界の搖動に明察を有し機微に觸れて行くのだ、坦々乎として遊行する瞬間にさへチンミ鳴ればカンと答へる周到な用意と覺悟を併有して居る、君の奇才は過去に於ても數次發見されて居た、現在に然るに其才能を實地に適用すべき地位である、焉んぞ埋木の如く藏し去り活用せざらんやである、而も外面此の氣配無く今昔の感あるなきミ唱へ出す者あるが此の黠ばかりは常人のみ之れを握り神のみが使途の状態を知

つゝみるのだ、

⊗……君曾つて高久君の下に雌伏し課長の椅子にあつたのである、而して平々凡々の裡に其特長を隠し通したさうである、高久君と池川君は今共に區長の資格者である、現職者である故に等級の差別や服務規律の規程に準據しても同一の關係である、往年曾つて存在をさへ餘りに印刻せず知られなかつた池川君が優に四區長中最大の信用を博し潛勢力を持するに至つたので當年の上司であつた高久君折さへすれば池川賞讃を試みる、彼れは當時から大東な所を見せた男だ其細心にして放膽な點と平然と構へ込んで事に臨む點は恰も將來を卜する様に見わた殊に人に接して調和し悦服せしめる能力に至つては面憎い程備へて居たものだ、

⊗……君は別段策略を廻らして如何する斯様する云ふ卑劣な所を持つて居ない只脈々たる熱血と滾々として盡きぬ情緒に因つて調和の洞察して行くのが特長である所から清濁併せて接したり語つたり提携したりするのである、多少誤解も招くには相違無いが池上市長の直下にあつて何んと言つても理解ある調和で成功しつゝある者は池川君であるから妙策を持つ者の如く曲解され又は時代の好運兒だを一括して總稱され易いのである、然し事實彼れは時勢の變化毎に至極妙計な途を辿り決して敵を造らぬ爲めにメキメキと向上し持て囃されるに至つた外何んの努力も拂はぬのである、

⊗……君は愛媛縣温泉郡南吉井村の人明治四年十二月生れ小中學を卒へるや四國を棄て、大阪に來り明治二十九年大阪市役所東區役所の書記となつた此れが抑も公吏となつた振り出しである、爾來三十五年市書記に任じ三十九年西區收稅課長となり庶務、第一課長等に歴任し大正二年南區の書記に轉じ第一課長に擧げられ翌三年主事に進み本廻舎に入つて經理課長となり居る事三ヶ年遂に擢んでられて大正五年西區長の現職に就いたのである、今や區民の信憑日に厚く區内の施政亦甚だ當を得名聲頓に鳴つて居る、

東區長

## 阪本重英氏

⊗……維新當面の開拓者たる阪本龍馬横死してより世間其逸事を傳ふる者少きは甚だ遺憾である、文化五十年の因縁は顧みて犠牲者の靈に深謝すべきもの多いでは無いか、然るに時の推移は凡てを葬つて聊かも心苦しめないものである、従つて龍馬に縁由多き阪本重英君を語るに故人の逸歴と功業とを録するとも何等直接の感覺や感興を呼び起さぬであらう、然し乍ら君は抑も出生に當つて既に此の因縁を以て生れたのである、世人がよしんば忘れ去つた所が叢資だけは洵に争はれぬ天恵として保有して居るを如何せんやである、君は龍馬育成の地たる、高知縣の人、明治八年十一月幡多郡佐賀村佐賀に生れ所謂四國武士の嫡流に人となつたのである、

⊗……君は今東區長の椅子にあつて行政的手腕を異様に揮つて居る、多くの市民は彼れを目して一種の非凡兒と畏敬して居るが別段贅者が語る様に突飛な偉人でもなければ常人の軌を逸して居る男でも無い、只完全に其所信を斷行し苟くも陰陽の別に従つて體用を變更せぬ純な執務壁に近い努力に羨望と恐怖とを感じる者は時に君の反對者となつて兎や角くと難辯をつける事となる、併し乍ら阪本君と雖も人間の域に拘束される以上誠に己むを得ぬ所である、一體君の偉大な點は人として將た亦公私人として各々所を得るにある、若し夫れ非排をする者の如きは自ら其然るべき區別を辨へぬ結果に過ぎ無い、之れを事實に觀る時は彼れや依然として名區長たる定評を握つて居るのである、

君の獲て居る現在の地位は必ずしも過去の努力に相當したる報酬とは言へない。君の人類的努力を修養は採算上から見れば是非とも官制上の三丁目一番地即ち奏任一等か或は勅任級の地位を捉ふる筈であつた。然も公吏生活に入つて未だ區長級に座するのは純理論から推しても變則にすべきものだ。君はそれでも敢て過去を語らぬ男である。自己の萬能を語つて誇らんとする者を極端に卑下すると共に亦自ら左様な失敗を嫌ふ従つて人あり君の逸材を叙して世辭せんか忽ち沸然として叱咤咆哮以て其不心得を詰る、却つて其短所を指摘し反省を求めんすれば破顔一笑之れを多しするのである。

俗に四國猿と稱して四國産の人士は餘りに捷敏過ぎる爲め偶々以て輕薄、狡猾の通有性ありし指彈されて居る阪本君が高知生れの故を以て或は郷土的疾患を連想されるから知れぬが君に限つて只に傲頑不遜な態度なきのみならず禮讓に富み深甚流るゝが如き溫情を無意識的に供へて居るのだ、殊に多年偏窮なる官界生活に馴れ其臭味を帯びねばならぬ君であり乍ら全く恭順賢々たるの状である、此の點は特筆大書して稱揚すべきではないか、でも一面に剛直なる素質を嚴守して居るので無遠慮に正邪を斷定し俗塵の忌憚を買ふ事もある。

君の相約は恰も小龍馬と言つてよい、其爛々たる眼光を見よ、其瘦々たる長身を觀よ、義烈面に顯はれ雄圖深く胸に藏す所がある、接すれば動搖監の如く訪人の心を親しめ説けば含到犀利理義を盡して整然たるの有様である、或人酒間に戯れて君の如き拉して市長たるの椅子を與ふるも可なりと、之れ一夕の座言であるが繰り返して味ふべきものがあらう、然し眞實的に君の性格から割り出したならば守成の人たらんよりは寧ろ幸に創業の人に適して居る、屢々心力を致し乍ら今日尙一區長の席にある所以のもの蓋し守成の壘城にあつては虚々實々の政策弄翫も行はざるべからざる現代生活に於て君の如く夫れ單行純白である結果である。

君は明治二十六年故山の中學を出で笈を負ふて東都に上り英語學校、法學院を卒業し三十年大藏省文官普通試

驗に合格し三十三年高文の難關をバツスした、爾來東京府、稅務署、專賣局關東民政署等に歴任後四十四年七月市に入り庶務課に勤務續いで翌年主事に選拔さるゝと共に商工課長となり大正二年南區長同七年東區長に轉じ大小となく市政各種會の委員、顧問に擧げられ今や君は市内外に重要な人物として囑望されて居るのである。

配 給 係 (其四)

世を救ひ度いさか、物の見方を誰も彼も自分の様にしてしまひたいとか云ふ宗教的の意味を含まないものだであつた様である。

何せ彼には其事がよく分らなかつたが父を一種神様の様なものに考へて居た事であつた。彼が八歳の時に彼の母が亡くなつて居る。彼は其後病んで父の處に居つても、行き届かないので故郷の叔父さんの處で治療して居た。當時はお祖父さんもお祖母さんも生きて居たので故郷では皆から可愛がられた。

學校北堀江の尋常小學を卒業したのみで。父が亡くなつてからは己むを得ず就職して刷子工になつた。兄妹としては姉が一人ある計りでその姉は故郷で嫁入つて居る。

最初働いたのは福島の大島刷子製造所と云ふ所であつた。「其後四つ五つ轉はりまして誰でもさうです」と云つて小兒の様に愛嬌のある糸切齒を見せた。最後に働いて居たのは西谷と云ふ刷子工場であつた。此工場では彼に對して特別に従遇がよかつたので全く働き心地のよい工場であつた。

## 田中兵太郎氏

☒……田中君の一斑を知るの名句はデカンショ節にあらはれたる一句である、理窟云ふ奴勝手にぬかせ後で拳固の雨が降るがそれだ、君は眞に處女の如く従順で而して遠慮がちで滅多に筋張つた談片を交さぬ恰も象の如くに第二人稱に對して行くのだ、然るに一度肝膽熱し理義に戻る如くんば俄然陣頭に起つて侃諤の論議を風發し火の乾原を走るよりも寧猛に奮ふのである、殊に其法理的論據に陣を張るならば敢てヨボ／＼の學究者流を一辯の下に閉塞せしむる勢ひである、然も極端に迄追窮する君の論鋒は其斷末魔まで敵を壓して亦忽ち救與の途を啓いて行るのだ、則ち敵にして矢折れ氣盡きんとする時之れを撫して慰めるのである、

☒……従つて初め處女の如く順しく終りは脱鬼の如く潔よい其論風は一部人士の恐威となり敬遠を招いだ感があつたことは言へ最後の美談を知る大多數の者には甚だしく敬服され歓迎されて來たのである、君が過去に於て只無暗な默念士とか又は正反對の好舌士とかに偏見されて居たのも實は各々片々の管見から來た妄斷で始終を一貫して通觀せぬ評に過ぎない性根を据つてよく君の一条亂れざる主義を所信なるものを顧みるならば茲に初めて君の全體が描き出される筈である、

☒……市廳舎内の君が會つて未だ一公吏にあつた時周囲は目して駭辯家とニツクネームを捧げ密かに論敵に廻される

事を警戒したものだ、そのみでは無い世間の波は事毎に名乗らざる迫害を君に加へた、所謂官公吏根性の忌はしき排斥まで君を中心に湧いて來た、それでも君は釋然として相手にならず孤軍奮闘大ひに勉め幾何ならずして之れを一掃した、殊に君が拔擢されて區長に擬せらるゝ利那偶々上司の目を覆ひ耳を聳せんばかりに遮ぎるものさへあつたのであるが君は一笑に附して却つて其愚を憐んだのである、果せる哉天に口なし人をして言はしむ君の手腕を眞價は伯樂の購ふ所となり東區長に進み現職北區長に祭り上げられた、

☒……それは大正二年である、君が萬論を笑ひ乍ら東區に區長となつて魂心一致大ひに經綸を行ひ區政を愈々整備し以て反對論者を共鳴させ遂に自家の讃迎者に化しにのであつた、爾來居る事五ヶ年間よく治績を上げ第一次池上内閣の左翼となり遺憾なく記録を始した、更に大正七年第二次池上内閣の樹立につれ北面して北區長に轉じ左なきだに政派關係の紛糾を致す區内の治政に君は突如として得意の辯舌を振り翳し乍ら無二無三に日夜辯詰論争を舊來頭株として介し勢力を張る連中の頭上に投じたのである、従つて一時蜂の巢を突いた様な騒ぎを演じた、

☒……君は而して我區則ち無事なり人に告げ私かに北叟笑んで居たのである、定見なき者や君を諒知せぬ連中は平地に波を起す愚者とまで指彈したが焉んぞ知らん赴任一句二句三日を経るに従つて流石猛りし反對論も更に影を止めぬ事となり田中君の言のみ曉の鐘に等しく澄み渡る概があつた、一夜君笑つて語るに實は抵抗療法を用ゐたのである、則ち群論雄を争ふ北區に入り君は身を挺して渦中に投じ勇敢に雌雄を決したのであらう、

☒……萬端夫れ斯くの如く君は達觀し行動するのである、之れを醫術に引例すれば名醫創を究めて投藥するものであらう、君の若い時代は一氣呵聲の裡に所信を斷行する風があつたが近年漸く圓熟し銳鋒を包んで衆議を誘導し自治政の啓發を一意専念として居る、

⊠……君は大阪府下豊能郡東郷村の人明治十二年四月産、常に敬神、尊祖の念群を抜き特に能勢の妙見に信厚し府下の小中學を卒へ法學を修めて明治四十三年九月大阪市書記となり大正元年主事に進み爾後今日の榮位に座するのである日常君は讀書に耽り故舊知新に身を變し藝なしに故語するも偶々寶生流の名手として費を博する、人間はど呵々大笑して塵紙奉書寶生の類ひに謙遜して居る、

配 給 係 (其五)

使用人としては僅かに十五人居た許りである。機械工場を丈け持つて居るにしては十五人は普通である。機械部のみにして見れば板部にした處が十五人位なものであらう。居心地のよい工場であつたが此不景氣で閉鎖してしまつた。刷子は何處の工場も今は悲境にある。ローヤル刷子も大分整理して居る。「刷子にバクテリアですつてそれは事實ではなく競争者の流言でせう。實際日本製の刷子は外國の刷子に比べるに粗悪ですから其様な結果になるのです。もつと職工をして仕事に興味を持たせて働かす様に考へて来るならば決して粗製濫造と云ふ様な事になりません」ミ側に居た刷子工組合の幹部は思はれる人が理屈を捏ね出した  
資本家が仕事に興味を持たせて働かせると云ふ方針は是非にミづて貰はねばならぬのであるが粗製濫造は職工が資本家は職工によつて儲けるに云ふ事を思つて居るので其結果當然其様になつて向るに云ふのは議論に大分ギャップがある。寧ろ現代の産業組織が消費の爲めの生産では無く賣つて利益を得るための生産であるが爲め最も多く利益を得る事を主眼とする様になるからである。

北區一課長

勝賀野康衛氏

⊠……北區第一課長たる勝賀野君は蓋し市公吏切つての粹人であらう、こればかりは愛娘愛妻にも未だ會つて披露した事なき隠藝として興到れば高貴親友の需めに應じて時たま出演するのみである、と云ふのは外でもない、其半禿の頭に事よせてヤドツコイシヨとばかり膝で歩き出しへタ潰れた恰好をし乍ら踊り出すのだ、名づけて南瓜踊り云ふ、これをこれ踊り出さうものなら變態様極めて滑稽異様で如何なる苦虫張りの男でも遂に吹き出し抱腹絶倒せざるを得まい我こそは天下唯一の苦手と思はん者は行きて君の南瓜踊りを見參するがよい、其處に失笑禁する能はざるものあるは夢疑はざる所である、

⊠……は謂へ君は粹人をもつて賣り出して居るのでは無い嚴格にして不撓なる然も大量な逸人にして通つて居るのだ、殊に更に圭角なき其性格は世故に長けた所謂自然的の圓轉滑脱なる態度はいたく周圍の人々に慕はれて城壁なく洒々落々の天真味は又以て人望を購ふに充分である、茲に於てか君の名が着々ミ持て囃され今や殆ど勝賀野の名は圓滿人士の代名詞の如く何人にも印象されるに至つたのである、君が男を賣り出して居るのは則ち此の方面から始つたのだ、  
⊠……君は高知市の人、明治十二年八月を以て北奉公人町に生れ早くより自由の思想を構へ他日の成業を期し寸暇を惜みつ、螢雪の苦楚を甘んじて嘗めたのである、當時は偏陋の地に於て昔名残の漢籍を懸命に修得し聽て長ずるや現代

に應じた修學を志し大阪に來りて自己の運命を開拓すべく努力した、先づ市の代用教員に身を投じ兒童教鞭の任にあり乍ら靜かに法律學の研究を遂げ明治三十四年關西法律學校を卒業し始めて堂々世間に乗り出たのである、差し當り彼れは市の雇となり明治三十七年市書記に任じ大正元年財務課主計係主任に擧げられ翌二年五月北區役所第三課長に進み營々四年にして同六年五月第一課長に榮進次いで七年四月北區主事となつたのである、

☒……越し方を數ふるは洵に雜作もない事であるが儘て其場に座して處するは甚だ難澁なものだ、君は公吏ミなつて既に二十有一年、回顧すれば朝露のこほれ去る様に淡き過去である、併し乍ら其間西に東に公務を帯びて經營努力した事は多大なもので印象深き事烙印を下したに等しいものがあらう若き血潮は悉く公務の爲めに捧げ盡したのだ、君に初老の齡ありせばそれは即ち思ひ出の種もなるべき形身である、然し第三者が思惑する様に彼自身は考へて居ないから面白い、君は書畫に興味を有し自ら彩管を呵して丹青の技を練り時に筆致の雄をもするので、而して一切衆生の俗想を斷ちて幽遠高尚の天地に心の洗濯を試みて居る

☒……蓋し君の温雅優秀の心緒は茲に源泉を發するのであらう、

#### 配 給 係 (其六)

消費は間接であり營利が直接目的である。其故當然最大の利益を收めんとするは粗製濫造が宜しく信用がなくなり會社に利益がなくなつたら止めてしまへば結局巨利を得るに至るので生産の直接目的が營利にある社會組織では同業組合等で如何に検査をしても到底粗製濫造を防ぐ事は出來ないのである。此原理を度外視して妙な理屈を捏ねて一座を説服せんとする論客の名を○○君と云ふ。○○君の議論を補なつて完全ならしむるこしたら資本家は勞働者を使ふ事を主眼とする



北區第二課長  
田村春高氏

☒……北區に第二課長として執務しつゝある田村君は大阪人には稀らしいタイプの男である、打算でなければ輕薄でも無い、只眞摯に事を勉めて表裏合致些の嫌味が無い人である、時にソーヤサカエのお國訛りを使つて相手方に肉薄し君にして此攻撃力ある哉驚異される事はあつても君の心裡は至極平和で單純である、腹藏する何等の刺が無いのだ只々卒直に單調に思ふ所を叙するに過ぎぬ、従つて交親厚きにつれ君の眞價は次第に現はれ來つて遂に人をして魅する迄引きつけるのだ

☒……左ればミ謂つて君の特長は何處にありと指摘する事は不可能である、總括的には一舉手一投足皆之れ美點ミ看做されるが分解して説明する時には座談も社交も一本調子で駄目、慧才異智の異彩も深く包んで顯はさぬから之れ亦量定すべくも無い、只併し乍ら合算すれば俄然群を抜いて調和し機能將に發して著しく偉大さが増すから不思議である、一體此君は寡黙沈着の人で猥りに己が藝能を語らざる勤直一點張りの型を持つて居る、談論熱を生じては主に理論の方面に材題を探り語れば即ち理路整然一糸も亂れざる構想の下に縷々數百言を列べるのだ

☒……君は従つて年と共に其逸才を認められ漸次重きを爲して行くのである、此君は過去に於て關西大學を卒業し法的素養を修めて居る、明治三十五年一月一月大阪市書記に任じ四十一年市彼所經理課計算係主任に進み同年十月北區書



記となり會計課長を拜命した、超えて四十四年十月北區收入役となり前後六年間よく任を盡し大正六年に至り第三課長同七年四月主事に任じ現在の第二課長となつたのである

☒……君は明治十年六月大阪市西區に生る、幼にして既に音樂的才能を有し今や月夜に渡る夜啼果ては星なき夜半に感切なれば撥を取つて四絃の妙音に事よせ……月がけ淡き武藏野にチ、テリシャンミばかり掻き鳴らし更に……音も無き夜に花散りてチテンチテンミ筑前琵琶を調べ名手の譽れを擅にして居るのだ、

配 給 係 (其七)

……故大いに使ふ。使ひぬいて勞働者が疲勞困憊する事を意としない。其故製品が自ら悪くなるまでも云ふのであらうがそれにした處で大體資本家は勞働者を使ふ事を主眼とはして居ないので此議論は到底屁理屈の範圍を出る事が出来ないであらう

彼は此理屈をこね其他二、三の來客に對して此二階は「我等の二階なれば碁、將棋は勿論腕相撲、座り相撲、其他何でも賭博を除く一切の事をしてよいのである」云ふ様な説法をなし『雜誌や本は何でもあります。持つて行つてお読み何なりと』と云つて座敷の一隅に積まれた數十冊の本の小山を指すのである。○○君の彼を批評した言葉に「彼はまだ若いですけれど忙がしい身です。彼は宗教上の立場に立つて社會を改造しやうとして居ます。年こそ若けれ總ての行り方が巧みです」云ある

彼は西谷の工場を罷めてから行くべき工場も無し共益社に働く事となつた。西谷では特別待遇だ



北區收入役

吉 川 浩 氏

☒……北區の收入役吉川君は寡黙力行の士である、謹嚴己れを保持して苟も狂噪駭辯を交換する様な事を嫌ふ點は何事にも新らしきを好む現代人から見れば變屈にも考へられるが併し固陋頑迷の故を以て君は斯くの如く處世して居るのではない、公私の別を明らかにし勤暇其別を嚴にする理想の下に謹嚴なのである、従つて冠を解く寸暇に訪づれば君と雖も笑腹をゆすぶりつゝ警句交りの戯談を連發し時に諧謔を以て談論を全部する事もあるのだ

☒……片意地張つて君の向ふに論敵となるならば容易に解きもせぬ其唇は眞紅に熱し聽て滔々萬言思ふ存分の談論を風發して當るべくも無いのである、誰れか君を指して無言居士と謂ふ、君は無言が性來ではない自制の一針として居るのだ、興到れば忽ち通曉する所の古記昔文を引例としつゝ立論確たる據を構へ乍らジワリ／＼と語り出すのである、無暗に洋式を真似る發聲は殊更國粹的鼓吸を試みる、而して口を開けば敬神尊皇の大義を前提として民必の醇厚を劃策し懲懣するのである

☒……君はかくて次第に同僚から上司、上司から一般に信望を博して今は押しも押されもせぬ強固な地盤を築き上げて市吏員中に益々重きを爲して行くのである、此君は過去に於て兵庫縣の收稅屬を明治二十年に勤めた超えて二十九年四月神戸市役所に書記となりて數年間勞を献け三十四年六月大阪市書記に轉じ四十二年五月北區役所第三課検査係主任

に擧げられ大正六年收入役の現任に進み同十年四月北區主事となつたのである。其任にあるや悉く明晰なる頭腦によつて裁理し殊に秀ひづる所の數理的觀念を絞つて完するので此の過誤なきは勿論事務の新規軸を試みるので鋭才を推されて居る

君は兵庫縣明石町の人、明治四年十二月生れ、志操強固にして不屈不撓の好吏員である、

### 配 給 係 (其八)

.....解雇の際手当等を要求する氣にはなれなかつた。共益社に入つてからは上述の如くである

彼は刷子工組合の事務所に居るから家賃等の心配は要ら無い。刷子工組合は二階五疊半に二疊廊下を隔て、三疊下四疊半二間に二疊云ふ間取で階上は事務室階下は住居に當てられて居る。大きな玄關があり二疊が玄關の間で其處から直接二階に上る事が出来る様になつて居る。路次の行止りにあつて新築で理感的な事務所である。家賃は月卅圓である。此邊の土地は非常に乾燥してゐる方である

彼の家族は妻君ミ子供二人で五つに三つ。上が女で下が男である。妻君は何も仕事をしては居ない。一時刷子の方をして居た事もあるが子供が二人になつてから其様に働く暇はない。家計の方は共益社からの五十圓でやつてゆけない事もないが其他に二三十圓位の收入がある。これは賀川氏や村島氏から原稿料だと云つて送つて來るものでパンフレットの編輯等に手傳ふからである



北區主事

## 小林伊之助氏

君は兵庫縣多紀郡篠山町の産即ちデカンシヨ節の本場で鍛へ上げた人である、其の生命迄も打ち込んだデカンシヨの唸りは書生流の惡い響き異つて田舎情緒の纏綿たるものがあつて洵に心絃の與底までも餘韻を傳へるものである、君自慢の聲樂を注いでお國獨特の歌を聞く事は全く破天荒な場合でなければ求められぬ所である、虫も殺さぬ自制で君はナカ／＼其妙韻を頷たぬからだ

併し乍ら一度醉漸く其心根を動かせばドッコイとばかり腰を下し尤も得意とする所の觀世流の仕舞狂言を試みたり銀盤に玉を轉がす様な通る聲で淨瑠璃を演じ黒人筋さへ目を廻す藝を發揚するのだ、デカンシヨなどの俗謡は自ら卑下し去つて殿上人の事を第一線に置き而して興を添へるのである

私人の立場では君が斯くの如く香氣であり且つ打ち解けて居るが然るに北區主事庶務係長の公人としては頗る嚴格である、君は苟も公務の一微細と雖も全力を傾注して處理するのだ、固より犀利な頭腦の持主である君は明快な判断力を添へつゝ、雜繁多忙の裡にもよく始終を謬らす機宜の措置を執る人である、従つて將來は更に一層重用される器に推されて居る、

君は明治八年一月生れ小中學を故郷に學びて後明治三十二年北區書記に任ぜられ四十四年第一課庶務係主任となり大正七年係長に進み十年四月主事に榮進して現在に至つたのである



北區主事

### 小林壽夫氏

☒……北區役所の學務係長たる君は廣島縣芦品郡綱引村の人である、明治十八年十一月生れ早くより故山を後にして京阪の地に人ごみつたのであるが他郷の空に努力する爲め多大の苦心を拂つたのだ、つまり君の全幅は知る人ぞ知る克己に充たされて居る小規模乍らの立志傳を描いて居るを謂ふべきであらう従つて人の喜怒哀樂に對しては直覺的に同情を持ち後輩の引立てを心懸ける奥床かしい所がある

☒……君は苦心慘憺の末漸く活路を得て關西大學の前身たる關西法律學校に學び法制經濟學を修めて明治四十年卒業し直ちに第二回大阪府書記任用試験に應じ之れに合格して則ち市吏員とはなつたのである、而して北區役所に勤務を命ぜられ既に十有五年間に及ぶので各方面の事務は殆き通ぜざるもの無いのだ、殊に學務に至つては區内各小學校の實狀に詳かであるのみならず情實關係を悉知して居る爲め尤も圓滿に之れが運用指揮をして居る

☒……君は尙壯年有爲の士である、性來持つて生れた突撃的精神は今尙油然として充實し來るべき雄飛の時を靜かに待つて居るのだ、それで暇さへあれば制度法令に關する讀書をなし私かに修養を怠らぬ、それでも誘ふ者あらば碁盤に向つて強手の本領を發揮したりする、酔ひば突飛な席上俄踊りや雁治郎の聲色を發して一座をアツミ唸らせる乙な半面を持つて居る



北區主事

### 四方楯吉氏

☒……今時の若い市吏員こそ自由だとか權利だとか理窟ばかり謂つて少しも事務に精通し無いが乃公の腰辨入門當時は理窟なき抜かす者は一日も辛棒出來ない程左様に嚴格であつた而して順な代りには實に恐ろしい程精通して居たものだ、従つて不良性を帯びたり人の陰口を叩いたりする暇があつたら上司に見習つて精々事務に勉勵したものだ……さ今昔の感想を述べる君は今北區役所で活字引と迄稱へられる人で戸籍係長の要位を保つて居るのだ

☒……君が三嘆する如く往年の青壯年は未だ順なもので西向け東へ進めの命に従つてドシドシ、働かせられても一切の不平を口外せぬ姿であつた、然るに今日の人は進むべき途、行ふべき事柄を等閑に附し乍ら偕て第三者又は上司の注意を受けるに忽ち沸然と色を成しヤレ壓迫だの酷だの横暴だのさ先方の悪口ばかり稱へ出し自家の非を衍はんとするのが頗る多いのであるだから仕事の能率も餘り上がらぬのが普通である

☒……四方君は今尙從順なる事鬼の如く努力する事蟻の如しである、一切の不平を奇麗サツパリ水に流して相も變らずコツコツと事務に従事して行く、其處に人知れず樂を享けるのだ實に吏員に生れて吏員で死する體の人である、君は明治二十年當時の大阪府北區役所に奉公して以來營々三十餘年間一日の如く孜々とし、全力を注いで來たのである、小理窟や小不平を列べて居たら到底君の様に長く勤まるものでない

☒……君の趣味としては更に何も無い孫や小供の手を引いて散策を試みる位ひのもであらう君の生地は然も打算營利の激しい大阪市高麗橋である、有爲の青年として彼れは一公吏に甘んじた如きは蓋し何人も之れを真似る事の出来ない所であらう、君は明治四年生れ本年は初老の齡であるから思慮分別の盛んなる點も供せて列記したい、而も君の謹嚴温厚の容を以て一つ只一つ破天荒な藝があると謂ふのは君元來少量の酒は飲む酔ひ來つて人吟すれば忽ち茶目踊りをやるチンチリチンの音につれて

月が重なりやお腹が太る……か何んぞか手眞似足眞似實に骨の稽なるものだ

配 給 係 (其九)

それは私用には使はず公の事に用ふる事として居る

『旅行なんかは好きです。よくお染久松の墓などを訪ねる事があります』と云つて例の笑ひ方をする彼は幼い頃から文藝に興味を持つて居た。日本の文學史に現はれて居る竹取物語だとか源氏物語だとか云ふものは悉く讀んだ。其趣味で近松物等も讀んだのである従つて休暇等には是等の遺跡を訪ふ氣にもなる。芝居も活動寫眞も共に好きである。活動寫眞を好きだと云ふのは高尚な趣味を持つて居る彼にしては一の矛盾も見られる。『場面がいゝではありませんか。西洋の婦人が景色のよい處を悠々と歩いて居る處だとか西洋人の衣食住の具合がよく分る點等唯そのシーンを見るのです。全體としては人の穴許り探したい私の眼から見れば缺麗だらけのフィルム許りです』音楽も美術も共に好きである子供の教育については出来る丈け許りでも何も考へぬ

北區主事

杉 村 義 氏

☒……大阪市東區役所第二課長として其名既に高かつた氏は奈良の産、明治六年九月高市郡高取町に呱呱の聲を擧げ明治二十七年三月奈良縣師範學校卒業爾來幾星霜を経て現職に在り彼れは聰明伶俐にして温厚謹直の人々の長としては最も適當の性格を有し其の才幹に於ては將來尙益々發展の餘地あるを窺知せしむ、相當學者的鑑識にも富み部下を統率するに最も適任者である、

☒……彼れは明治二十七年三月奈良師範學校を卒業するや直ちに同縣高市郡白樫高等小學校の訓導たりしが時偶々徵兵適齡に達し検査に合格して同年六月一日六週間現役兵として歩兵、第九聯隊に入營し翌七月一日除隊し成つて歸郷し同二十八年同縣葛上郡南郷尋常小學校訓導に轉じ同二十九年九月同縣葛上葛下忍海郡書記となり同三十年四月北葛城郡書記に輕じ同三十五年六月奈良縣屬に轉じ同四十二年五月依願免本官し成り同年六月來阪し同月十四日大阪市南區書記に任用され第三課検査係主任となり同四十三年十二月更に第一課長に榮進大正二年四月大阪市東區書記第一課長として就任同三年十一月陸軍の特別大演習に際し特に選ばれて委員に抜擢され同七年四月第二課長に轉じ大正八年八月大阪近郊にて舉行されたる陸軍特別大演習に際し、特に又選ばれて委員に任用され同九年十一月第二課検査係長を兼務して今日に至れり

⊗……彼れの性既に温厚謹直なるだけに其の趣味も又、常人と異り彼れは常に書畫を好み書畫陳列會等の催し事毎に如何に遠路にても態々出かけ其の書畫の觀賞を以て何よりも樂し味となして居るが其中にても就中南畫を好み氏の書齋の四壁には幾幅かの南畫が懸けられてある此の一事のみにも彼れは如何に書畫を好めるかが窺ひ知られる

⊗……君は大正十一年四月北區役所第二課長に轉じたのである、

配 給 係 (其十)

結婚したのは彼の廿一才の時であつた。故郷の叔父が「彼が亡くなつたからには一刻も早く妻を娶つた方が宜からう」と云ふので徴兵が不合格と知れた時に早速貰つた。徴兵を免れた原因は彼の極度な近眼にあつた。其後二人の子供を擧げたのみで一族は悉く健康である。階下では彼女と二人の子供が夕の膳に向つて居る。〇〇君は粗製濫造の原因に關する氣焔をあげた後一向元氣は無い。晝の疲れが出たのであらう。小さな机の上に這つて伊勢鰻が兩手を擴げて魚屋の店頭に客を待つ時の様にしてスヤ／＼と寝て居る。

座にはもう一人。年格好三十五六の同人が居る「あなた労働問題を研究して居る人ですか。一體結局ギリ／＼の處如何様になればよいのですか」「私は勿論私個人としての考ですが、各生活單位が圓滿完全はる生活を營む様になれば自然に労働問題も社會問題も解決出来る事と思ひますね其意味は一の工場について云へば資本家労働者共に一體となつて。則ち戰時英國に發達した工場委員制度を徹底せしめて資本家も労働者も一樣に利益の分配に與かる云ふ様にした。



東區主事

中條熊次郎氏

⊗……大阪市東區主事第一課長香川縣の産、慶應元年六月小豆郡北浦村の士家に生る槍一筋の家柄だけに流石事に忠實、其の資性殊に清廉現代稀に見る高潔の士で有る、幼少時郷黨間に於て神童の名を以て誦はれ先輩よりは亦常に前途何事かを仕出かす末恐ろしき少年として等しく其の前途を囑望されて居た、或時は少年にあるまじき言辭を弄して村の諸先生を驚かす等實に才氣に満ちた少年であつた、彼れは一生斯かる四國の一僻村に朽つるのを早くも惜しく見て取り稍長じて來阪し明治二十二年十二月一躍して大阪市北區役所學務課長に任用され爾來年月を重ねて今日の榮位を贏ち得たるもの……

⊗……斯くの如く彼れは來阪後程無く學務課長に榮任して早くも世に其の頭角を顯はす、彼れには霸氣あり、氣慨あり、意氣に富み、殊に高潔の志操を抱く、常に力有る雄辯を弄して諍々の議論を上下するが故に一見して圭角に富める野人の如けれ共其の實情甚だ優しくして親族故舊に厚きのみならず後進にも深く同情して誘掖指導に努む、彼れは權勢を恐れずまた富貴に屈する所なく男性的眞骨を發揮して事に當る珍らしき快男子である

⊗……彼れは明治廿二年十二月北區學務課長に就任後同三十九年一月庶務課長を兼任し同四十年一月淀川水害豫防組合創立委員に抜擢され四十二年五月北區役所第一課長に榮任し同年十月第二課長に轉じ大正四年十一月市區境界調査會

書記となり同七年四月大阪市東區主事第一課長に榮進し同八年八月特に選定されて陸軍特別大演習委員となり今日に至る、

配給係 (其十一)

工場を經營するやうにして行けばよいのです。其事は何も横斷組合をして存在の餘地無からしむるものではありません。市役所等だつて同じです。一の生活單位である以上は市長様の年俸のみ多く下々が瀕死の状態であつては如何に市政が立派だと云つた處で一の生活單位として觀察する時は立派とは云へません家族に見ても主人が酒を飲んで威張る子供は胎毒でグチャ／＼になつて居る。主婦は萎び果て、居る様では悲しい次第で。人間は一の生活團體に屬する以上其團體の主腦者によつて生活の保證を受くる當然の利益を持たなかつた。なら其生活團體は咀はるべき團體です。此議論は人々を感動せしむる事は出来なかつた。彼の男は矢繼ぎ早やに委員會制度はあれは失敗だつた。何で今の世に資本家と共同して一の工場を立派にやつて行くなきが出来るものかね。資本家は我々を犬馬の類と見て居るのですよ。温情主義によつて豆腐のオカラを食はして置けばよい云ふ思想の所持者ミ握手しやうとした愚なる計劃は見事に失敗した。全く諸等の爲めに利用せられて奪い我等の首は益々彼等の土足によつて……」云つて吼え立てるので茫然として誰の朦朧たる醉顔を見守るより他に仕方がないのである。

東區主事

室井肇氏

⊗……東區役所第二課徵稅係長、明治八年十一月岡山縣勝田郡公文村に生る、彼れが幼少の頃は未だ規則的統計の立つた學校の設備無く彼れは所謂當時の寺小屋式學校に於て諸學を學びたるが翹ある鳥は飛ぶの筆法稍長するに従ひ中國の閑村に埋れるの惜しきを知り單身笈を負ふて來阪獨立獨行の竟を固うして勉むる事日夜營々ミして勵む事益々強く漸く明治三十一年十月陸軍二等書記と成り爾來幾星霜の艱難辛酸を嘗めて漸く今日の榮名を贏ち得たる苦學力行の士である。

⊗……彼れは眞面目である何事にも謹直である、故に彼れは事務の人である才幹の人である統御の人である故に彼れは統御者として人の長たる可き有資格を先天的に與へられたる人で區役所の係長としては恰好の適材者である、彼れは才氣喚發の人にはあらざれ共勉勵、努力の美德を有するのみならず左右是非黑白を鮮明にせざるが故に必らず他と其の調節を保ち一歩々々必らず成功の域に達す、術數を弄して一時に大功を樹つる怪腕なしと雖も其の代り何時まで經つても他の如く失墜凋落の逆境に立つて嘆聲を洩す様な事は無い、威重有り讀書力有り東區役所内に於ける重鎮として稱す可き人である

⊗……彼れは明治三十一年十月陸軍二等書記に任用されてより同三十三年四月普通文官の試験に及第し翌年三月稅務屬

成り四十二年四月依願免本官に成つて同時に大阪市東區役所に入り第二課検査係長に任用され大正九年四月第二課係長に轉じ大正十年四月大阪市東區主事に累進し爾來今日に至りたるが温厚なるを以て専ら其名廣し

☒……彼れは常に酒を好み時折り大酒を浴びて時々微吟を弄し同僚をして彼れにして然るかと思ひ驚かしむる事あり彼れ常に人に語りて曰ふ自分には酒以外何者も友なし我興を助くるものは只之れ酒あるのみ其時には斗酒尙辭せず酒豪を以て亦同僚間に名あり

配 給 係 (其十二)

日本労働總同盟を以て團體交渉權の主體と認めた。今後は皆團體交渉權で行く可し』と昂然たる意氣を示めし。一杯づゝを客に薦める。

彼はニコ／＼して人々の話を聞いて居り『私は總て御調査の對照に於ては變則な者でして早く妻子を持つた事杯も其れです……』なんか云つて人を笑はせ俄に居直つて『〇〇〇貴族的不良少年少女の巢になつて居ますね。何時かは自分等のものとして利用出来るやうに……貸しません。貸さぬ理由はない天神橋筋の貧民共云へば我々でせう。我々が利用出来るなんて』と云つて悲憤を始める。

彼は朝日新聞を讀んでゐる。毎日と比べて思ひきつて書いてあると云ふ。天理教並基督教の説教を聴きに行く。別段に宗教信仰者ではないが。同志からは唯心論者として宗教家の様に云はれて居る。其意味は彼の意見は宇宙の本體は意志で。總ての生命は永劫に完成を求めて努力して居る

東區主事

廣 岡 彌 氏

☒……東區役所内に居る第一課兵事係長廣岡君は徳島の産、明治六年美馬郡岩倉村の槍一筋の家に生る、豪放磊落の性、常に意氣宙天を壓するの概あり頗る男性的面白き快男子である、彼れを見て直ちに想起するは維新の元勳大西郷で其の語る處行ふ處總て是に大西郷の如く元氣潑瀾して言外に溢れ眞に古武士の風ある快活な士である一面斯くの如く磊落にして小事に拘泥せざるが如く見ゆれ共決して然にあらず、小心翼翼として寸分の事にも氣付き萬事に於て遺憾なからしむ實に先天的と稱すべく珍らしき氣質を備へたる人である、又篤學にして閑暇さへあらば其の研究を怠らざる事は既に萬人の等しく認め居る所時には輕快流暢の辯舌を以て聽者を心酔せしめる事度々あり云ふ、又彼れは人の如く殊更に手柄顔して何事をも自己吹聴せず術ふ事無く虚心擔懷平然として澄し込み飽迄男性的眞骨頭を具有し毅然として侵す可らざるものあり

☒……彼れ今や漸く老期に入らんし其の意氣亦既に老いんとするものに似たり雖も本人の彼れは容易に老いず考いて益々旺んに現代の青壯年を凌ぐもの多々あり前の意氣尙宙天をまし弱氣有り氣概有り膽力有り元氣有り今尙ほ時に豪壯氣を負ふて青樓に登り簾を捲いて大杯を傾け眼中古今の英雄豪傑を空しうする事度々あり云ふ、

☒……彼れは明治四十一年九月裁判所書記登用試験に合格し同年九月大阪市東區役所書記に任用され同四十四年六月

第一課庶務係主任に榮進し越つて翌年二月第一課兵事係主任に轉じ大正七年四月第一課兵事係長に累進し大正八年八月陸軍特別大演習に際し特に選ばれて委員に抜擢され爾來今日に至りたるものなるが兵事係は彼れが最も得意とする所である、

配 給 係 (其十三)

障害は生命完成の條件である抵抗によつて我々の魂の躍進を見る我々は總ての魂が完成する事の出来る様な社會を出現する必要がある。ミ云ふのであつて彼は勞働運動をする人と見るよりは社會革新の運動家である。「過去の總ては宜しかつたが、よりよき社會を創造せねばならぬ」ミ云ふ彼の口吻にはさうしても宗教家の様な處がある。然し生命の本質力の本源。靈魂とは何ぞ、自己とは何ぞミは云ふ様な生々した本質問題については徹底的に突き進んでは居ない。センチメンタリズムの赴くにまかせて清く美しく此世を歩む美しい人である。尊敬して居るのは賀川豊彦氏と西尾末廣氏である。

東區主專

山本直太郎氏

☒……氏は東區役所に居る第一課學務係長で初め市の雇ひとして任用され爾來幾多の辛酸を嘗めて今日に至りたる努力の士、氏は愛知縣の出身、縣下よりは往古戰國の世を征服めた織田信長不在世の英雄豊臣秀吉徳川幕府三百年の基礎を樹立した徳川家康等の諸雄等が出でたる地、氏は明治十年九月額田郡岡崎町字康生に始めて呱呱の聲を擧げ稍々長じて單身笈を負ふて來阪明治三十一年十月三十一日大阪市雇ひに採用されしものだが才氣全身に横溢せるの人物、彼れにして今日の榮位を贏ち得たるは偏にその才氣の稀觀なりしが爲めにして一面亦其の裏面には人の知らざる人一倍の努力修養の在りし事を看過する事は出来ない氏は亦常に讀書を怠らず、閑暇有る毎に書齋に埋れて新智識の收得ミ智見の啓發とに努むる事を忘れられない

☒……氏は更に議論の人、一たび物の黑白邪正を判するに當つては實に談論風發、滔々懸河の辯を弄し或は肺腑を抉るが如き皮肉諷刺を列べ立て徹底的に論結し時として上下吏員をして只啞然たらしむる事あり、一面論客の評あるは實に宜なる哉で有る、然りミ雖も彼れが平常を見れば謹直の人沈思默考にして一面腹黒き吏員の如く見ゆるが斷じて左にあらす執務上に於ては眞摯なる考慮を有し動搖せざる決斷力に富み寄託に背かざる信義ミ責任に對する大なる信念を有して居る我東區役所に斯る學務係長の在るは大いに他に誇る可きであると同時に我大阪市民の大いに意を安んず可き



幸福な事である

☒……彼は明治三十一年十月大阪市雇に採用され同年十二月書記に進み同三十五年十月會計係出納係となり同四十一年十月大阪市西區書記に轉じ同年同月會計係長に榮進大正二年四月更に轉じて東區書記に成り收入役に任用同七年四月收入役を解かれて第二課稅係長に累進し越えて同九年三月大阪市東區主事第一課學務係長となり今日に至りたるもの實に立志編中の一人として數へらる可き人である、

☒……彼は東區役所内に於ける酒豪、斗酒尙辭せず非ずして石酒尙足らず飲々牛馬の如く大酒し人をして呆然たらしむる事あるが流石は三河武士の血を享けた快男子である

#### 消防組合事務員 (其一)

彼は〇〇社で夜の十時頃迄仕事する爲め十時頃でなければ歸らない家は妻君と五つになる男の兒で淋しく暮して居る第一日曜と第三日曜は休みであるが彼は勞働者のお日様を開展し出さうとする勞働運動家であるから。雨が降るとか風が吸く云ふ様な呑氣な事を云つて遊ぶは譯にいけない妻君は背の高い品のある人である。「宅は何時も十時、十一時にならないれば歸りませんからお待ちをお願いして……も造船勞働組合は樋か向ふの赤い火のついて居る處だと思つて居ます何も分らなかつたのですが此前宅が拘引された時に方々歩きましたので少しは分りました本都は西野田にある様に聞いて居ます」云ふ。



東區主事  
三木菊治氏

☒……大阪市東區役所の老收入役として既に名あり、香川縣の人慶應二年十月三野郡吉津村に生る幼少時神童の名郷黨間に傳へられ稍長じて單身笈を負ふて來阪、明治二十八年二月大阪市東區役所書記十一級に任用され星霜を重ねて辛苦難艱、今日の榮位を贏ち得たる人である、其の間實に二十有餘年一日の如く雨の日風の日彼れの〇の憤まし氣な姿を見ざる云ふ事無く東區役所の活字引は既に定評の有るころ、又其の長年月未だ一度として喧騒を極めたり云ふ事無く易々從柔上吏の命に復し曾て反抗を起し自我を張り通さんとせし事無き大忍耐家である

☒……現在同區役所内に於て最も實直な一人に數へられ頭腦は非常に緻密にして理解極めて鋭く且つ職務に熱心なるが故に上吏よりの氣受けも宜しく下輩よりは常に父の如き崇敬者に成つて居る、加ふるに才氣あり度胸滿々ち手腕も思想も年齢よりは遙かに若々しく彼れにして今十年若かりせば痛惜の情轉た堪へざるものが多々有る、若し彼れにして今十年若かりせば必らずや其間何等か進境を迎るべき多望の人であると思ふ、然りも雖も年齢未だ六十路に達せず尙綽々たる餘裕を有し壯々として青壯者を凌ぐものあり彼や自重し老いて益々壯なる可きで有る

☒……彼れ前にも書せし如く明治二十八年十二月東區書記十一級に任用されてより同四十四年十月一躍して第三課長に榮進し同年十月二十日收入係主任を兼務し大正六年三月第三課検査係取扱主任となり同七年四月收入役となり同時に

物品出納吏を命ぜられ同八年八月陸軍特別大演習に際し特に選ばれて委員に推舉され同時に庶務係に轉 九年三月大阪  
市主事収入役に累進し今日の榮名を博せしものである、彼は常に多くを語らず只温厚な態度を以て人に接するが常で  
あるが一度物の曲直を斷する時等に會しては實に口角泡を飛ばして論議す自宅に歸りてはたゞ好々爺子供の相手に成つ  
て自れも又子供に復らんとするの觀あり、時々下手乍らにも淨瑠璃の聲表に洩れて途行く足を留むる事有り聲の主は誰  
か聞けば近所の人口を開いて曰く、あれは三木の旦那さまですよとは振つて居る

#### 消費組合事務員 (其二)

此春川崎造船所の爭議に際して演説したのが禍で六月二十五日から一箇月間禁錮せられたので  
ある。治安警察法に觸れたのであつた。演説の趣旨は暴力の肯定で「資本家は彼の暴力により不  
斷の驅使と迫害を日課として居る。彼等の爲めに屠られ幾萬の魂の爲めに。現在我等が受けて居  
る償ひ得ざる辱しめを報ゆる處に男兒の面目があるんだ。諸君……」と云つて我乍ら調子乗つた  
演説したのであつたが演説は中止。彼は檢束になつた。後それで妻君が方々廻つて夫の釋放を奔  
走して歩いたものであらう。此様な事に想到した時は何にもかまはず念佛をこなへるのが一番よ  
い。さる程に三泉市場の造船労働組合に着いたのである。

事務所は市場の中期にあり。東向で或家の三階を借りて居る。四疊半二間に三疊二十圓の家賃  
であるが一番奥の四疊半を五圓で山野氏に貸してある。

#### 東區主事

### 秋月猛一郎氏

⊠……大阪市東區役所第二課督稅係長の要職に在る人、明治十一年大阪中之島裁判所官舎にて呱呱の聲を挙げし判官  
の息、明治三十一年當時の尋常中學四年修業後、父の業務を追ふて判官たらんとし同三十三年五月裁判所書記登用試験  
を受けて及第し直ちに走せて裁判所の書記に成り其後現職に至りたる人である、彼は頭腦透明、相當の獨創力を具ふ  
る迄に於ては決して人に下る可き人に非ず少年時代より中學を修ふる迄常に優等を以て終り師を驚かせし事一二に留ま  
らず前途を囑望されし一人である惜むらくは今少しく學問に忠實であつたら其の造詣は必らず深く且つ見る可きものが  
多々あつて今日以上の榮位を贏ち得た事であらうと思ふ

⊠……而し彼れは事業に實直で有つて然も、熱心、才氣優れ常識は發達し自己の短所を自覺し雄辯にして説き來り説  
き去る事理頗る明晰にして曲直を論ずる事亦頗る嚴なり、其の繁務を執筆して巍然迫らざる事泰山の如く一種云ふ可ら  
ざる奥床し味を持つ、彼れまた一面温厚の性を有する君子人、又所管事務に精通せる所より殆んさ他の助言を俟たずして  
獨決專行する手腕を有す、此の一事のみにても彼れの手腕を賞揚するに足るべく且つ事務を進捗せしむる所以にもなる  
⊠……彼れは前にも述べたる如く一判官の息に生れ明治三十三年裁判所書記と成つて勤むる中越えて三十四年三月轉  
じて大阪稅務管理局に入り四十年十月帝國鐵道廳雇に成り四十二年二月大阪市東區役所に轉じ四十三年十二月書記に任  
用され大正二年四月第三課督稅係主任に榮轉し大正七年四月第二課督稅係長に累進したものである



東區主事

## 高田豊吉氏

⊠……大阪市東區役所第一課戶籍係長高田豊吉氏は西區役所雇より榮進したる人、明治六年一月大阪府下南河内郡喜志村に生る、幼にして呑牛の氣概あり笈を負て來阪、辛酸苦闘の憂目を忍んで明治二十三年四月西區役所の雇、戶籍係として任用され同二十九年五月書記となり爾來今日に至りたる人である、而して十年間勉努むる所を認められ抜擢されて一躍戶籍課長に榮進した立志編中の一人である

⊠……彼れを一言にして表現せむ可き言葉は僅かに二語勤勉實直それである彼れが呑牛の才氣有るに勤直の二字より養ひたる美德を有する半面には實に何まはなく一種云ひ知れぬ奥深いものがある事を問々見受ける事が出来る、又同吏員中稀に見る頭腦の明晰者で實際の力量と手腕を兼ね備へて居る人は彼れを惜いて他に求む可くも無いのである、長年の勤務中には皆夫れ々々一二の過失が有る可きであるが氏に限つて些の過失をも生ぜしめず人をして捲舌せしめ彼れは人かとの評さへもある、日々高き戶籍書類の推積中に在つて飽まず撓まらず營々として事務に熱中す現代人には到底其の眞似さへも出來ぬ位である、

⊠……而して尙彼れが人より卓出して居る所謂美點とも云ふ可き事は世間に對して些の銜氣の無い事である、爲めに一面剛石木石の左が有るがそれも氏の人物の一面奥深きを語る一面である、現代浮薄なる青年吏員にまつては將さに

好模範ともす可き人である

⊠……彼れは明治四十年八月北區書記戶籍課長より大正八年八月陸軍特別大演習に際し特に選ばれて委員に抜擢され大正十年四月大阪東區主事第一課戶籍係長となり爾來今日至る

### 消費組合事務員 (其三)

○〇氏は藤永田造船所に出て居る。刺を通じて談じたのであつた。藤永田は職工のための設備が大變に悪く最初は二千人からの職工の爲めに僅か一個の便所があるのみであつた。其後職工自身を作つたのミ社員の便所を占領したのミで僅に用を便じて居るので。大便が汎濫して煉瓦を二箇持つてやつたりして居た。ミ云ふ様な事鑄物工場であつて見れば煤が多く風は自由に吹き込むので食事の時は飯が倉ふ端から煤で黒くなると云ふ様な事。先達ての爭議の時に檢束された者が多かつた理由は皆朝の二時頃から辨當を作つて來る人達なので『今日は休業だから皆歸れ歸つて呉れ』ミ居つたに對して『何故休業か其理由を説明しない間は動かぬ』ミ何も知らずに頑張つた連中が皆連れて行かれたのだと云ふ。『警察の方では門の處に斯くも多數集つて理由を説明せよミ云ふのは不穩だミ云ふのであつた』これは明かに會社の方で前日位に多少説明して置かなかつたのが悪かつたのである。其他彼は藤永田が不正極まる仕打ちをするものである事を説明し。この度新に要求條件を提出したけれも委員會其物は國粹會の者が多いが爲め都合が悪かつた事等を話すのであつた。

東區主事

興津武治氏

⊠……東區役所に於る第一課庶務係長にして書記より進級して今日の名を擧げし人、明治十五年八月大阪市北區永樂町に呱呱の聲を擧げたる大阪ッ兒、爾來今日に至りたるが彼れは青年時代より切に勤勉の人良く業務を辯じて餘す所なく温厚篤實にして而も頭腦の精密なるは同區役所内に於ても彼の右に出づるものなく思想は博大にして議論に長じ時として滔々懸河の辯を弄して人を心酔せしめる事有り、又意志強固にして容易に外部的作用の爲めには頑として動かす其の上調和融通の才幹有りて人を外さず臨機應變の處理に巧みにして又一面己れの主張に忠實なるは彼れの長所云ふ可く然して是等の諸點は彼れをして今日の名を顯はさしめたるもの云ふ可く實に理想的現代人で有る

⊠……彼れ明治三十六年六月始めて大阪市東區書記に任用されし當時より兀々汲々として自れの性行を發揮して匪勉努むるの一薄給者で在つたが絞龍の何時迄斯くも林中に遊ぶ可き功績を認められて一躍第一課庶務係主任に榮進し又程無く同係長に累進したる人で前途益々多望を極めて居る、近時亦彼れは性格に多大の鍛鍊を加へ其の手腕に殊更一般の進境を加へ來れる觀有り、努力の結果と云ふ可く又天品の力にして彼れが何時迄も斯る一區役所内に燻り居る人物に非ざる事もより何時かは或程度迄到達し得る事明かにして彼れが専心修養上に心を置く事は聽て何事かを期さんとするものなり

⊠……事重復するの嫌は有るが今一應彼れが事歴を明記すれば明治三十六年六月大阪市東區書記に任ぜられ大正四年四月三十日第一課庶務係主任に榮進し更らに同七年十月第一課庶務係長に累進、同八年八月七日我大阪近郊に於て行はれたる陸軍特別大演習に際して特に其の委員を任命され爾來今日に至つたもので有る

消費組合事務員 (其四)

〇〇だの〇〇たのと云ふ者の乾分は皆資本家の爲めにピストル短刀等を持つて不穩な事を云ふものを取締つたと云ふ事。それに國粹會員の云ふ事には不合理な事が多く『諸君は日本の國體を汚がすのか。工場設備を改めるのは何故か。工場設備等をよくしたとて病氣は外部で傳染したら何故する』と云ふ様な事を云ふなんか彼等は如何にも言ふべきを知らない徒輩だと云ふ事其他會社の秘密——其秘密を發表すれば藤永田が存在の餘地の無い様な重大なる秘密——の鍵も握つて居ればいつれは一争議持ち出さなければならぬ云ふ様な事も居つて居たのである。事實藤永田が職工の爲めにしてある設備は不完全なものであらうと思はれる。

座に居た築港の市港灣部新屬工場に居ると云ふ他の組員は攻撃の鋒先を市役所に轉じて。市役所の悪い事について縷々として陳べ立てるのである。市營住宅はコンミツションの如何により入れるか。入れないか決定せられるとか。梅田築港直通の電車が運轉さればよいとか。築港の何處かには船の修繕に十分使へる板を山の様に積んで何故早く腐らないか云つて係員が閉口して居るなき、云つたが之等は悉く理由のあることであつて殊にコンミツション云々は全然無根だ

西區主事

松尾源太郎氏

⊠……大阪西區主事第一課長松尾源太郎氏は島根縣の人慶應三年三月飯石郡三刀屋町に生る、當時未だ完全なる學校は築かれず彼の幼時尙寺小屋あつて多くの子弟を教養しつゝ在りしが、彼れも其の一人に加はつて専ら漢學算盤の學を修得し稍長するに従ひ家事を助けつゝ其傍ら専心讀書に傾倒し朝は早く夜は晩くまで餘念なく學問を講じ漸く長じて單身笈を負ふて來阪したのである

⊠……明治三十二年始めて大阪南區役所の書記に採用され以後雨の日も風の日も厭はず出所し自れに擔任された事務を營々辨する所あり一日の欠勤を爲さず職務に忠實を以て勵みたる故上吏の氣受け殊の外宜しく専ら眞面目な謹直の人として同所内に於て評判の高かつた人で程なく同四十年北區役所に轉じて一躍學務課長に榮進した程の人而して四十四年更に轉じて西區學務課となり大正九年西區第一課長に累進したヤリテである

⊠……彼れは今や將に老熟の期に入り至極圓滿なる紳士の風貌を想見せしむるものあり又其の固性には霸氣有りて現代の青壯年なき邊りへも寄り付けぬ程の氣概に富む其の態度は實に泰山の如く毅然として動かす可らざるものがあり其上職務には甚だ熱心にして部下には親切叮嚀を以て接し眞に圓滿な好人物である

⊠……彼れは趣味として殊更に云ふ可き程のものを有せず稱して居る強ひて云へば登山位が其趣味の一つであらう云つて居るが成程時偶秋の氣の澄める頃一瓢を携へて近くの山へ漂然出掛け行く後姿を見る事が度々ある

西區主事

三宅確乎氏

⊠……大阪西區役所第二課長として既に名ある彼れは京都府下の産、慶應三年十二月加佐郡舞鶴町に生る、天下の勝地として海外に名有る天の橋立、酒呑童子の舊跡を以て三才の童子も尙其名を知る大江山は彼れが生地の附近なり、彼れは未だ文明の波の至らざりし慶應年間而も北海に面した山麓に生れしが爲め始めより秩序ある系統的學問を受けたる事なく只寺小屋式學校に通ふて漢學算盤とを教へ受けしのみ他は悉く自宅に在つて専ら獨學に耽り漸く文明の餘波を知りたるのみにて特記すべき學歴を有せず謙讓す

⊠……然るに彼れが向上心は日に強く心を焦いて彼れを何時までも郷里に留まらしめず稍長するに従ひ其の意益々甚だしく彼れは終に意を決して單身笈を負ひ故郷に別れて東上して辛酸を嘗めて苦學し漸く功成つて明治三十三年六月大藏屬に採用された爾來幾星霜努力奮闘を怠らなかつた結果は終に彼れをして今日の榮名を贏ち得さしめたのである彼れは眞面目である謹直である綿密なる頭腦の所有者であつて判斷力に富んだ人である人の長たる亦最適任者である

⊠……彼れは明治三十三年三月大藏屬に採用さるゝや營々として自れの職務に忠實なるが故に上官の氣受けも殊によりろしく常に眞面目な人として通つてゐたが明治三十七年同省を退きて來阪し同年六月大阪市書記を拜命し大正二年三月西區書記に轉じて更に同六年九月西區收入役に任用され同九年三月西區主事に榮進し四月西區第二課長に累進し以て今

日に至りたり

☒……彼れは常に人に語りて曰ふ自分達の如く年來俗務に没頭しつゝあるものは何時如何なる場合も春言ふものなし時折り閑を偷み得て江堤に太公望を真似る位るが關の山にて面白き男なり

#### 消費組合事務員 (其五)

彼は二回も市營住宅に申込んだのだけれども資格が無かつた爲めに當選出来なかつたので人の風評を窺呑みにして斯くも悪口を云ふものである。要するに彼の屬して居る造船労働組合は其意氣中々盛んである。

彼の故郷は高知縣香美郡〇〇村である。漁業七分農業三分云ふ割合で戸數は千戸もあらうか米は二度獲れる。士族で維婦前は浦戸に居たのであるが父の代になつてから伊勢に移り。長く警察官をして居た。

彼は伊勢で生れて居る。其後一家は再び土佐に歸つて農業に従事して居た。父は彼の二歳の時に亡くなつた。母方の親類が皆富裕に暮して居るので。彼が大きくなるについては別にさしたる苦勞も無かつた。中學校の二年迄行つて止めたのであるが。家庭の都合上止むを得なかつたのである。それは彼の通つて居た中學校は南海中學云ふ軍人志願の者の入る中學校で最初の程は彼も是非軍人にならうと思つて勉強して居たが身長も足らず。軍人には不適當であらう云ふ人が多かつたのでそれ等の理由も手傳つて中學校は二年修業でやめた。

#### 西區主事

### 安田彰二氏

☒……大阪市西區主事收入役の安田彰二君は京都の生れ明治九年十一月紀伊郡伏見町に呱呱の聲を擧げ幼時より數漢の學を修め明治二十七年陸軍教導團を出身し翌二十八年臺灣に従軍し明治三十七年未曾有の大戦日露戦役に参加し拔群の功有り翌三十八年二月陸軍歩兵少尉に進級し同年三月其功に依り特旨を以て正八位に叙せられ又同年十一月勳六等瑞寶章を下賜され同三十九年三月戦中不幸にして偶々敵彈を受けし傷の爲め依願豫備役被仰付られ同年四月戦功に依り功七級金鷄勳章並に勳六等旭日章を下賜されて民間に下りし武勳赫々たる人である

☒……第一彼れには元氣有り常に意氣激測として青年を凌ぐもの多々益々あり彼れは常に人に語りて云ふ今の青年程女々しい意氣地の無い者は恐らく我帝國開闢以來未だ曾て無いだらうと頭髮は蜻蛉の如く光らせ、纏つて居る衣類等は絹布で無ければ着ず第一元氣や活氣云ふものは全然無いではないか此分では我帝國の前途に思ひやらるゝ吾々の青年時代を今茲で話した所が時代が變化して居るのだから勿論用ゐられまいが、せめて其の意氣なり元氣なりを今の青年に用ゐてもらいたいと思ふ、云々直ちに説き出す人だ

☒……明治三十九年三月彼れは民間に下るゝ間もなく翌四十年十月大阪市西區書記に任用され同四十二年五月兵事係主任に進み大正七年四月更に兵事係長に累進同九年四月西區收入役に轉じ翌十年四月大阪市西區主事に榮任し術來今日に至りたるが彼れは亦一面温厚の資性を有し上吏の氣受けも甚だ好し

西區主事

津田純氏

⊗……大阪西區主事戶籍係長津田純氏は兵庫縣の人慶應二年六月氷上郡佐治町の一角山間僻陬の地に其生を亨く、明治三十年四月大阪西區書記に任用され戶籍事務に従事し爾來戶籍係りを以て一貫し今日に至りたる人で西區役所に於ける戶籍上の生字引である、彼れは温厚篤實事務的才幹に秀で頭腦明晰にして才人肌の人明治三十年四月大阪西區書記に任用後營々として自れの事務に實直なるや同四十二年五月一躍して戶籍係主任に榮進し大正八年五月市制實施三十年祝典に際し二十年以上勤績者として銀盃並に金封を授與せらる之れより先き大正七年四月戶籍係長に累進し同十年四月大阪西區主事戶籍係長に成り今日に至る

⊗……彼れは殊に戶籍事務に興味を有し明治三十一年七月戶籍民法の實施に當り戶籍事務の統一を圖らんが爲四區聯合して各町村長に交渉し全國に先して大阪區裁判所管内戶籍事務協議會を起し毎月一回開會して該事務の研究に腐心し同會より屆書式登記例戶籍裁判例等を編纂出版する事五回に及び進んで大阪控訴院管内各市區聯合協會を組織し毎年一回に亘り同會大會を各市交代に開催し院長の臨席を求めて同會の發展を促進せしめ就中其の中にも同會に於て研究協議したる事項は最も權威ある決議として法令の改正となり省議の變更となつて全國各市町村長の事務取扱上に至太の裨益を與へたるのみならず最も複雑にして難解たりし戶籍事務をして略統一せしめ事務の進捗を見るに至つた其餘暇に

は美術工藝品中家庭的實質趣味に完備したる繪畫の藝術方面の鑑賞に興味を有し多數作家の力作を比較研究し現代の思潮に従ひ藝術界の向上發達に資せんが爲め斯界同好者に優秀品の好愛を推奨し常に斯界趣味の普及に勉め傍ら音楽演藝にも多大の趣味を有して居る

消費組合事務員 (其六)

彼の親類には軍人で少佐だの。大佐だの。と云ふ高官になつて居る人がある。中學校を退學してから母の膝下にあつて家事の手傳、親類の仕事等をして居た。兄弟としては兄があつたけれども日露戦争の時に初瀬の乗組員として戦死して居る。大阪に出て來たのは明治四十三年であるから。彼は十四、五年前の事である。母は大正二年に故郷で亡くなつた。

神戸の商家に店員として働いたのが振り出しで。其店は獨逸人の經營して居るイーハイ商會云ふ店であつた。今は解散してない。土佐の新聞の通信員の様な事をして居た事もある。郵便局の集配人もやつた。大正七年に豊田織機製造所に入り。九年八月止めて創立當時の〇〇社に入社した。其後藤永田鐵工所に職工をして居た事もあつた。爭議には關係しなかつた。それと云ふのは川崎の事件で入獄中であつたが爲め彼の所謂「不幸にして參戰する事が出来なかつた」のである。彼の家は平家で四疊半二疊の二間である。土地は濕る一方で疊裏等は眞白に徹びて居る。其爲めか年には一度必ず彼は脚氣を病む。其他五つになる彼の子に俗に云ふ飛火が時々出来る。醫者から聞けばこれも皆濕氣の多い爲ださうである。

西區主事

佐奈正雄氏

⊠……大阪西區主事佐奈正雄氏は純粹の大阪人、明治十六年一月大阪市南區周防町に生る明治三十七年七月司法省指定の關西法律學校を優等にて卒業し名望嚇々たる秀才である、明三十八年四月大藏省文官普通試驗を受けて美事及第し同三十八年五月稅務監督局稅務屬に使用され拔群の才腕を振ふて上吏を驚嘆せしむる事故舉に違なく上吏よりは常に其の前途を囑望されし一人であつたが偶々故有り同所を退いて大阪に來り明治四十一年二月大阪市北區書記に任用され爾來月日を閱する事實に拾有餘年其間一日の如く營々して自れの分擔に事務に従事し來り大正九年三月大阪市西區主事に累進し今日に至つたる人である

⊡……彼れは温厚にして頭腦明晰思想甚だ豊富なるが故に各方面に涉り何事に依らず多々益々辯じ來り辯じ去る彼れが最も長所として崇敬の念惜く能はざる點は總てに於て綿密周到なる一事にして何人にも雖も彼れが綿密にして周到至れり盡せりの先天的技倆には敬服の外無く其上裁斷力に富み事務的才幹を有し而も穩健にして事務に熱心なるは同區役所内に於ても稀に見る所である彼れが明治四十一年二月大阪市北區書記を拜令し始めて事務の人となりし時より上吏間より常に熱心にして眞面目な人として見做され其の將來を期待され程無く同四十四年六月大阪市書記に轉じ市役所に在る當時も其の技倆を認められ更に亦轉じて同四十五年五月西區書記に成り同四十九年三月大阪市西區主事に累進したのである

西區主事

末常琢爾氏

⊠大阪市西區主事末常琢爾氏は廣島縣の人である、明治五年五月世羅郡甲山町に生れ明治二十八年の晩冬偶々堺市の一友の元に遊び來れる時友人の勧めに依り堺市役所に奉職し始めて公吏となり爾來公吏生活を續けて今日に至つた人である、彼れの質性は所謂東洋風の豪傑肌で豪放磊落を以て吏員間に名あり常に仙人の如き氣風を有して専ら世間の俗衆を顧みざるが如き態度を示す、此點より見て彼れは一種の仙骨を備へたるものゝ如く兎も角も面白い男である、西區役所内に於て仙人主事と云へば彼れの事である云ふ

⊡……一而斯くの如く一種世間放れのした所有るが如しと思へば彼れは亦其裏面に於て優秀なる天賦の頭腦を有し明晰なる思索力に富み構成組織力又豊富にして縱横の機略に最も長じた理想的人物である、彼れ其の幼少なる頃郷里に有つて小學門を出するや丘隅舎に入つて漢籍を修得し更に愛國學舎に入つて英語學を學び教育檢定試驗に及第して郷里並に附近の小學校に教鞭を執る事數年亦た一方其間家兄の營める通信事務にも従事し明治二十八年の晩冬堺市に行き同市役所に奉職し同三十一年文官試驗に應じて及第し在職十年専心教育事業に勉め同三十九年三月堺市を去つて來阪市役所學務係に任用され程無くして西區役所に轉じ學務係長に榮任大正九年三月西區主事に榮進し以て今日に至りたるが彼れが教育事業に従事せる事實に二十有七年間其實に一日の如く兎も角も其の功多とすべきである



☒……彼れは自ら人に語つて居る趣味としては何等特に語る可きものは無いが世間よりは既に忘れられんこしつゝある漢詩を好み時々物に感じたる儘を作りて淺酌微吟し以て一日の勞を忘るゝを何よりの樂し味となし居れりと彼れは漢詩が最も得意である

#### 消費組合事務員 (其七)

朝の六時から夜の十時迄の就業で今まは少ない報酬ではあるが其内盛んになれば隨時多くの報酬を貰ふ様になるので餘利を驅逐し〇〇社を中心として一の新社會を建設する云ふ意氣で皆死物狂ひになつて働いて居る。

〇〇社に働いて居る人は配給の方をして居る人も、事務をこつて居る人も能率の上にはさしたる違ひの無い人達である配給をして居る人でも事務をとらせれば結構事務をもこる。それ故規定の給料等も差が少なく。〇〇總理を始めこして熱心に働いて居る。

第一日曜三日曜は休業する事になつて居るが其日こて午前中のみは休み午後からは事務の整理に云ふ名義で集まる事になつて居る。『居心地のよい新社會』『働きたい新社會』と云ふのが彼等の標語である。『死ぬ程働いてもよいがベテンの無い組織の下で心よく働きたい』こは彼等の念願である。而して事實彼等の團體である〇〇社は隨に働きたい心地のよい團體で世間の會社とか官公署こかに見られぬ美風が現はれて居る。



南區主事

### 片山宇一氏

☒……南區第一課長片山宇一君は其膽力こ手腕こ信望こに因つて片山の南區か南區の片山かと稱される位ひ隆々たるものがあるのである、君が區長の補助機關こなつて萬事抜け目なく行政上の運用を行ふ事は既に内外の普く悉知する所である、今更嗽々を以て説明する迄もなく區長の影武者こして賣り出して居るのだ、實際君が其聰明透徹な腦裡から割り出した施政上の貢獻は何人も等しく驚異こするばかりである、所謂機宜に適ひ的確にして効顯著なもの甚だ多いから苟も問題毎に君は上司の囑望を得て屢々中心に起つて立ち働くのである

☒……君は一面に於て活動家であるこ共に他面に於ては頗る修養をする男である、其理解に富む頭腦を以て寸暇さへあらば基礎的勉學を之れ自習するのだ、而して書籍と首引きする傍ら理論を演繹して直ちに實際の運用方法を究める、若しも理論の實際に相背向するものあらば深く其間の道理を辨へんこして幾日でも考ひ通す態度である、従つて中途に放棄したり又は斷念するが如き低迷氣分に入るのを如何あつても唾棄するのだ、併し乍ら飽く迄活動を生命とする君は只徒らに清談の徒輩ならん事を毛頭考へて居らぬ、學究肌の型に篋まる様な男でない、凡て修養の爲めの修養で目的は活舞臺に活用するに在ると謂つた態度である

☒……人は眞劍こなつたりお世辭交りとなつたりして面前は勿論陰口叩いて君を市政に通曉する男だと持ち上げて居

る、然るに君に至つては其之れを聴聞する度毎に只「ヤノ」と笑ふのみである、偶々切り込んで其感想と云ふものを強求すれば世間は褒貶御免であるから世間の意味が「マザノ」と印象されるのみださばかりで、更に何等の反響も無い、然し君も尙子の愛には勝てぬので其戒飾には自ら眞實正銘な所を吐露するを謂ふ、而して折角愛子の將來を樂しむ譯である、君が教訓の一節には必ず樂翁の

見れば只何んの苦もなき水鳥の

足にひまなき我が思ひかな

の講義が含まれるのだ、して見るに君自身も亦毀譽褒貶の域を超越して粒々の苦ミコツ／＼の勉勵を積み上げ専ら活動の方向に猛進して居る葉が此信念から湧き立つて居るのであるに相違ない

君の根本的信念が自修活用に在るので徹頭徹尾湧き返る信條を以て公私の生活を營む彼れには眞價を欺く策云ふものが無い、自己が圓滿なだけ人も亦清淨なものとして協力するのだ、出來得るものは出來るに述べ否なるものは即座に否なりと明言するのが君の秀逸な點であらう同時に兎角修辭に馴れて居る人々は甚だ機嫌を損する點である、然し奇策自在の巧者も君を術中に引き入れ難いので流石に策動せぬ所を見るに確かに卒直非飾が君の徳である、斷じられやう君は山口縣の人明治五年十一月豊津郡豊西上村に生れ明治二十三年中學卒業するや漂然として村役場の書記になつた、而して更に郡書記となり三十年には文官試験に登第し三十二年迄勤続した、後赤間ヶ關市即ち現在の下の關市書記に轉じ第二課長に進み主事となつたが四十四年大阪市の招きに應じ市書記拜命商工主任兼庶務主任となりて三ヶ年間貢献し大正二年南區書記に轉任し第二課長同七年四月以降南區主事に進み第一課長として精勤して居る未來ある人である



南區主事

## 龜谷佐助氏

南區に第二課長たる龜谷君も亦山口縣の産である、一課長の片山君と同縣の好みはあるが其性格に於て正反對なる點を保有して居る、片山の社交的にして修養を急ぐに反し君は沈重にして事毎に修養を兼ね活用を試みるのだ、若し前者を演繹的の型と稱するならば君のは歸納的の型である、事前に修養を凝らす片山には鍛へ上げた筋道を拵へて故になくはならぬの調子で造んで行くが、龜谷君は事前の行として只頭を爽快にする白紙にする、と云ふのである而して千變萬化の事實に遭遇しては直ちに腦裡に納め且つ批判的能力を以て成程斯くの如き條理であるを斷定する、従つて推理の方面に於ても日々の歸納が公務執行上判斷の基礎となるのだ、つまり結果に於て差異は無いが方法に相違があるのである

君は其博聞強記を以て尤も評判である、一流の批判力に則り過去現在の事實に引照しつゝ得意の快辯を切ればメキ／＼として君の包んで包みきれぬ眞價が發揮される、只平常甚だ沈黙寡言なるが爲め自家表示を唾棄する二方面から制肘を蒙り眞銘打つた面影を顯さぬのみである、殊に多年社會の苦楚を嘗酸した經驗が知らず／＼築き上げた所の圓曲流暢な處世術に至つては甚だ異彩を放つものがある、然るに主として他動的な受身の戦法を事とする君は容易に洩らさぬ爲めに多く人に知られて居無い、偶々選舉事務其他一般から難局として危ぶまれる地位に置かれた時茲に蘊積した才能を發揚しアツと云はせた事もある

君は山口縣都濃郡戸田村の人明治八年一月生れ舊藩主の經營する徳山中學を卒へ大阪に來つて法政經濟の修學を爲し簿記學をも併せて研究してから東區役所に入つた、それは二十八年前の物語りとなつた、而して明治二十九年には書記に擧げられ三十八年迄十年間精勤し南區に轉じた、其後第三課統計係主任、收入役第三課長、第二課徵稅係長を経て大正八年主事に進み第二課長の要位を占め今日に至つたのである

公吏生活茲に三十年會つて大器晚成を村人に説いた彼れは四十代にして現在の地位にあるのだ、過去の努力に對する報酬としては餘りに尠少を啣つ者もあろうし、無冠の素人が得たものとしては異數に誹る者もあろう、併し抑も此の勤績と行路を何んか見る、彼れは考へだ、行ふ丈けの事を行ひ耐む忍ぶ丈忍んで來たのである、茲に言行一致隱忍自重の偉大さがあるでは無いか、君は今尙昔の如く元氣潑潑たりで剛甚謠曲で靜かに將來の風雲を俟つて居るのだ

#### 消費組合事務員 (其八)

休日には妻子をつれて郊外に散歩する。それ以外に樂は無い。『三百六十五日朝早くから夜の十時、十一時迄働く者を夫とした彼の女は不幸である』彼はさう思ふ。そして少しでも慰めてやらうと思ふのである。夏になれば薄い着物を着て白粉をつけて夕の散歩をする。春は花、秋は紅葉が皆美しく化粧して居る女の人達彼等を見て御前は何と思ふか』と問へば彼の女は「何ともありません」さう答へる。然し女である。自己表現方法がある範圍に制限せられて居るので女は是非に美しい着物でも着なければ具合が悪い。又彼にしても着せたい事も山々なのであるが美しい着物を着せる處ではなく前述の様に自分で赤く美しい着物を着て彼の女に這見せる事があるのて妻君に對しては常に氣の毒と云ふ心を持つて居る。

#### 南區主事

### 音代音吉氏

音代君は南山戰場に馳名を馳せた勇士である、當時を回顧すれば強露の軍兵夜暗に乗じて南山の要塞から下つて押し寄する我軍の心膽を奪はんと試みた、血杯を啜つた我兵は將軍乃木の叱咤に因つて肉弾又肉弾而して此要塞を蹴落さんご得意の夜襲を執行したのであつた、始め潜行運動を以て進んだ我軍は敵の感知するを機とし茲に八方から一時に關の聲を張り上げて先づ雪崩來る敵軍を追ひ山嶺近く進み防塞陷穽鐵條網等の凡ゆる防器を除いて愈々肉迫した、折り柄敵の照り染むる探照燈は物凄程鮮やかに慘劇の跡を照らした、其真只中に聲張り上げて進み行く勇士がある之れ則ち第八聯隊附であつた音代少尉……今の南區主事音代君である

君は昔の勳功を偲ぶ正八位勳六等功六級陸軍歩兵少尉の肩書を持つて今南區役所第一課兵事係長として大阪市の爲めに奉仕して居るのだ、明治二年四月大阪府下牧方町に生れ家事に従事して適令に至り二十二年徵せられて歩兵第八聯隊に入營し後二十八年四月より三十六年四月迄特に志願して現役に残り大阪聯隊區書記第四師團第十師團書記及び歩兵三十九聯隊附となりて特務曹長の職務を忠實に盡したのである

明治三十六年職を辭するや町内の輿望一身に蒐まり懇望されて牧方町助役に擧げられ町政を裁理したが三十七年日露國交斷絶と共に再び召集され南山戰に参加し少尉に任官し盡心盡身の奉公を完ふした、三十八年十一月歸還するや直ちに大阪市長となり南區書記として勤務し四十二年には第一課兵事係主任に大正六年十二月收入役に任じ同七年

兵事係長専務となり十一年主事に補せられて今日に及んだのである。

☒……君は固より武人であるから氣骨稜々なものがある併し乍ら頗る調和力に富み文人として却つて直截簡明で頗る適当な性格を持つて居る殊に豊富な財力は心氣を極めて冥容に保ち何處となく悦服さすに足る太腹な所があるので上司や同僚の信望を得て居る、君の好む所は盤面に黑白を闘はずか然らずんば橋辨慶の謠曲等である。

#### 消費組合事務員 (其九)

子女の教育としては男の兄が生れた月から毎月二圓宛貯金して居る。此金が如何程になるものか。其の金で彼の後繼者を如何なる程度迄教育する事が出来るかは今後其場合になつからでなければ分らぬ二十八歳に結婚して今日に至る迄一子をあけたのみで他には何等の出来事も無かつた労働争議で名聲をあげたり憂き目を見たりしたのみである。

労働運動には非常なる興味を持つて居る。一時は暴力の肯定者として世間からは恐れられ可なり名聲もあつたが、近頃よく考へて見るのに今日迄の自分の述べ來つた意見が間違つて居る様にも考へられ出したのでミ兩手で頭をかゝへ「暫く考へさせて呉れ。己はよく分からなくなつて來た様だ」と云ひ出したので皆は「野郎軟化したな」ミ云ふて居る。彼にしては徹底的に考へ抜いて然る後本當の見解を持つて再び労働界に臨みたいと思つて居るのである。

事實本當に労働者の進路を何等の疑ひ無く指示するものは居まい。大綱ならば彼ミてもよく分つて居る。労働者も人間である以上愛したい。着たい飲みたい。食いたい。現在の制度を改めて一様に文化に浴する様にさせるのだ。



南區主事

木村 稔氏

☒……木村君は和歌山の和歌山の人明治十七年九月和歌山市小野町に生る、不幸明治維新前士家を以て勢力を有して居たが重なる不運ミ時勢の轉換とは君の先代をして其財物を消盡せしめ遂に處世の途を新規に開拓せしむるに至らなかつた、従つて木村君が長するに及んでも志有り尚よく進むを得ずの状態であつた、祖父も乃父も而して其母堂も人知れず涙を袂に隠す事さへあつたのである、君は幼時既に此慘を嘗め來つたので陋固として男子の面目を樹立せん事を健げにも心底深く契つたのである、今や大阪市南區主事ミして第一課學務係長の要位を得て居るが當時少なき胸に秘めた決心は神ならぬ何人も知る由がなかつたのである。

☒……君は故郷を飛び出し僅か志學の令にも達せざる十二才を以て明治二十八年南區役所に入つた而して傍ら必要な課程を寸暇を惜み乍ら修得したのである、然り蒔いた種は何時か芽ぐまれるのだ君が苦學を急ぐ周圍には極めて熱い同情が常に湧いて居た、茲に於て課程學科等は進んで人は致へて呉れる様になつたので着々實力の養成が出来たのである、明治三十七年擧げられて南區書記に任じ又一段の奮勵と共に大正元年第三課檢稅係主任となり同四年徵稅係主任に同五年第一課議事係主任に同七年第一課學務係主任から係長に累進し十年主事に補せられたのである。

☒……洵に之れ木村君の如きは立志傳中に一頁を記述されねばならぬのである、其始め弱冠の齡を以て境遇に順應し

然も運命の開拓を試みた事は尙今の所謂自墮落青少年の状態に比して何づれぞやである、君は多年の吏員生活をした者が一様に帯びる悪影響たる無活氣や變竄に染んで居らぬ、伸張氣味のよい特長を備へて居るのみならず勤直力行懈怠なき精力を有つて居る

#### 消費組合事務員 (其十)

資本家制度の下で労働者資本家が協調して行くと云ふ事は絶対に出来まい。過去に於ても出来た事もなし。將來も出来ないであらう。「彼位の事なら分つて居ります」と云ふ。彼は今の處先づ煩悶期にあると云ふ形である。勞資の間をゴマカすにしては工場委員會が一番よい云ふ意見で労働者の無自覺に對しては痛く憂へて居る。

新聞は〇〇社事務所に備へてある朝日毎日等を讀んで居る。別に將來の希望と云ふ様なものは無く今の處一意専心此處の消費組合運動を助けて奮闘して居る。酒も賣ものもない。確信のある人が出て今の世に資本家なり労働者なり各階級の人間に對して歩む可き眞の道を教へて呉れないものであらうかと思つて居る。(終)

## 第四章 營 造 物

### 第一節 市立衛生試験所

市立衛生試験所は第二部及第三部から成る第一部は細菌に關する事項、身體検査に關する事項其他の醫事に關する事項を掌る

第二部は水道及其他の水質に關する事項、飲食物に關する事項、其他の理化學に關する事項を掌る

第三部は文書の起案、編纂に關する事項、物品の出納、保管其他會計に關する事項、公印の保管に關する事項、人事に關する事項、及他の主管に屬せざる事項を掌る

## 第二節 市立桃山病院

市立桃山病院には醫務係、藥劑係、庶務係がある  
醫務係は患者の診療に關する事項、學術的研究に關する事項、看護婦の勤務に關する事項、其他醫務に關する事項を掌る

藥劑係は調劑並製煉に關する事項、藥品の鑑定並理化學的検査に關する事項、藥品の管理に關する事項、其他藥劑友滋養に關する事項を掌る庶務係は院内の取締に關する事項、公印の保管に關する事項、人事に關する事項、豫算に關する事項、使用料及手数料徴收に關する事項、物品の出納及保管に關する事項、文書の收受、發送及保存する事項、患者入退院、附添人及面會人に關する事項、患者の携帶金品保管に關する事項其他の係の分掌に屬せざる事項を掌る



主 事

### 宇都宮規矩夫氏

☒……正七位宇都宮君と三唱せば朝臣の如く貴族の如く果ては柔弱にして軟風起つの連想あるも實は色飽迄銅色骨格偉怪の健男子である

☒君は明治四年九月四日熊本縣阿蘇郡阿蘇山麓に生れ既に幼少の交、火山の雄壯強烈に育まれ鳴動激震に試練せらる故に身體頑丈にして意思剛健を以て自ら持し、今日に追ぶも其魂益々強固なる、咄々何等の軟弱をや自銓自稱の一句も敢て君の爲めに當らざるべし、更に叙する所の正七位は繼承に非ずして開拓也、榮位に非ずして過去の勤勞を標榜せる授賞なりき、君郷黨の小學を終へて熊本市濟々堂中學を出身後遊學の志押へ難く直ちに東京に出て、法律學校に入り深く制度經濟の諸學を修め榮冠を戴いて一旦阿蘇の山里に立ち歸り、便を得て當時日清戰役に因つて占領早々なりし臺灣に赴き總督府財務局員に任じ新領土に於ける財政問題の解決に銳意參加して功甚だ多かつた

☒……殊に當時の状態は歸順の島民未だ少く行政上の施設は勿論財政關係の從つて繁雜なる剛氣堅忍の者に非ずんば到底就いて奉職難きもの多々あり然も君は日晷と戦ひ雜務の忙繁を掌理し乍ら苦悶煩む所を知らず、白面遂ひに今日の如く黒赤を呈する迄克く奉公したのである

☒……後ち擢任されて嘉義廳の財務課長に赴任し銳意竭す事數年にして名を完ふし知己ありて大正五年大阪市に轉じ精勵儉る所無く主事となりて衛生課作業係主任となつた

☒……君は浪々二十年間新領土の官職にあり而して献身的の勉勵を事し更に不満を洩さず遂に名を成して全力を市の要務に傾倒す性磊落然も勤直にして採算の鋭才あり、風成一時人を謬らしむる所あれども眞面目は遂ひに動かざる所であつた

☒……君は大正十一年四月一日を以て同院の事務長になつたのである

### 消費組合擴張係 (其二)

彼の本籍は香川県木多郡○○村である。両親共健在で父は六十三、母は五十七家業の農業に精を出して居る。彼は五人兄弟の長男であるが次男が身體も弱く内氣で他家に養子に行つても歸つて来る様な始末で所詮は一人立ちして奮闘する事が出来まいと思つたので家は其弟に譲つて大正六年に三男である彼の弟と共に大阪に出て来た。學校は高等卒業である。相澤造船所に二年半程居て藤永田に入つた。今春の爭議では實行委員として一、二回も爭議の矢面に立つた人である。六月二十八日七百餘名の入達と共に解雇せられて浪人の己むなきに至り其後は造船工組合の常務員として事務をこり月給五十五圓を貰つて居る。十月十日○○社の擴張員として入社するに同時に造船工組合の報酬の方は辭退してしまつたが尙以前と同じ様に事務をこつて居るので無報酬は氣の毒だから云ふ幹事會の決議で電車賃云ふ名義で十圓宛を貰ひ受けることになつた。

凡て○○社の配給擴張等をして居る入達は資本家達側のブラックリストに載つた人達で何處の會社に行つても雇つて貰ふことの出来ない入達である。

## 第三節 市立工業研究所

市立工業研究所には庶務部及技術部がある

### 庶務部

庶務部は人事に關する事項、文書の發送、收受及保管に關する事項、業務功程、日誌其他記録編纂に關する事項、豫算及會計に關する事項、統計、調査並報君に關する事項、公印の保管に關する事項、物品の調達、出納並保管に關する事項、其他の部の主管に屬せざる事項を掌る

### 技術部

技術部は第一科、第二科、第三科に分る

第一科は染料及染色に關する事項、有機化學藥品に關する事項、纖維漂白に關する事項、油脂に關する事項、食料品に關する事項、其他有機化學工業に關する事項を掌る

第二科は無機化學藥品に關する事項、顔料及塗料に關する事項、窯業に關する事項、電氣化學工業に關する事項、其他の無機化學工業に關する事項、原料、材料及製品の鑑定並分析に關する事項を掌る

第三科は設計及製圖に關する事項、製造用機械に關する事項、水力機械に關する事項、機械能率に關する事項、其他機械に關する事項を掌る

## 立工業研究所の概要

### 一、本所設立の目的

本所は過般二回に於ける陸軍特別大演習の際本市へ下賜せられたる恩賜今の積立金を基とし工業發展上最も有効なる工業研究指導機關を設置し本市の發展を圖り以て聖徳と永遠に記念せる趣旨の下に大正五年八月創設せられた

### 二、本所の事業

本所は工業の發達を圖るを以て目的とし左の事項を處理す

- 一、工業に關する試験研究を爲すこと
- 二、工業に關する試研究の依頼并に質疑に應ずること
- 三、工業研究希望者に設備を利用せしむること
- 四、工業に關する講演及講習を爲すこと

### 三、處理事項の種類

#### 第一科

- (一)、染料及染色に關する事項
- (二)、有機化學藥品に關する事項
- (三)、纖維、漂白に關する事項
- (四)、油脂に關する事項
- (五)、食料品に關する事項

### (六)、其他の有機化學工業に關する事項

#### 第二科

- (一)、無機化學藥品に關する事項
- (二)、顔料及塗料に關する事項
- (三)、窯業に關する事項
- (四)、電氣化學工業に關する事項
- (五)、其他の無機化學工業に關する事項
- (六)、原料、材料及製品の鑑定並分析に關する事項

#### 第三科

- (一)、設計及製圖に關する事項
- (二)、製造用機械に關する事項
- (三)、水力機械に關する事項
- (四)、機械能率に關する事項
- (五)、其他の機械に關する事項

#### 四、本所の機能

工業士各般の指導を與へ以て次の目的を達成せむとす。

- (一)、製造法を改良し能率を増進し以て製品を優良ならしめ、製産費の節減を圖る。
- (二)、輸入品の防壓を講じ又輸出品に對する所謂粗製濫造の缺陷を調査研究して、此の非難を根絶せむ。



(三)、日常生活の廢物より大工業の廢物に至るまで之が利用策を研究し有要品を成さむ。  
(四)、新規工業の啓發をなし、又未だ用ひられざる天產品の利用法及代用品の製造等をも講ぜむ。  
五、業務方法

(一)、依頼研究並質疑

(イ)、一般依頼事項 本所常置の技術員によりて一々之を處理し夫々回答を爲す。

(ロ)、特別依頼事項 組合會社其他の團體及個人が研究題目を示し一切の費用を提供して研究の依頼を爲すものに對しては本所は其の爲めに臨時に研究員を設置して専心其事業を研鑽せしむ

之に依り依頼者には極めて満足なる結果を齎すを得べく又技術者は大に經驗を養ふ事を得べし、尙依頼者の希望によりては研究成績と共に擔任技術者をも聘請するを得べきを以て完全なる事業の發展を見む。

此の如き方法は米國有名の工業都市ピッツバーグ市に在るメロン工業研究所に於て施行し頗る好成績を擧げ居るものにして、之を便宜上「供託研究式」と稱さむ。

(ハ)、出張指導 依頼事項の回答を徹底ならしめ、又現場指導を乞ふものに對しては許す限り、本所技術員を工場又は作業上に出張せしめ指導を爲す。

(二)、本所の研究

共公事業并に共通的工業上の諸問題其他適當なる本所選定の題目につき技術員をして依頼事項の餘暇に於て之が研究をなさしめ其結果を公表す。

(三)、設備利用

市民にして、自ら研究を爲さむとするも設備を有せざるものの爲に本所の設備を利用せしめ、之に權威ある

指導を與へて其目的を達成せしむ。

(四)、講演及講習。相談及協議

工業的知識普及の爲め公衆に對し又は組合、會社其他の團體の需に應じ講演講習を爲す、尙工業上諸般の相談協議を爲して斯界の能率を増進し工業の發展策に資す。

本所は創立日尙淺く、且當時規模の極めて小なりし故、其成績大いに誇るべきものなれども、本所員は與へられたる經費を以て能ふ限りの仕事をなし殊に戰時中殺到せし幾多の依頼事項に對し夫々適當の解決を與へ以て商工業家を裨益したるこゝ多し。

發明特許 (大正十一年二月調)

茲に成績の一端として今日迄に獲得せし特許を示せば左の如し

- |                |      |
|----------------|------|
| 一、爪製釘の黒色着色法    | 大阪市長 |
| 二、ケラチン質釘の着色方法  | 同    |
| 三、酒精製固形燃料火の素   | 依頼者  |
| 四、艶紙の製造方法      | 同    |
| 五、箆袋機械         | 同    |
| 六、透明繕紙の製法      | 同    |
| 七、金屬入バルブ製器物の製法 | 同    |
| 八、酒粕乾燥製粉機      | 同    |

- 九、自働廣告機械
- 一〇、金網縁巻機械
- 一一、着色板紙製造法
- 一二、蚊取線香製造機械
- 一三、建築用塗料の製造方法
- 一四、セメント耐水硬化劑

同 同 同  
同 同 設備利用者  
同 同

消費組合擴張係 (其二)

皆勞働條件を改善せよ目覺めよ團結せよか云ふ様な事を唱出す人達なので資本家の立場としてはまかり間違つて雇ひ入れでもしやうものなら此上無い危険な人物で大阪ではとても職につきこは出来ないものであつて世の中からは浪人すべく餘儀せられ頼るべき知己も無い有様である。幸に〇〇社云ふ様な所があつて。資本經濟組織の間に、僅か乍ら膝を割り込んで反抗を續けて居る次第であるが彼も其一人として喜んで働いて居る。謙遜で眞面目で「如何にしてか愛に満たされた氣持のよい世の中にしたものだと思ひます」等云つてはしきりに赤くなつた——多分結膜炎らしい——大きな眼を拭いて居る。そして五十圓の報酬を以て妻君と三人の子供を養はねばならぬのである。



工業研究所長  
高岡 齋氏

☒……大大阪市の文化機關即ち其教導機關として設立された工業研究所は目的の大なる丈けに首腦たる所長の人選にも亦隠れたる苦心を凝らした事は謂ふ迄も無い抱負の大なる而して研究心の深い不斷の努力家であるばかりでは不可である進んで社交的能力に長けた少壯の士を拉して來ねばならぬのである、高岡君は要するに此要素を備へ過さる程備へて居る人だ、彼れの頭腦は其學生時代を顧みれば曰く優等を以て始終した秀才である、社交的方面を探ぐれば打ち碎けて理學者學者の型に拘泥せぬ所の外交家である、一部間には殆ど先天的外交屋とさへ通稱される男である、而して又社會指導の立場から見ても優に技術家を提けて市民に折衷する可能性を全身に帯びて居るのだ、

☒……君は此凡ゆる方面の能力を帯び乍ら一意専心市の爲めに努力を日日に凝らして居るのである、比較的無口な彼れの腦裡には政治家にもしてまほしき鋭利な觀察力と斷定的な氣象を包んで些の滯滞も迷倒も無く着々差別選擇を爲し自家獨特の事業に使命とも、いそしんで行くのだ、一體君の如く殆ど頭を休める時の無い人は何を以て精力の補充をするのであるか抑も不可思議ささへ謂はれて居る併し乍ら當の高岡君は一向平氣で激務であれ何であれ同様な用意と覺悟に緊張振りで押し通すのである、總括的に斷定すると君は全く活動の人であらう、

☒……實際其好む所を問はゞ只夫れ日々の努力が第一とある、密かに探りを入れても實の所聞甚も出來ず撞球も駄目

酒も煙草も俗語も將た亦聲樂も全く向きで無い、僅かにピアノ、オルガンの音又はヴァイオリン位に耳を傾け心氣を爽快にするのが關の山だ、然らば則ち随分野暮な男であらねばらぬが別段そんな種類を謂ふ迄固陋では無いのである。三絃のザンザめく音に手拍子打ちて歌こそ歌はぬが又猿のお尻の如く紅酒に酔ぬが、然し此高岡君も水と三鞭に立て籠り磯節の唸りで粹客をアツミ謂はせる隠藝を所持して居る。然るが故に萬策盡きた其曉には思ひ切つたものを一ツ吐き出して後白浪を極めて終ふ、だから聴く者はあの一節に於て、然り如何に況んや眞鍮の藝に至つては到底及ぶ所が無いなる、これが高岡式の一端である。

☒……君は學者としては將來充分に伸びる餘地を持つ人だ、目下の所でも己に其研究に係る化學工業の論文を起草中で早晚博士の學位を勝ち得る準備成つて居る、のみならず君の猛烈な研究的精神は常に努力の根源となつて寸時も冗費せ無いで一步一步其將來の大成に急いで居るでは無いか、

☒……君は三重縣の人明治二十一年一月飯南郡西黒部村に生れ伊勢大廟及び二兄の絶景を附近に控へた所に人となつたのである、従つて因襲的に大の敬神家で幼時から未だ會つて朝晨の拍手を廢した事を聴かぬ、長じて縣立中學を卒業し更に明治四十三年七月大阪商業工業學校應用化學科を卒へ大正二年九月來北帝國大學理科大學化學科へ入學し同五年七月優等の成績で同科を卒業した、

☒……此の間明治四十三年八月より大正二年八月迄は雄志を抱き乍ら三重縣立工業學校及び大阪市立工業學校に一致鞭として勉め大正五年八月市工業研究所技師に赴任し遂に九年七月異數の拔擢で所長となり現在に及んだのである、君は大正八年三月より十二月迄市の命に依り歐米各國を視察し來つた新智識である、蓋し今後の活躍こそ君の眞面目を發揮する所であらう、

#### 第四節 市立刀根山療養所

市立刀根山療養所には醫務係及庶務係がある

##### 醫 務 係

醫務係は被收容者の病症調査に關する事項、被收容者の診療及看護に關する事項、學術的研究に關する事項、調劑及製煉に關する事項、藥品の鑑定並化學的試験に關する事項、藥品の管理に關する事項、消毒に關する事項、醫務の統計及報告材料に關する事項、看護婦養成に關する事項、其他醫務に關する事項を掌る

##### 庶 務 係

庶務係は被收容者の身元調査に關する事項、被收容者の取扱に關する事項、入所費用並手数料に關する事項、收容料請求に關する事項、公舎に關する事項、所内の取締に關する事項、公印の保管に關する事項、人事に關する事項、所員の勤務に關する事項、文書の發達、收受及保存に關する事項、豫算の執行に關する事項、不動産の管理に關する事項、物件の調達、出納及保管に關する事項、生産物の利用に關する事項、不用品の處分に關する事項、雜役夫の使役に關する事項、所務の統計及報告に關する事項、其他庶務係の主管に屬せざる事項を掌る

#### 第五節 市民館

大阪市の文化的施設たる市民館の位置は北區天神橋筋六丁目(電話北三〇七〇番)にありて其開始年月日は大正十年六月二十日である敷地坪數は三八四坪八建物坪數は鐵筋コンクリート四階建一一四坪で創設費は二七九、六四六圓であるか之れが大正十年年度經常費として實際に支出を見たのは三四、六三四圓に達する

目的

本館は歐米に於ける社會同化事業の制を參酌して設立せられたるものにして教化及娛樂の施設に依り主として下層民衆の間に近代文化の福音を宣傳普及して之が啓發改善を圖るに共に一般市民に對しても自ら都市文化生活の中心を成し清く樂しき一大ホームを形作り以て市民性の陶冶、生活の改善に資せんとするものである。

經營の一斑

館内には講堂、教室、集會室、音樂室、圖書室、娛樂室、體育室、醫務室、法律相談室、休憩室、婦人室、少年室、理髮室、食堂、及屋上露臺あり、開館時間は毎日午前十時より、午後十時までとす、本館の事業は教化的方面にては諸種の講演會、講習會、補習教育等に依り學校教育と相俟つて知徳の修養職業的技能の啓發に資し娛樂的方面にては音樂會各種演藝會、活動寫眞會旅行等を催して清健なる趣味と慰安を感得せしめ更に福利増進の方法として健康相談、法律相談身上相談、集會室利用等に應じ市民の日常生活に直接の利便を與ふる外本館を中心として智識趣味、職業等に依る各種の俱樂部組合等の組織成立を助成し現に本館の裁縫講習會を修了せる婦人等は家庭俱樂部をローマ字講習を終へたる兒童は少年團を組織し其他管絃團女唱歌團盲人俱樂部、謠曲俱樂部、尺八俱樂部落語研究會、自働車俱樂部、生活改善講演團、映畫俱樂部等も己に成立を告げ隨時本館に會合して各自の修養向上と社會奉仕とに努むるに至つた、尙市立市民館には庶務係及事業係がある、

庶務係

庶務係は人事に關する事項、公印の保管に關する事項、館内の取締に關する事項、文書の收受、發送及保管に關する事項、統計及報告に關する事項、會計に關する事項、工事其他の請負、物品の出納保管、貸借及處分に關する事項、事

業廣告に關する事項、其他の係の主管に屬せざる事項を掌る

事業係

事業係事第係は教化及娛樂に關する諸集會に關する事項、閱覽圖書類に關する事項、體育に關する事項俱樂部等に關する事項、醫事、法律其他の相談に關する事項、食堂及理髮室に關する事項、其他教化及娛樂に關する事項を掌る

消費組合擴張係 (其三)

家は西區の市岡にあつて四疊半の二階に下が同じく四疊半の二間きりである。二階には先達迄弟が住んで居た。弟は彼よりも前から藤永田に働いて居たが爭議の時には兄と共に交渉委員として立つたので兄と同時に三十餘日の解雇手當を支給せられて出されたのである。弟は妻君を養ふことが出来なくなつたため一時親元に歸して自分は矢張り〇〇社に入り今は其方で起臥して居る新聞は事務室にあるものを見て居り新しい本は何でも讀む。家の宗教は一向宗と云ふ事になつて居るが神や佛を敬する氣にはなれない。唯々清く暮らす事を心掛けて居る。酒も賣ものまぬ。趣味として村に居た時青年團で擊劍等をした事がある。

日常自分の周圍に愛を以て働く完全なる團體を作り出す事を考へて居るといふ時の彼の容貌は實に正しく音聲は悲痛であつた。『〇〇社も以前は電話で米等を送つて呉れと云つて來るに自分の受け持ちでないからと云つて受け持ちの人が歸つて來る迄抛つて置く様な風でしたが、今では私が行きませう、私がと云つて競争でするといふて居る。

いのに徐ろに修養でもあるまい』と云つて彼は組合運動の効果を疑ひ出したのである。然し社會主義に走る考へもなく優しく消費組合運動に留つて居るのである。賣は喫はない。酒は少々飲む



主 事

### 志賀志那人氏

⊠……白蛇ヶ池の水を汲んで諸病を癒すとは大正四年の交熊本縣下に奇蹟として是認せられたる出来事なりき、此地や戰國時代以降宗教的觀念殊に著しく今日に於て尙且つ宗旨十有六派相錯湊し迷信奇談行はれ隠然として神秘の扉を構ふるが如し、故に郷人亦一意專念傳聞を教誨に服し幽幻境に憧憬して自然の爲めに忠實ならんを所期す、

⊠……志賀君の故郷は奇蹟視せられたるラヂウム池の附近にして阿蘇山の裾野にあり、一帯を熊本縣阿蘇郡彦山村と謂ひ殊に日蓮宗の盛んなる所也、朝夕と無く日夜を問はず法華經の聲は戸毎に溢れ唱名太鼓の音は到る所より流れ既に風韻松籟に合すれば欺かざる階律なるべく又以て郷黨の心的涵養多き部落とす、

⊠……君は明治二十五年九月七日生を享け小學を卒へる迄數十年來の慣習に染み且つ鳴動止まざる活火山の動靜を透し乍ら只夫れ大自然の偉大豪壯なる實相を觀取し左なきに溢るゝが如き極求を神秘其ものに注ぎし結果は四十三年中學を出で前途を擇する當つて先づ哲學方面を最後の隱遁境に限定するに至れり

⊠……即ち同年熊本第五高等學校第一部に入學存りに文學の研究を遂げ自ら綜合して時代進化の原理に觸れ或は之れを演繹して文化生活の安定に關し考査するなき實在にのみ支配されんことを青年の態度を忽ち棄て、専ら眞實的宇宙觀を試みたりき

⊠……大正二年七月同校卒業後東京帝國大學文科大學哲學科に入學し社會學を專攻し大いに業を積み同五年首尾よく文學士の稱號を護取するに至れり、其後大阪基督教青年會主事となりて約三ヶ年間教組の爲めに献身的活動を爲し大正八年八月舉げられて大阪市の囑託なり、翌年主事に任じ十年四月に及び市立市民館長に補せり、

⊠……君性來多藝にして多趣味たり、幽遠の氣も迅雷的意氣を併有し乍ら大自然の精核に觸るゝ熱烈の信仰家なり、殊に微妙神秘の音樂に長け一家流を成す、弱年只圓熟を缺く雖も年々共に、鍛練し得むのみ、

### 労働組合書記 (其一)

彼は東區の生れで長男である。父は今年正月流行性感冒で亡くなつた。母は七十二歳今に達者で働いて居る。家計が豊かで無かつたので學校は尋常四年迄行つた丈である。十一歳から職業に就いて町の工場を歩いて居た。十八の時には東京に出て芝の山越云ふ鐵工場で働いて居た。東京には前後を通じて四年程居たが其間にも大分方々變つて歩いて居る。大阪へ歸つてからは砲兵工廠で働いた。其處で作業中誤つて眼を害ふたのであつたが。之が彼をして労働運動家たらしめた動機である。治療に要した費用等は皆工廠の方から出して呉れたし手當として百日分を支給して貰つたのだから當時としては破格の待遇であつたが。片眼を失明してからは何か氣が變になつて、見る事聞く事が悉く悲しくなつたのである。加ふるに工廠も一時的には手當を出したけれども其時の待遇は彼の負傷が何等作業に支障の無い程度であつたに拘はらず全くの不具者として取扱ふので彼は怒つて工廠を飛び出してしまつた。



主 事

### 友谷常三郎氏

◇……大阪市民館主事に龜甲縁眼鏡をかけたる偉大夫あるを見る、之れ友谷君也、無細工にして野人の如く解すれども接すれば朗々たる聲音、滾々たる魅力、圓滿なる性格打ち混じて身邊を圍繞し始めて眞髓を納得すべし、然も其の異常の軀を提けて暮夜月に對せば如何、凄涼幽閑の靜閑を破るは微妙玲瓏たる階律忽ち聞ゆ、それ君の尺八に堪能なれば也、君は廳中上田君に繼ぐの名手にして郡山流を吹く、

◇……明治十五年五月一日、府下泉北郡松尾村に生れ三十五年府立師範學校を卒へて後ち同校訓導を拜命す、其の才能誠に群を抜き淡々の氣人に好愛せらるゝに因る、爾來教鞭を棄てず益々誠心を傾注し前後十有五ヶ年間孜々勵み大正五年五月第三北野尋常小學校訓導兼校長に轉じ茲に子弟指導を爲す事五ヶ年事蹟大いに舉がり市教育界の一丘を成す、則ち十年四月に到りて市に轉補し主事となり市民館設立後同館の主事と現して任たり、

◇……君亦多藝にして庶務に馴れ直接市民の指導に當るには好恰の士なり、

## 第五節 市立兒童相談所

市立兒童相談所に保健健康相談部、教育相談部、研究部、庶務部がある

### 健康相談部

健康相談部は妊婦の攝生及産後衛生の相談に關する事項、初生兒及乳兒取扱の相談に關する事項、授乳方法及營養品用法の相談に關する事項、兒童發育狀況の相談に關する事項、兒童健康狀態の相談に關する事項、兒童疾患の應急處置に關する事項を掌る

### 教育相談部

教育相談部は兒童教育の相談に關する事項、特殊兒童教養の相談に關する事項、兒童職業の選擇、紹介及指導に關する事項、兒童運動遊戲の相談に關する事項、運動餘暇利用の相談に關する事項を掌る

### 研究部

研究部は兒童の生活及教育の調査研究に關する事項、兒童保護施設の調査研究に關する事項、精神薄弱兒童の教育に關する事項、兒童文庫に關する事項、兒童研究用圖書閱覽に關する事項、其他兒童の調査研究に關する事項を掌る

### 庶務部

庶務部は人事に關する事項、文書の收受、發送及保存に關する事項、公印の保管に關する事項、會計に關する事項、所内の取締に關する事項、工事其他請負物品の出納、保管、貸借及處分に關する事項、統計及報告に關する事項、其他他部の主管に屬せざる事項を掌る

## 組織及事業の概要

本所が今此に紀要第一巻を公にするに當つて本所の沿革、組織及事業の概要を記して大方の参考に資したいと思ふ。本所は本市が今次世界大戦に鑑みて企劃經營した幾多の社會事業中児童保護施設の一として他に率先して設置せられた所であつて其の創設は實に大正八年に懸り同年七月一日より其事務を開始したのである。此事業たるや本邦に於ける最初の試であつて其成績に至りては當初多少疑懼の眼を以て迎へられぬではなかつたが、銳意事業の進展に努力した結果日を追ふて其成績の見るべきものあり、大正十年五月三日には本所規則並に處務規程が公布せられ以て今日に及んだのである。

本所は児童又は母性の健康並に教育に關する相談に應じ、且つ児童保護に關する調査研究を爲すを以て目的とする。此に児童とは滿二十歳未滿の児童の謂であつて勿論胎兒も含まれて居る。相談者は獨り滿二十歳未滿の児童に止らず、現に母たり又將來母たるものも之に加へられるのであるから妊婦産婦の相談にも與るのである。而して之等児童や母性の如何なる事項に關して相談を受くるかといふに、凡そ人は之を諸多の方面より觀察するこゝが出来やうが景通一般に行はるゝ所の見解に従ひ、身體方面として健康上、精神方面として教育上の相談を受け之に對し適當に忠告指導を與るのである。然るに其忠告指導を與へらるゝ者は何人なりやといふに、児童は原則として保護者に同伴せらるゝことになつて居るが故に直接保護者に忠告指導を與るのであるが、前述した通り本所にて取扱ふ児童の年齢及事業の範圍が廣いから其中には児童自身に對し直接忠告指導され能ふものもあり、又爾かするを適當とする場合もある。妊産婦にありては同伴すべき保護者を要しないこゝは言を俟たないのであるが、然しながら本人自ら來所不可能の場合がないでもない。故に相談に對し當所の忠告指導を受くるものは児童の保護者なることを原則とするが、前述したやうに其例外がないでもないのである。

叙上の相談事務を完全に執行せんとするには通常の事務と異り充分に調査研究する所なければならぬ、此意味に於て本所は児童保護に關する調査研究を爲すを以て其目的の一として居るのである。

上來述べ來つた事務を行ふ爲めに本所に所長、主事、技師、書記、外藥劑員、看護婦等の附屬員が置かれてある而して之等の所員が前述の事務を處理する爲めに健康相談部、教育相談部、研究部及庶務部を設け各部に主任を置き夫れ等の事務を分掌することになつて居る。今参考の爲め健康相談部教育相談部、及研究部の事務を列挙するに次の通りである

### 健康相談部

- 一、妊婦の攝生及産後衛生の相談に關する事項
- 二、初生兒及乳兒取扱の相談に關する事項
- 三、授乳方法及榮香品用法の相談に關する事項
- 四、児童發育狀況の相談に關する事項
- 五、児童健康狀態の相談に關する事項
- 六、児童疾患の應急處置に關する事項

### 教育相談部

- 一、児童教育の相談に關する事項
- 二、特殊児童教養の相談に關する事項
- 三、児童職業の選擇紹介及指導に關する事項

- 四、兒童運動遊戲の相談に關する事項
- 五、兒童餘暇利用の相談に關する事項

## 研 究 部

- 一、兒童の生活及教の育の調査研究に關する事項
- 二、兒童保護施設の調査研究に關する研究
- 三、精神薄弱兒童の教育に關する事
- 四、兒童文庫に關する事項
- 五、兒童研究用圖書閱覽に關する事項
- 六、其他兒童の調査研究に關する事項

之を要するこ本所固有の相談事務を執行する爲めに身體的健康方面は健康相談部に當り、精神的教育方面は教育相談部之に當り、之等の相談を完全に執行する爲め必要なる基礎的研究は研究部之を分掌し、而して之等各部共通の事務及一般庶務は庶務部が之に當ることになつて居る。

上述する所の事務組織の概要を明にすることを得、而して健康相談、教育相談及學園兒童の教育の詳細に就ては別に稿を改めて記述するが故に此に之を省略するが、之等相談事務を完全に執行する爲めに充分調査研究せねばならぬことは前既に述べた所である。然らば本所にて行ふ調査研究は相談事務の兩方面に亘りて之を行ふやと云ふに即ち然らずである。何となれば本市には幸府立醫科大學あり、之と密接なる聯絡を計れば健康相談の基礎方面の調査研究を特に必要なく又之を爲さんとするも多大の經費を要し實に不經濟たるを免れぬ故に此に謂ふ研究は健康相談の基礎方面の夫れは之を鑒さず教育相談の基礎的方面の夫れに限るのである。故に研究部として宗教哲學、心理學、兒童學等の重要學

科に關する理論的研究は言ふに及ばず、他方心理學的實驗を行ひ又學園を設け精神薄弱兒童を收容して實際的教育の研究をなし、理論的實際的兩方面の研究を待つて其十全を期して居る。其他内外に於ける兒童保護施設に關する調査をなし一般の參考に供し、兒童文庫及兒童研究室を設けて無料にて閱覽に供し、一は以て兒童をして適當に其餘暇を利用するを得しめ、一は以て特志者の研究に資し兒童保護事業の進展に貢獻する所あらんことを期して居る次第である。

最後に此に序に認めて置きたいことがある。其の一は本所にて取扱ふ兒童の年齢が滿二十歳未滿と定められてあることに關し從來幾多の質疑を買ふのであるが本所は之を以て適當なりと信じて彼ることである。兒童は之を或は法律の方面より或は心理學の方面より或は又兒童の方面等より色々定義せられるであらう。然しながら本所に於ては兒童學の教ゆる所に則り社會の開化狀態を斟酌して兒童を二十歳未滿と定められたのである。但し爾今は海外に於けるが如く此範圍を益限局せしむる要あるの期は遠くあるまいと思はれるのである。

次に海外に於ける同種施設にありては健康兒のみを取扱ひひ病弱兒を取扱はず、又彼にありては此種機關は健康兒の相談のみ取扱ふこの點より本所の事業は餘りに廣きに失するにあらずやとの批評を聞かぬではないが、健康相談に於て健康兒の外に病弱兒を取扱ふに就ては之を必要と認めたる次第であつて、之が處置に就ては衛生上細心の施設と注意を拂ひて萬遺漏なからしめんことを期して居る。又事業の廣きに失せざるやこの見解に對しては本所は社會の現状に鑑み之を以て最適當と信する所であるが、遠からぬ將來に於て之等廣きに失する稱せらるゝ事業が夫れゝ分化するの必要を認めらるゝ時機の來るべきものと思想されるのである。

終りに本所の位置が本市の南端に在るを以て單に當地方の利用のみを目的として設置せられたるやに解され然らざるものにおいては汎く市民一般に利用せらるゝの方法に關して問はるゝこと屢々であるが、本所設立の目的が前者にあるのではない。而して後段に對する施設としては毎月東西及北區に二回乃至三回所員出張して相談を受け汎く市民一般の



利用を俟つゝ共に本所事業の普及に資して居る。而して各區の出張相談は其區小學校舎及市營住宅事務所の一部を借りて事務を執行することに定めてある。

最後に宣傳に關しては一方ならぬ注意を拂ひ少からぬ努力を費しつゝあるが、其の主なる方法としては講習、講演會、兒童會、展覽會、を初めとし、講師派遣、種々の方法によるピラの撒布、調査研究の發表、戸別訪問等頗る努めつゝあるが未だ其効率の多大なるものを發見しないのである。

#### 消費組合書記 (其二)

伸銅所は當時未だ體格検査が無かつたので、義眼の彼も容易に雇入れられたが伸銅所に入つてからの彼は工廠に居た時代とは全然反對になつて積極的に積極的にと出る様になつた。伸銅所には全部で七年勤めた。〇〇會の成立したのは大正八年十月盛んに罷業のあつた頃で、創立者は彼と〇〇、〇〇の三氏であつた。〇〇會が漸次大きくなつて來るにつれて伸銅所から睨まれ、體で解雇せられたのである。九年五月彼が誠首になつてから〇〇會は其反動として俄かに大きくなつた其後彼は〇〇會事務員として働く事となり。日本の勞働者は光づ團結せなければ云ふ意味で〇〇會を友愛會に加盟せしめた。

彼の家は〇〇會の事務所をも兼ねて居る。安治川発電所の裏で彼の家の前を通る路次の突き當りは発電所の塀になつて居り恐ろしい程大きな煙突が其向ふの方に見えて居る。二疊は五疊に二疊で、組合事務所に充て、ある、労働組合の事務所らしい種々の道具がある。

### 第六節 市民博物館

大阪市の文化施設に屬する市民博物館は南區天王寺公園内にある而して市民の智識向上の爲めに種々の歴史的事物其他直接啓發の指導となるものを陳列して一般に供覽せしめて居る、因に同館の大正十一年度以後に於ける計畫は以下の如く目論まれて居る

#### 市民博物館の計畫

大阪市民博物館は、大阪市の縮圖で、館に入るや、先づ現在の大阪は如何、過去の大阪は如何、更に將來の大阪は如何——といふ問題を觀察研究すべき資料を、各種模型、繪畫、寫眞、統計圖表等に現はし、別に科學的知識を養ふべき諸種の資料を蒐め其陳列に相待つて絶えず講演、(各種幻燈、活動寫眞應用)實演等により、大阪民の教化方面に努力して居ることは、既報の通りであるが、今大正十一年度よりは、更に大に内容を整へ、館内各室の陳列品の充實と共に進んで大大阪市の宣傳、及び市民の常識修養に向上發展の上にて徹底的努力せんことを期するものである。今其の大體の方針、計畫を左に報告し、一面有識者各位援助を切に希望する次第である。

#### 館内陳列品

本館ミ別館——は都市研究の資料を陳列し、一は科學研究の資料を陳列することは従前の通りであるが、本年以後各室の陳列品を更に一層充實せんことを期し、大體左記の如くする計畫である。

#### 『本館』



#### 市

#### 勢

#### 部

大阪に於ける總ゆる現在の施設、財政、電鐵、水道、港灣、土木、下水、公園、教育、衛生、社會事業等の狀況を一

目して見るに足るべき資料を更に増補追加して大大阪が現在如何なることを爲しつゝ、あるかを市民及び外來者に紹介周知せしむべく計畫して居る。

### ◆商工部

商工都市としての我が大阪市の市民は、大阪の商工業が現在如何なる状況にあるか、大阪と世界との交通關係、貿易の状況、其他賣買、運輸等の状況を知らねばならぬ、更に各種商工品が如何にして出来、如何にして賣買、輸出せらるるかを知らねばならぬ、從來も此の點に力を用ひて居たが、本年以後、更に徹底的に内容の充實を圖る筈である。

### ◆歴史部

現在の大阪が今日の發展を見るに至るまでの徑路を知らんせば勢ひ必ず大阪の歴史の大體に通ぜねばならぬ。乃ち現在に於ても上は皇祖東征以來より、下つて石山時代、豊太閤時代から明治維新までの歴史の資料を總ゆる方面に涉りて陳列してあるが、今後更に材料を豊富にし、特に維新以前の大阪の政治、經濟史料等を増補陳列し、當時の事情と今日の現狀を對比研究せしむる資料たらしむべく計畫して居る。

### ◆都市生活部

更に進んで將來の大阪市民の文化生活を一層向上せしめんが爲めに、大阪市が現に計畫實行せんこしつゝ、ある都市計畫に關する參考資料、海外著名都市の計畫狀況一般及び各都市の地理、歴史、教育及び社會事業等の狀況を知るに足るべき資料を既に陳列してある外に、今後市民の文化生活と能率増進とを計る上、參考すべき資料を極力蒐集陳列する計畫である。

### ◆圖書室

本年度から新たに圖書室を設け主として都市に關する參考圖書、及び少年兒童のために、清新なる各種の通俗的讀物、理科學參考圖書等を選択して備付け、來館者に自由に閱覽せしむる筈である。

#### 「別館」 ◆通俗科學の知識を普及すべき各種の設備

別館に於てはこれまで既に左記

- 一、電氣はどんなものか、其の働き等を、通俗的によく理解せしむる設備。
  - 二、各種の機械の働きを通俗的によく理解せしむる設備。
  - 三、物理の通俗的理解を得しむる設備。
  - 四、化學の通俗的理解を得しむる設備。
  - 五、天文氣象臺に關する知識が簡易に得らるゝ設備。
- をしてあるが、本年より更に一層其の目的を達すべき資料を増補陳列し、講演、實驗と相待つて一般市民、特に青少年兒童等のため、活社會に處する上に必要な科學的知識を實際的に與ふべく計畫して居る。

#### ◆特別講演と各方面知名士の拐聘

從來の「日曜講演」、「一日會」及び「十五日會」の効果を一層大ならしめんが爲め、各方面の學者知名士、市關係各廳舎上級吏員、教育家、實業家等の出演を請ひ大大阪市民講座を設けることとする。

#### ◆講演室の増設

從來講演室は本館と別館と二ヶ所に設けて居たが、來館者中年少兒童と大人とを區別する必要を認め、更に本館に一

ヶ所増設し、日曜又は多數來館者ある際には三ヶ所の講演室に於て一は兒童のために、一は大人のために何れも市民教育を主とし、他の一は専ら一般のために科學的知識の養成主をこし數回講演する筈である。

#### ◆活動寫眞フィルム之作製又蒐集

大阪市に於て現在施設せる各種の事業、即ち電鐵、水道、港灣、土木、衛生、教育社會事業等の狀況を徹底的に理解せしむべき活動寫眞フィルム及び一般市民兒童教育上必要なるフィルムを新作又は蒐集し之を講演の資料として盛んに宣傳を試むる筈である。

#### ◆各種實演會

市に於て豫て委員を定め、毎月開催しつゝある講演、浪花節等の改良を目的とする研究會を聯絡し時々社會教育上稗補するものと認むる講演、浪花節等の實演會を催し、尙ほ將來音樂演奏會等をも催す計畫である。

#### ◆出張講演と活動寫眞

從來に於ても各學校、青年團、又は會社、工場、大商府其他各種團體の希望に應じ、出張講演をして居たが、右は單なる講演でなく、幻燈、活動寫眞等を應用し、興味の裡に市民教化を目的とするのであるから、各種のフィルムを要するので上記記の如く新たに作製及び蒐集完成の上は盛んに各所の希望に應じ、無料にて出張講演をする筈である。

#### ◆今後の大展覽會

本年開催の豫定であつた文化生活に關する展覽會は暫く之を見合せて上記館内の充實と市民の教化宣傳に全力を竭し徐ろに時機を待ち、何等かの形に於て大々的展覽會を開催する。

#### ◆諸集會の開催と各種團體との聯絡

市内各種團體に於て、當館を見學旁々、月例會、總會、又は修養會等を當館に會て催されんとする場合は、數日前に御申込みになれば、他に差支のない限り喜んで其の需めに應ずる、御容赦なく盛んに利用せられんことを希望する。

#### ◆本館休憩室

館内に休憩室を新設し、茶、コーヒー等を備へ、來館者の希望により隨意簡單なる食事を取ることも出来るやうの設備をする考案中である。

#### 消費組合書記 (其三)

勞働問題社會問題に關係した本が並べられ壁には大和繪であらうが美人が朝目が醒めて床の上に身を起し髪を搔きあげて居る處の刷り物ではあるが掛けられて居る。彼は藝術に對しても一廉の識見を持つて居るのである。自分で描ける譯ではないが天平時代推古時代の佛教を背景として發達した日本の古美術に對しては特に趣味がある。其間の藝術品を見て作者の心境を窺ふ事が出来るならば身は〇〇會理事であれど其儘運慶であり鳥佛師である云ふ意見で藝術品に對しては頭を下げる。彼は一種の偶像崇拜者云ふ事が出来る。其れで日本では大和藥師寺の本尊が一番尊い云ふ様な事を云ひ出した。其外俳句に對しても趣味を持つて居り、未だ此様に忙しくなかつた時には句會を作つて其俳號を四溜と稱し甲の家に集つたり乙の家に寄つたりして盛んに句を作つたものである。



市民博物館長

## 堀居左五郎氏

☒……從六位勳六等の肩書を振り廻して四角張つた所が時代の思潮は容易に屈伏し得るものでない、况んや市立博物館長も名乗つて肩で風切る譯には到底行かねものぢや、人生行路の難は海に非らず山ならず獨り人心の反覆にありさ……と笑殺して一向人の尊敬を顧みぬ堀居君は明治元年四月生れ今五十代の初老にしては珍らしい現代的な人である

☒……破顔一笑の瞬間には胸裡腹中を之れ洗ひ出して些の包む所なき天真を傳へ除ろに新進氣鋭の空気を吸つては陳代する、其處に何んの牆壁も遠慮も棄て、凡ゆる人が魅せられて行く、而して吸ひ込まれた人々は其偉大さに驚倒するのである、それも道理彼れは平和の人であるが膽玉の大きい腹の据つた所に豫想もつかぬ俗脱の氣風凛々たるものがある

☒……一度眞劍の談論に接すれば其該博にして徹底した理路一条も亂れざる鋭鋒は多年の經驗より獲たる明智を加へて益々崇敬を購ふ篤學者として彼れの眞價に恐入らざるを得まい、彼れは凡ゆる方面に對する攻究を怠らず常に新時代の推移を見逃す事なく絶倫の精力を傾けて經え間も無く智的修養を續けて居るのである

☒……平民主義を標語とする此の偉物は過去の功績に對しては一言も公開せまいとする只將來に向つて一舉手一投足も新規の奉仕を祈つて居る、彼れの主義から謂へば不言實行と垂築教導との二要素を自ら體驗する事である、而して彼れは一切の故障に痺まず佛に困り努力に需めて人格的基礎を築かん事に精勵して居る

☒……堀居君が内外の折衝甚だ多く且つ文化生活上の樞機たる市民博物館々長たる迄には尙多くの必然性を有して居た、學識經驗は既に定評ある通り動かぬが更に其強固な信念を數へねばならぬ、彼れは其の後半生を自ら育英事業に獻ぜん覺悟して居り其實現の爲めに銳意心を碎きつゝあるのである

☒……半白の頭髮や潤み多い眼ざしには殉する者の嚴かな決意が溢れて居るではないか、明晰な而して推理力に満てる其頭腦は子弟薰陶の大任と愛市觀念の普及より外に一物の雜念も無い、僕は勉學もしたが未だ語る程に達しない……語るに足るものは社會奉仕として是れから勉める謂ふ事だ……さう彼れは明らかに指摘して居る

☒……彼れは滋賀縣の人、阪田郡大原村を故郷とする附近に敏達天皇、皇后息長廣姫命の御陵のある所に育つて敬神尊皇の氣に充ちて居る、中學を出で、明治二十七年には東京高等工業學校を卒業し當時降る様に要望され乍ら凡てを斷つて漂然兵庫縣の尋常師範學校助教諭に赴任し微位に安んじて後輩を陶冶した

☒……其後懇望されて大阪高等工業學校教授たる事長年月を閲し更に奈良縣吉野郡實業學校長となりて後ち大阪市立工業學校長に轉じ四十三年には特に英國に派遣せられて海外の情勢を究め爾後現職に任じ君の如きは名利の淡き紳士である

### 労働組合書記 (其四)

四溜云ふ當味は以前彼の住つた家が想像を許さない程複雑した路次に面して居り十文字の道をどつちの方向へ歩んでも行き止つた云ふので四方閉塞と云ふ意味で四溜である云ふ。「此頃は少し忙しうございます友人が死んだので其遺稿を編輯して居ますので」云つて俳句の方には可なり自信があるものゝ如くである。

## 橋本耕之介氏

☒……君は館長堀居君を輔佐する割策縦横の才人である、其博物館の事業に關して犀利な頭から割り出して如何にせば市民の前に盡瘁し効果を齎すべきか一意専念献身的に努力して居る、曾つて訪ふ人の心委せに消極主義を採つた斯の種増化事業を排し積極手段に懇へて來ぬ人も招ぐ方法を斷行したのも實は君の立案に係る新規軸である

☒……元來が活動的才能を帯びる君は須臾も放任御座なり主義に染む事は出来得ない、市民の考古學的開發をのみ専屬事務として居る全國の博物館を一笑に附して現代に交渉多き材料をも含ませたなごは半面に於て市民の接觸を増進したもので謂はゞ靜動兩極の拆表である、そこがソレ橋本君の本領が幸ひにして實現した所である

☒……其の癖堀居君の寵兒とし切つても切れぬ因縁を重んじ之れ亦現職を活用して頗る智識を練磨し學究方面に人知れず努力をするのである、若し人あつて彼れに見解を叩くあらば橋本君は謙讓乍ら忽ち火蓋を切つて説くであらう、其の明敏な辯は肺腑に喉ひ入り蘊奥な造詣は人をして必ず舌を捲かしめる相違ない

☒……然も彼れは事理を分け對人の説を尊重して分理的な説伏をするのである、若し又賓客の來館は際會せば自ら陣頭に起ちて館内全部の材料を指して一々由來や時代觀學說推理を謂ふ様に觀客が肯定する迄で明確且つ詳細を極める説述をするのである、此の點に於ても大阪博物館が他に優秀と謂はれるが其大半は君に負ふ所が多い

☒……君は大阪府下中河内郡三宅村の産明治二十一年十月生、居村の小學から其の中學に學び第三高等學校を経て京都帝國大學文學部を四十五年卒業した新進の文學士である、學生時代は可成りの脱線粗で時に櫻狩りの發展を事としたが然し專攻學に對する修養は雷の様に猛烈なものがあつたので同窓間の評判男の一人であつた

☒……學校を去つた彼れは種をめぐめて荒波を建闘した、始め大阪府立八尾中學教諭となり轉じて大阪府立工業學校教諭に任じ茲で堀居君と握手し一年現職に就いたのである、彼れは讀書は勿論園藝にも趣味タップリり最近漸く圓熟しつつある

## 労働組合書記 (其五)

潤れ池の泥に魚柄み寒に入る。

霞吹き残るあかりに枯木かな。

波がしら見ゆそめ鴨はたちけり。

あきらめのけふも冬木の中に栖み。

寒鰯の子に鴨太りまないたに。

等の作がある。いづれも立派な句である。寒鰯や枯木の事許り作つて居る様でもあるがこれは一月二月頃の句會でものした句集から抜いたので其様な事になつた。階下が彼の住居に宛てられて居る。子供が多いので妻君は何も内職はして居ない。彼の結婚生活は複雑を極めたものであつた今の妻君とは一昨年結婚して二つになる女兒をあけて居る。

## 第七節 高等實修女學校

◎出 發 點

同じ中等の女學校をこしらへるならば、世間に類例のない學校、しかも大阪の現在の社會狀態に最適合するものを、こしらへたいといふのが、當事者の考へで、此の意味に於て此學校は生れたのである。

◎内 容

本科は四箇年で、尋常小學卒業生が入るのであるが。此上に一箇年の補習科、二箇年の専攻科がある。

一、家 政 科

本科の中が家政科と、經濟科との二つに別れてゐる。家政科といふのは、名の通り家政を掌るに適するやうで居る。こいつて實科高等女學校とは大に趣を異にし、英語もあれば、外國歴史もあり、代數幾何もあり、現代の生活に適合するやうできてゐる。しかも裁縫に於ても十分できるやうにして、一朝不幸に逢つた場合にも、生活に窮しないまでの手を作るやうになつて居る。つまり他の高等女學校と同じ様に普通學の智識を與ふるに共に、手をも作るやうにしようである。

二、經 濟 科

經濟の方は、やゝもすれば女事務員でも作る目的ではないか、誤解され易い。然し元々他の高等女學校と同じ様に普通學の智識を與ふるは勿論、之に加ふるに若干經濟的の智識を與へ、活現代を理解せしむるに同時に、經濟的の頭でもつて家政を料理するやうにしようといふのが第一の眼目である。傍、此智識を以つて主人の職務の手傳もし、又一旦不幸に逢つた場合も、生活に窮しない素地を作つておかうといふのが此科の眞の目的である。勿論裁縫や家事も相當できるやうにしうである。

三、持 色 を 附 け 得 る 理 由

斯く普通學の智識を授ける外に裁縫或は經濟の特色を持たすことの出来るのは、全く實業學校令に據つた爲めである。普通の女學校の一週教授時数は三十時間以内と限定しあるも、實業學校令に於ては其制限がないから裁縫、經濟を教へる爲に適宜時間数を増すことが出来るのである。

四、生 活 の 安 定

以上家政科經濟科も、主婦として一家を料理して行くことを根本の目的とし、萬一の場合に生活に窮しないやうにして行かうといふのが副次的の目的となつてゐるのである。抑々如何なる富貴の家に生れた人も、人間の將來は測られぬものであります。婦人は、太體に於て、主婦として一家を整理するといふことが、其天職であるが、一旦逆境に處しても狼狽せず、一家の恢復を計るべき能力、或は夫の遺志を繼ぎ子女の養育を全うし、或は自己一身の體面を汚さないやうに爲し得る能力を與へて置くといふことは、現代の如き生存競争の激しき世には最必要なることであり、且は婦人の生活に常に活力と光明とを與ふるわけであつて、之が亦家庭の全體に如何に光明を與ふるかを想ふのである。

五、補 習 科

補習科に於ては、主として裁縫、家事の補習を爲し、本科の仕上げといふべきものであります。隨意科として經濟一班或は教育一班を加へてあります。一家整理の上から見て經濟を課し、又家庭教育の上から或は教育者となる上から見て、教育を課したのであります。

六、専 攻 科

専攻科になるに餘程高い教育で、いはゞ女子の高等教育といふべきものである。普通の女學校卒業以上の資格を有する人間を造るこいふのが、此科の目的であつて、本校の本科卒業生や、他の女學校の卒業生を入れる程度である。此

中に家政を主とするものと、經濟を主とするものとの二つに別れてゐます。十分に頭も手も作るやうになつて居る譯けである。

◎將 來

本校は將來發展すべき望みを持つて居ます。近き將來に校舎も擴大せられ生徒數も八百に達し、年々共に外形も内實も擴充し行くべき運命を持つて居るのであります。

### 勞働組合書記 (其六)

先妻の子が二人長男が十七長女が十三である。最初に結婚したのは二十二歳の時であつた。彼は勞働運動家で社會に對する不平は數限り無くある。戸外をチリン／＼と號外賣が歩く(件の號外には太平洋會議に於ける米國の提案の内容が出て居る)「十萬人何が十萬人で濟みませう。全然軍備撤廢でないから幾分は残る者があるとしても佐世保、舞鶴、吳等で大恐慌を來すでせう。大阪では藤永田が不要となる。住友伸銅所住友製鋼所等も事業を停止するより外無くなる。其外陸海軍に物品を納入して立つて居る會社は大阪には澤山あるのです。其等が何に轉業するに云つても仕事があるのですか」彼は朴音なので云ふ事が一層偉らそうに聞ゆる「御飯を喰べられなくなるものは勞働者のみではありません、悪くする之が産業組織そのもの、改革を要する事になりますよ」

## 實修女學校長 谷 馨氏

☒……正七位谷馨氏は目下市立西區高等實修女子學校長である、君は遠大な理想に因つて女子教育の爲めに特色ある一新生面を開かん事に熱中して居る、君の説に依ると今時の女子教育は無暗に新しい氣分に浮かれる弊があつて良妻賢母の實質も謂ふべき手頭の働きを兼備するのが尠ない、此れでは自運や原阿佐緒が幾人でも出るさうだ、

☒……文學趣味や理想主義もよい、だが肝心な山の神が戀愛論や學究のみを固守して居たら如何に權兵衛種を蒔くとも薰育は愚か面倒を見られまい、家族制度の根本は後繼内閣を作る所にも真理があるから女は女としての職分に忠實であり度い、従つて理窟一片の型よりは寧ろ實用的な妻君の型を建設せねばならぬと谷君は信じて居るのだ

☒……それで動もすれば野狐禪を氣取る現代教育家には珍らしい新傾向の人として尊重されて居る、それも其筈彼れは明治二十五年岡山師範を卒業してから小學校長として前役七ヶ年實驗哲學を踏んで來た、而して三十六年東京高等師範國漢文科を出で茲に第二段の實修に入つたのである、春風秋雨幾星霜今日に於て尙且つ斯界に在るのだ

☒……其經過を辿ると三十六年から三十八年迄廣嶋縣忠海中學校教諭、三十八年から四十年迄岡山縣閑谷中學教諭兼舎監、四十年より四十四年の間は岡山縣津山高等女學校教諭四十四年より大正四年迄大阪天王寺師範教諭兼舎監、大正四年より九年迄泉南高等女學校教頭等で其後西區女子手藝學校長から現任になつた

⊠……此の間にも大阪府小學校教員檢定試驗常任委員、社會事業囑託其他教育界の大小案件ミなく關係して最早充分なる洗練を経て居る、従つて斯界の事なら平面でも立體でも如何なる事象に遭着するも快刀斷亂麻の怪手腕と實力を把持して居るのだ、女子教育に係る抱負位ひはお茶の粉奪々である

⊠……君は岡山縣津山の人舊土族の家に明治四年九月出生し國漢文の舊式教育に鑄造されたが小學卒業後憤然燃ゆるが如き野望を棄て、直ちに師範學校に入り教育界に乗り出したのである、旅行ミ讀書は大好物で温厚玉の如き人格を以て今は實修女學校の建創に心身を捧けて居る

#### 勞働組合書記 (其七)

力を入れて『要するに從來の爲政者が軍備にのみ重きを置いて來たのが悪かつたのです。今迄はナポレオンミかアレキサンダーとか云ふ一種の支配狂を尊敬して居たのですからね。私は百萬の失業者が出來たとしても今度の軍備縮少には大賛成ですが其結果が如何に大きなものであるかを打算して居ない當事者の迂愚を私に笑つて居る者ですよ』彼の説には多少の誇張がある。大いに眉に唾して聞く可き説であるがいはづれは一騒動あらうとも思はれる。『私の主義は○○○○○○○○○○に○○○○○○○○を加味した奴です。全日本の勞働者は團結困難であらう云はれるのですか。英國？。英國には團結し得ない原因があるのです。原因は國民性其ものなのですが歐米人は砂の様にバラバラの個人主義の國ですからね。團體的行動をするのは彼等の利害關係から來て居るのです。』

#### 實科女學校長

### 豊田小八郎氏

⊠……桔梗經營三十年遂ひに一身を教育事業に捧げつゝ今日に至つた君は其晩年を市立北區實科高等女學校長として貢献して居る、時に人は録々の勤績年數を嘲笑して無爲の徒とする、然し苟も千變一律の一事業に従事するには絶大な克己心を必要とするのだ従つて腦漿を惱す事も甚だ多い此れをも嘲笑するにせよ一種の羨望的態度と謂ふべきである

⊠……豊田君の如きは誠心誠意舉げて教化事業に殉せんと庶幾して居る、其過去は恰も開拓者として限りなき砂漠に勇奮すると異ならない眞に天賦の爲めに一切の心願を罩めて他意なきを如何せんやである、三十年の長年月は只平坦な旅路で無かつた事勿論で變化ミ練磨ミの過去であつた、これあるが故に君の現在は玲瓏玉の如き人格となつたのである

⊠……君は從六位勳六等の肩書を授かる迄には随分苦心酸膽の活歴史を持つて居る、正規の教育は只兵庫縣篠山中學即ち鳳鳴塾から大阪師範天王師範の前身を卒業した丈けであるが元來負けじ嫌ひの彼れは明治十年師範を終へるや東區高等小學校に就任し翌年校長ミな傍ら孜々として研究を重ね二十六年には愈々獨學の試練をした、

⊠……叩ち彼れは中等教員檢定制發布の第一回目に進んで修身、國語、漢文、歴史地理等の檢定試験に合格し同年早ちに目今の梅田女學校當時市立大阪高等女學校教諭となり鋭意女子訓導の衝に當つた、而して數年後府立第一中學即ち今の北野中學に轉じ青年教育に従事し、其後兵庫縣豊岡中學、徳島縣徳島中學に奉職した



⊠……明治三十四年堺中學校に轉じてからは勤続前後二十年茲に終焉の地を定めて全力を傾注し以て青年を指導する所があつたが其の着實不斷の努力は普く府教育界に悉知せられて大正八年市の懸望に聽從して現職に轉ずる事となつた何を謂つても紛糾雜錯な斯界に在つて悠々三十五ヶ年間も泰然盡瘁したには亦以て誇るべき理由がある

⊠……君は慶應二年一月兵庫縣多紀郡篠山町に生れた人、今では煙草嫌ひ、酒嫌ひ甚も將棋も駄目、音樂には聴く耳を持たず、謠曲も淨瑠璃も芝居等も一切合切趣味に非ず讀書研究子を唯一の樂みとして居るが何が格で丹波篠山の住人である時に快感に嘖られて青春の意氣を發揚して理窟謂ふ奴勝手にぬかせデカンショと碎ける粹氣は今以て多量にある

### 労働組合書記 (其八)

日本も同じ？御説は尤もで私達も此運動に關係して居ると皆自分の利益の爲め許りで加盟したる又は行動を共にして居る者もありますが其以外に古來日本人には先天的の團體意識があるのです。楠正成にした處が西郷隆盛にした處が名譽の爲めでも利益の爲めでもない團體其のものゝ爲め組織其のものゝ爲めには眼がグラ／＼ツミして幾多の生命を亡くしても何事も思はないのです其徒輩が多勢居るので私自身の經驗から云つても一度日本労働總同盟の名を掲げたが、最後其名の爲めに皆我を忘れてしまふのです。従つて英國の組合運動があれ以上發達しないから云つて其論法で日本の組合労働が英國と同様行詰ると云ふ結論は決して出て来ません』彼は先づ組合の總同盟然る後〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇と云ふ思想の所持者であるらしく資本家は我が〇〇〇氏の爲めに恐れしめられる事夥しいのである。其他彼は労働組合の組織等に關しても一隻眼あり人に接するに眞摯な態度熱烈な辯舌は人を引き込まずに居らない。因に一箇月程以前日本労働總同盟大阪聯合會會長選舉に際しては彼は有力なる候補者の一人である。(終)

⊠……科學に對する未開な二十年頃には政治論以外に餘り人の注目しなかつた高工を選んだに就いても逸聞はあるが兎に角卒業後彼れは福井、山梨、山口、群馬等の各縣に於て工業學校校長又は工業試験所長を勤め大ひに工業振興策に力を教したのである、其後朝鮮に渡り工業傳習所を設立し併合の際朝鮮總督府技師として勤務した

⊠……君は實業界に於て第五回内國博覽會其他各種の共進會には審査官となり官を辭して大阪に遊んだのであるが鋭才隠れず市の招聘を受けて茲に新設泉尾工業に校長となつたのである、君は傳記類の書を好み細密な腦漿を以て精悍な開拓を怠らない

### 鐵工所鋼管部職工 (其一)

西野田の〇〇〇町云へば北大阪の工場地で附近には鐵工、製革、鋼管製造等種々な種類の工場がある。彼の家はこの町のある鐵工場前を左に折れた行き止りの路次で兩側が平家の廿軒長屋路次は赤瓦瓦で敷きつめられて居る。玄關も勝手も共に路次に向つて居り、大部分の家は玄關と勝手とが共通になつて居るので、随分汚い。右手の長屋が二、三軒で行き止まらう云ふ處に軒燈はないが門札は立派に、入口の邊極めて感じよく整頓せられた。彼の家がある。

玄關が二疊、奥が六疊と廊下、玄關の横に勝手云ふ間取の東向きで、床下は割合に高く通氣もよい様である。土地は非常に濕氣が多い云ふ事であるが健康に害のある程度のものではないらしい。

泉尾工業校長

## 野田忠藏氏

君は群馬縣伊勢崎町の人明治三年九月生れ正六位の肩書を持つ風采堂々の中老である、君の故郷は人も知る長脇差の鋒々連が會つて封建時代に羽振りを利用した丈に一般の人心が勇敢に出来て居る、義に勇み事に凝り何事かを爲さざらんの意氣に充實して居るので君も幼少の頃から郷黨の思潮に染み込んだのである、

生れ故郷が伊勢崎と來ては知る人ぞ知る霸氣に富み耽る者が随分名を馳せる所である仰けは秩父山脈西に流れ赤城妙義の奇山が附近に嵯峨として聳える、其麓は四季を通じて好書題である、人間の眼が所詮四圍の風景に養はれては又以て精神的に陶冶を享ける事を否定されまい、君の稜々たる氣骨は自然の然らしめた所だ、

幼少時から辯の切れる野田君は好んで群書を繕き強記な其頭腦に益々磨きをかけたのであるが所謂清談の徒輩に終る事は警戒深い君の唾棄する所であつた、一士族の子が波亂多い明治初代に處して悠々自ら處世上の方針を決したなごは當時から既に非凡兒として郷黨の評判を博したものである

君は俠客國定忠次の勇壯義心を古老から説かれて先づ其の好奇心に驅らるゝよりは先づ故人の決心を學んだ而して明治聖代に處するの道は蓋し科學に非ずんば萬人の教化を策し得ぬものと深く決したのである、従つて小學中學校を卒業して間も無く一笈を負ふて東京に出で高等工業に入學した

實踐高等女學校長

## 須藤甚之助氏

市立實踐高等女學校長たる須藤君は未だ三十代の壯年である、従つて教育家と云ふ窮窟な器物の中に愚痴くして居る保守の氣風は餘りに尠いのだ、人として生理的に持續して行く躍如たる精神は問ふ迄も無く持つて居る、而して常に伸びんが爲めに將た亦前進せんとして勃々たるものであるが格で破裏的に不規則に之れを發揮したり表示したる事は求めても試みんとはし無いのである、一種の利巧者謂へばそれ迄であらう、併し須藤君の如きは意引會もがなで時期を俟つて大ひに破壊も志し同時に建設を急がんとするので謂はゞ深慮な特色を併行して居る男である

其校長として卒るる實踐女學校なるものが既に尋常一様の目的ぢや無い、從來の高等女學校が餘りに走り生徒養成に當つても實生活に縁の遠い所まで恰も王眼に教授せんとしては一は生徒の將來を誤り他は貴重な時間を空費させ所謂文化生活の發源たる能率増進に房はしく無いので積弊を一掃すべく企圖されたのが抑も實踐女學校である、然らば遠大な而も實際に近き最善の方法を試みる主宰者を必要とする、須藤君が此使命を果し得る者として指名されたのであるから勿論一頭地を抜いた特色を具有して居るのである、

君の理想は一般教育者流を抱く以上に幽遠至極である然るに再轉直下して實生活に順應すべきものゝみを包んで居る、徒つて儀禮に模倣せず又徒らに俗に落ちすと謂ふ所にある禪語の所謂比喩の如く鐘は鳴らない撞木も鳴らぬ鏡

ミ撞木の間に鳴る體態である、であるから入り易く納得し易く又實用に適し現代生活に一新紀元を劃する徑捷なるのだ、君は常に謂ふらく僕は好趣味が無い生徒の笑顔でも見るのが心地よいとある、以て教育に對する態度が充分に判明するだろう、

君は島根縣簸川郡川觀村の人明治二十年八月生れ長じて同縣立杵築中學を出で廣島高等師範に入り四十四年數物化學部を卒業した、而して爾後青森縣立弘前中學、東奥義塾、沖繩縣立師範學校福岡縣立朝倉中學、同修館等の教諭等を歴任して大阪市に來任し御津小學校長並補習校長となり撰拔されて現任となつたのである

### 鐵工所銅管部職工 (其二)

實際此家に住んでから既に五年になるが家族中誰も病氣をした事も無く、一家四人共——主人と妻君と子供二人健康らしい面持ちをして居るに見ても別段に住居の不完全が健康を害する程度のもではないらしい、西の方には庭があつて夕風が自由に入つて來る。彼は伸銅所の銅管部に勤めて居る銅管を焼いては引き伸す其伸し方をしてゐるので夏の日は熱を扱ふ仕事は困難だ云つて不平を云ひ、同じ人間が高熱の處で働く時も然らざる場所でも賃銀が全然違はないのは會社のやり方が合理的でない云ふて考へ込み、然し伸銅所全部の職工が團結する事は出来ませんと云つて一服つけて又つゞける。伸銅所の賃銀は他に比較して大變割合がよく、賃銀問題では職工側から爭議を持ち出す何等の理由はない。先月職工側が警告書と稱するものを出した原因は何處にあつたか云ふと、賃銀問題について動搖したのではなく全く團體交渉權を得んが爲めの動搖であつた。

### 市岡商業學校長

### 堀口米太郎氏

現に大阪市立市岡商業學校長として既に名あり、彼れは東京の人生粹の江戸ッ兒にして明治十一年品川町南馬場に呱呱の聲を擧げて明治三十三年七月東京高等商業學校を卒業す、爾來赤間關商業學校滋賀縣立商業學校の教諭を経明治四十年九月島根縣立商業學校長に任ぜられ益々其の博學多識なるを認められて大正三年三月岡山縣立商業學校長に輪じ同八年三月大阪市立市岡商業學校長に榮轉し以て今日に至りし人、彼れは總て概括力を有し而も辭書の學者にして劍兒の天分を有す讀書の量に於ては新進學者の容易に及ばざる程のものを有し其の讀破して得たる智識に就き研究考察分類等の智見豊富にして元より他の輩の到底企及し得ざる先天的のものである

而して彼れが研究して得たる學者的識見は益々彼れをして聰明ならしむるものである、彼れは學者としては言分の無い迄に多く書を読み且つ能く知つて居る、體ては一家の識見より諸學を概括して、教育界に新たなる一大發見を附與し世の識者をして首肯せしめる事もあらう、彼れ亦濃厚篤學の人温雅にして貴公子然たるの所有り而も潑刺の氣鋭に富み模範的紳士としての素質を有す、時に諤々の論調を用ゐて縱横無事盡に學術思想を論評し又諄々として傳來の學說を祖述し以て其の人格の大なるを示す事あり

彼の學才に於ては既に世の識者間に定評有る如く大いに見る可きもの多々有り年將きに老いたりミ雖も尙將來

に於ては高等學校教授に成すも一として不足有る人に非ず、事に當つては熱中し思索想像力に富み尙思想上に練々たる餘裕を有す眞に敬服に價する教育家で有る、我大阪市に斯くの如き良教育家の在る事は他に誇る可き事であると共にまた被教育者にとつて幸福な事である彼れは趣味として殊更に何も有せず雖も常に書齋中に埋つて讀書に没頭するを以て何よりも趣味の深きものとす、時に郊外を逍遙し野を散策せるの姿を見る事有り

### 鐵工所銅管部職工 (其三)

我々は賃銀其他報酬問題では別に無理を願ふ氣はない。只此團體交渉權の問題で、あるが故に我々も雖も時に及んでは立つ事があるかも知れんから、一應警告をして置くぞ云ふ文字通りの警告書に過ぎなかつた。

事實伸銅所の賃銀は云ひ分のある筈はなく、彼の賃銀について之を見るも常備の變化は最初四年前は五十二錢、次ぎが五十五錢、折々三、四錢宛あがつて今日では一圓三十八錢になつてゐる實収入は最初から月平均六十圓を下つた事は無く現在では八十圓を下る事は稀れである。

これ云ふのは官の仕事が多いため期限がきれ、ば伸銅所が罰金を出さねばならぬから澤山に報酬を出して期日に遅れぬやうにせねばならぬ故でせうと彼は云ふ。

彼の故郷は滋賀縣東淺井郡〇村で農家である。母は十年前、父は昨年二月亡くなつてゐる。この父云ふのが極めて無頓着な人で七人の兄弟中、學校に通はせたのは最後の女の兒のみで、それも尋常四年迄通はせた丈である。

### 工業學校長

## 杉田 稔氏

⊠……東亞に於ける商工界の中樞地、大阪市の一角に有つて工業界の人材を教養しつゝ、在る杉田君は工業學校長として斯界の權威者で有る、君は該博な智識と聰明な頭腦の所有者で有つて内外の事情に精通し熱誠な教授法と卓越せる指導力を以て物に處し事に當り寸分の遺憾をも念惜く能はざる文化の權化さへ言はれて居る

⊠……君は我國教育界に終始一貫し明治二十七年東京工業學校機械工藝部別科を出づるや直ちに教育界に身を投じ其の始め同年大阪市西區高等小學校訓導並に大阪市南區金龜實業補習學校囑託教員として暱勉兒童教育に貢献し越えて三十二年、轉じて愛知縣尋常師範學校の教諭兼舎監として教鞭を執りしに彼の講する諸講義は極めて洽汎にして明快、周到にして簡約、而も學生間に了解し易きが爲學生は之に嫌意を生ずる事無く生徒頼に倍加し而して君は一步一步斯界に珍重さるゝに至つたのである

⊠……斯くの如くして六年間同校に在職し三十六年退いて東京府師範學校教諭兼舎監を拜命し同地に赴き益々其の技倆を發揮し手腕を著はし如何に生徒を善道に導くかに就き寢食を忘れて深刻なる苦心に耽り終に教育家の覇者として四十二年清國南京西江師範學校教師に招聘されて同地に赴任し心身を忘れて同地兒童教育上に貢献せるや同國皇帝は君の努力の偉大なるに教銘し其の信望は遂に三等一雙龍寶星賞に成つて同皇帝より君に下賜されたので有る、其の恩賞に浴

したる君は鴻恩の厚きに教誨し以て愈々教育指導に盡瘁したのである

君が大正七年東京高等工業學校教授兼生徒監督を勤めた事は萬人周知の事實であらう

君は大阪府南河内郡平野村大字菅生の出身地は古より菅原道真公の誕生地なり云ふ傳へられ阿近は純然たる片田舎なるも勝地多く梅林等有りて幼童の向學心を裨益する事甚大なり明治二十二年大阪府尋常師範學校卒業後同二十七年東京工業學校機械工藝部特別科卒業後各地の教育界に携はり今日迄成つたのである君は修養園の發展を希望せる外何等趣味も稱す可きもの無しと云つて居るか堅實なる心の持主である事は否まれない。

#### 鐵工所鋼管部職工 (其九)

兄妹は勉強こそしないが悉く立派に成長し、男五人の中四人は皆兵隊に行つて夫々位を持って歸つて居る。五人目が今年検査を受けたが以前工場で膝關節を痛めた事があつたので不合格になつた。彼も五尺六寸餘の大男で一人前以上の働きのある人である。學校に行つたこゝのある末の女の子が國でまだ嫁入りもせずに家事の手傳をして居るが長兄は兵から歸つて來た儘何處へ行つたか未だに行衛不明になつてゐる。

彼は十六年前大阪に出て來た其後數回會社を變り仲鋼所に出る迄は難波の新田製革に居た。家族四人で、家賃は十圓四十錢である。

妻君は別に内職を持たない。内職の無い理由は是等の子供を抱えて少しも暇がない爲である。

主人は白編の裕衣を着て骨格が極めてよい。妻君は小柄で萬事つましやかに出來てゐる。



商業學校長  
神 山 和 雄 氏

……我市に於ける商業教育家中の重鎮、博學多識を以て世に定評有る氏は岐阜縣の人慶應二年十月岐阜市に接續せる常磐村に呱呱の聲を擧げ幼少時代より郷黨に神童の譽れを浴せられ先輩よりは常に其の行末を嚆望されし人、東京高等商業學校の出身で有つて爾來今日に至つたものである

……彼は教育上に深甚の興味をもち自ら教育學を研究し教育上に於ける根本の原理や本邦教育上の實際問題に関する微細なる彼れの意見は實に堂々たるもの、教育の意義、教育と社會との關係、教育と國家との關係、一個人上の教育等に關する詳細なる彼れの論評はまた現今の淺薄なる教育家と同一に語る可きに非ざる事は固より言を俟たざる所である

……又彼れの教育上に於ける其の着眼點の穩便にして健實なる事は吾々の最も敬服に堪へざる所であつて、殊に個人的教育説と社會的教育説とを調和して嚴として何れにも偏す可らずと爲せるが如きは實際堂々たる卓論である云ふ事が出来る、彼れは殊の外、世人よりも卓越せる頭腦を有し、又明晰なる判斷力と學識才能に長じ篤實眞面目にして學生時代より特に秀才の名あり當さに學者たる可き有爲の大人物である

……彼れは東京高等商業學校を出でて經濟界に赴かず直ちに走つて教鞭を富山縣立商業學校に執つた一事に於ても

如何に教育に多大の興味と抱負経倫を以て居たかが窺知し得る事が出来るので有る、而して富山より轉じて函館、名古屋の商業學校長を経、大阪貿易語學校長より現在大阪市立東商業學校長兼教諭として良教師の名を以て現に多くの子弟を教養しつゝ有り

☒……彼れは又現に大阪市助役として海内に隆々たる名ある法學博士關一氏の直弟子で有つて常に氏の宅を訪ひ、教育上に關する智識の交換を爲して居る趣味としては眞面目なる人だけに殊の外讀書を好み其他義太夫俗謡等に最も興味を持つて居る

鐵工所鋼管部職工 (其十)

髪は束髪で前の處を少し分けてゐる。容姿見え寝てゐた子供が蚊帳から一人出て來る次ぎのが又出てお父さんの膝の横に大人しくして居る。

家中の様子が實に整然としてゐる。主人の工夫で出來た天井の棚には種々の品物が正しく置かれ、神棚も小さな箱ではあるが、主人の座席に對して立派に出來て居る。主人の家族に對する態度は親切を極め、妻君も忠實に働くらしい子女の教育に關する意見は高生迄は是非も云ふ考へである。それと云ふのも彼が只の一年も學校に通つた事がないので世の中に出て不自由でないため、學問の必要を痛感してゐるがためである彼の座席に對した神棚に因んで一つの物語りがある。

第八節 各學校の職員

次ぎに各學校の職員を摘記すると左の通りである

(一) 市立高等商業學校 (南區天王寺烏ヶ辻町) 南二八三〇 二八四〇番

校長事務取扱囑託 (手當年五、五〇〇) 從三 勳二 武田千代三郎 東成郡天王寺村大字阿倍野三〇七

(教 授)		公立實業專門學校教授	
四等待遇	一級俸 (年三、八〇〇)	同	正六 伊藤雄真
同	二級俸 (年三、四〇〇)	同	正六 玉木三郎
同	二級俸 (當分年三、三〇〇)	同	正六 森政造
同	三級俸 ( ) 同	同	從六 東田藤吉
同	三級俸 (當分年一、〇〇〇)	同	兼弘正雄 (英、米國出張中)
五等待遇	三級俸 (年三、一〇〇)	同	織田松太郎
同	四級俸 (年二、八〇〇)	同	河本修三
同	五級俸 (年二、五〇〇)	同	黒田岩之助
同	四級俸 (年二、八〇〇)	同	永並豊古
同	五級俸 (年二、五〇〇)	同	田近新三郎
六等待遇	三級俸 (年三、一〇〇)	同	寺尾隆一
同	四級俸 (年二、八〇〇)	同	松崎壽
同	五級俸 (年二、五〇〇)	同	本村福松

同	三級俸 (當分年三、〇〇〇)	同	安藤 貫一
同	八級俸 (當分年六〇〇)	同	伊藤 春三
七等待遇	五級俸 (年二、五〇〇)	從七	細江 逸記
同	六級俸 (年二、二〇〇)	同	岡野 正平
同	六級俸 (當分年二、一〇〇)	正七	上田 耕甫
同	七級俸 (年二、〇〇〇)	同	佐々木 賢治
同	八級俸 (年一、八〇〇)	同	竹島 富三郎
同	(同)	同	大國 壽吉

(英、米國出張中)

(助教 授)

二級俸(月一四〇)	從七 勳六	玉木 敏彦	四級俸(月二二〇)	兼書記 多久儀 四郎
四級俸(月一二〇)	勳八	杉武 夫	五級俸(月二二〇)	從七、勳六 功六 黒田由治郎
六級 (月一〇〇)	勳七 功七	前田當太郎	七級 (月九〇)	從七、勳六 功六 八重口音吉
九級 (月七〇)		森田留吉		

(教授 嘱託)

(手當年八〇〇)	從四、勳三	法學博士	田島 錦治
(手當年二二〇)	正五、勳四	法學博士	財部 靜治
(手當一、四〇〇)	從五、勳六	法學博士	山本 美越
(手當年六〇)	從五	法學博士	河田 嗣乃
(手當年六〇)	正五	法學博士	竹崎 慎治
(手當年一、〇〇〇)			

(手當年七五)		木田 成之
(手當年五〇〇)	從七	小林 次郎
(手當年七六〇)	從五、勳六	樋間 市三郎
(手當年三〇〇)	從五、勳六	今川 一郎
(手當年四二〇)	從七、勳六	山口 正太郎
(手當年七八〇)	正五 法學博士	池田 良實
(手當年一、二〇〇)		福田 徳三
(手當年一、七〇〇)		福田 徳三
(手當年四八〇)		ミルトン、ビー マツデン
(手當年一〇〇)		エツチ、エス バテツク
(手當年一〇、〇〇〇)		ダブルユー、ビー、シー、トラホード
(手當年四二〇)	從五、勳五	佐藤 林藏
(手當年一五〇)		松田 長治
劍道師範嘱託 (手當年四二〇)		石田秀之助
弓道師範嘱託 (手當年二四〇)		天崎 壽圓
		柔道師範嘱託 (手當年三〇〇)
		三村貞吾
		岡内 木

書 記

四級俸 (月二二〇)	谷 只七	(兼) 助教授	多久儀 四郎
六級 (月二二〇)	加藤 亮賢	八級 (月八〇)	牧 秀雄
九級 (月七〇)	堀端 謹一郎	十級 (月六〇)	上野 佐太郎

十級俸 (月六〇) 齋藤 大三郎  
 校 醫 囑託  
 (手當年二四〇)

大阪市立衛生試験所長 藤原 博士

(二) 市立天王寺商業學校 (南區天王寺烏ヶ辻町) 南六六五〇番

校 長 四等待遇 三級俸(年三、一〇〇) 兼教諭、公立實業學校長 正六 下河内十二藏  
 東區森ノ宮町三九九

(教諭)

六等待遇 六級 (年二、〇〇〇)	公立實業學校教諭	正七	梁井 種男
同 四級 (當分年二、三〇〇)	同	同	篠原 泰助
同 六級 (同 一、九〇〇)	同	同	篠田 栗夫
同 (同 同)	同	同	山中 寛次郎
七等待遇 七級 (同 一、七〇〇)	同	同	小宅 忠愛
二級 (月一四〇)	稻岡 熊二郎	三級俸 (月一三〇)	正八動六 出原 龜太郎
三級 (月一三〇)	廣瀬 勘次郎	同 (月一三〇)	正八 中村 篤胤
同 (同)	松尾 敬時	同 (當分月二二八)	同 鋤納 良治
四級 (月一二〇)	押見 幸三郎	四級 (月一二〇)	同 生駒 義清
同 (同)	藤本 民雄	同 (同)	同 北條 圓然
同 (同)	兼劍道師範囑託正六動五	五級 (月一一〇)	同 藤田 鐵衛
同 (同)	佐々木 雄吾		同 水谷 力之助

五級俸 (月一一〇) 青山 正  
 六級 (月一〇〇) 中井 麻治郎

六級俸 (月一〇〇) 栗原 彌孝

(助教諭)

四級俸 (月九〇) 植月 文雄

四級俸 (月九〇) 動七 功七 清水 植吉

(教員囑託)

(手當年一三〇)	正七 大野 辰見	(手當年二二五)	正七 吉本 丕
(同 一〇〇)	三根 大悟	(同年一、〇〇〇)	松村 景春
(同 六〇)	小野村 彌太郎	(同 月五〇)	河本 修三
(同 月三〇)	白石 一郎	(同 二五)	多賀 義雄
(同月一四〇)	ハーバート、シー、サーヴィス		

劍道師範囑託 (手當年三〇〇) 原田 賢藏 (手當年一五) 教諭 藤田 鐵衛

柔道師範囑託 (手當年三〇〇) 天崎 壽圓 (手當年二〇〇) 村上 徳助

書 記 三級俸(月一〇〇) 動七 森田 保義 四級 (月九〇) 増田 榮三郎

校 醫 囑託 (月 六五) 田中 廣次 (手當年二四〇) 竹村 慶治



(三) 市立市岡商業學校 (西區市岡町) 西二六〇番

校長 五等待遇 四級俸(年二、八〇〇) 公立實業學校校長兼教諭 從六 堀口米太郎

(教諭)  
 七等待遇 四級俸 (年二、四〇〇) 公立實業學校教諭 正七 勳六 小松熊之助  
 七等待遇 五級 (當分年二、一〇〇) 同 從七 今村直人  
 同 七級 (當分一、七〇〇) 同 青木與吉  
 八等待遇 六級 (生二、〇〇〇) 同 正八 勳八 藤多文一  
 二級 (月一四〇) 鈴木重美 三級 (月一三〇) 正八 杉江勝  
 三級 (月一三〇) 山崎猛一 四級 (月一二〇) 同 諏訪幸藏  
 四級 (月一二〇) 兼書記心得 中川信太郎 同 (當分月二一五) 柴田房吉  
 五級 (月一〇〇) 正八、勳六功七 木下清 五級 (月一〇〇) 山元正美  
 同 (當分月一〇五) 長田敬房 六級 (月一〇〇) 宮武貞一  
 六級 (當分月九五) 相原辰夫 七級 (月九〇) 兼劍道師範囑託 小幡壽雄  
 七級 (月九〇) 辻吉郎 同 (同) 馬場善一  
 (教員心得)  
 (手當月九〇) 平井淳一郎 (手當月六〇) 藤原金熊  
 (教員囑託)  
 (手當月一四〇) ウ井リヤム、ゼームス、テラー (手當月九五) 吉村英藏  
 (手當月八〇) 園田重賢

劍道師範囑託 上田仁一 (兼) 教諭 小幡壽雄  
 (手當月四〇) 柔道師範囑託 須貝義八郎 七級俸 (月六〇) 岡本政男  
 書記心得 (兼) 教諭 中川信太郎  
 校醫囑託 (手當月二〇) 增田芳太郎

(四) 市立大阪實業學校 (北區玉江町二丁目) 土佐堀三〇六六番

校長 六等待遇 五級俸(年二、六〇〇) 兼教諭、公立實業學校校長兼教諭 宮川富次郎  
 南區天王寺大道二ノ四四三二

(教諭)  
 六等待遇 五級 (年二、二〇〇) 公立實業學校教諭 正七 北川武藏  
 七等待遇 七級 (年一、八〇〇) 同 從七 丹羽賢  
 同 八級 (年一、六〇〇) 同 田村武三郎  
 同 八級 (當分年一、五〇〇) 同 小林數寛  
 一級 (當分月一五〇) 正七 香川直勝 三級 (月一三〇) 楠井富三郎  
 三級 (月一三〇) 櫻田茂松 同 (當分月二二五) 白川勘七  
 同 (當分月一二〇) 岡本健三郎 四級 (月一二〇) 加藤四郎  
 四級 (月一二〇) 西森多鹿猪 同 (當分月一一五) 信岡清

六級 (當分月九五)	加賀見敬太郎	四級 (月九〇)	南榮藏
助 教 諭		同 (當分月八五)	橋爪雄夫
三級 (當分月九五)	尾崎親義	五級 (月八〇)	山崎ソノ
四級 (當分月八五)	加藤重之		
五級 (月八〇)	奧與太郎		
實 習 教 員			
(月一五)	横山龍之助	(月二〇〇)	棕本孝一
(月九五)	柿本敬三	(月九五)	近藤靜雄
(月八五)	山口龜市	(月八〇)	太峰 纈
(月七〇)	横野憲夫		
教 員 嘱 託			
(手當月一二〇)	小笠秀之輔	(手當月六五)	井上 文
(同 五〇)	岩津行一	(同 四〇)	小林國太郎
(同 三〇)	吉田銳雄	(同 二〇)	大矢近三
(同 二〇)	横塚市郎	(同 )	川端道弘
(同 )	林 靜得	(同 )	高橋包三
(同 )	西田龍勝		
書 記			
三級 (月一〇〇)	八茶木留之進	五級 (月八〇)	勝井仲次

(日一、五〇) 伯井淺次郎 (日一、四〇) 黒元 榮  
 校 醫 嘱 託 (手當年二四〇) 増田芳太郎

(五) 市立工業學校 (北區北野町牛丸町) 北一四五番

校 長 五等待遇 四級 (年二、八〇〇) 公立實業學校校長兼工業補習學校校長 從五勳六 杉田 稔

教 諭

六等待遇 四級 (年二、四〇〇) 公立實業學校教諭兼工業補習學校助教諭	正七	野呂長四郎
同 五級 (年二、二〇〇) 同	正七	上 島 爲治
同 六級 (年二、〇〇〇) 同	同	成 瀬 萬壽平
同 五級 (當分年二、一〇〇) 同	同	鈴 木 直則
同 七級 (年一、八〇〇) 同	同	原 田 正逸
七等待遇 六級 (年二、〇〇〇) 同	從六	上 總 亨
同 七級 (當分年一、七〇〇) 同	正八	三 上 壽惠吉
二級 (月一四〇)	從七	村 本 兼多郎
二級 (月一四〇)	從七	福 田 次彦
三級 (月一三〇)	從七、勳六功五	加 藤 美知雄
同 (同 )		地 井 清二郎
同 (同 )		井 上 信雄
同 (當分月一二五)		

同	(同)	同
同	(同)	同
四級	(月二二〇)	兼工業補習學校教員囑託
同	(當分月二一五)	同
同	同	兼工業補習學校助教諭
同	同	同
五級	(月一一〇)	兼工業補習學校助教諭
同	(同)	同
同	(同)	同
同	(同)	同
同	(同)	兼工業補習學校助教諭
同	(同)	兼工業補習學校教員囑託
六級	(同)	同
同	(月一〇〇)	同
七級	(月九〇)	同
助教諭		兼工業補習學校教員囑託
三級	(當分月九五)	
同	(同)	

勳七

小野勝夫	增山新平	加藤庄三郎	畑正一	森本及幸	今井秀晃	鹽谷五郎	谷慈實	清水正明	笠井靜司	外山一雄	小島淳吉	小西一良	若生大四郎	若生大四郎	若生大四郎	若生大四郎	若生大四郎	若生大四郎	若生大四郎
------	------	-------	-----	------	------	------	-----	------	------	------	------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

實習教員

(月一〇〇)	金森善太郎	(月一〇〇)
(月九五)	川口要吉	(月九五)
(月九〇)	太田正吉	(月八五)
(月八五)	棚橋仁三郎	(同)
(月八〇)	佐々木一三	(同)

教員囑託

(手當月一一〇)	兼工業補習學校教員	小川定吉	(手當月一〇〇)	山田及吉郎
(手當月一〇〇)		北原眞琴	(手當月九〇)	會田常五郎
(手當月九〇)	兼工業補習學校教員囑託	並山拜石	(同)	柴崎徳三郎
(同七〇)		山中又治郎	(手當月七〇)	勳七伊倉高
(同四〇)	兼工業補習學校教員囑託	渡邊定七	(兼書記)	吉田一馬
兼道師範囑託	(手當月三〇)			天崎壽圓
兼道師範囑託	(手當月二〇)			原田賢藏

書記

二級	(月一一〇)	兼工業補習學校事務員	勳八	小堀伸三
三級	(月一〇〇)	兼教員囑託工業補習學校事務員		吉田一馬
四級	(月九〇)			河部一宗
五級	(月八〇)			池上軍一
六級	(月七〇)			中山竹太郎

校 醫 嘱 託  
 (手當年六〇) 大阪市立衛生試験所長  
 (手當年一八〇) 同 技師  
 藤原博士  
 野村禎一

(六) 市立東商業學校 (東區廣小路町) 南一五〇二番

校 長 五等待遇 一級俸(年三、八〇〇) 兼教諭 正六 勳六 神 山和雄  
 東成郡住吉村七八ノ一

(教 諭)  
 七等待遇 六級(年二、〇〇〇) 從七 石 崎 清 夫  
 同 七級(年一、八〇〇) 同 多 賀 義 雄

三級(月一三〇) 加藤淺次郎 三級(月一三〇) 有 本 邦 造  
 同(當分月一二三) 白石一郎 五級(月一〇〇) 原 竹次郎

五級(月一〇〇) 高橋貞治 六級(月一〇〇) 岡 本 芭 修  
 六級(同) 兼書記勳七功七 村山寛治 同(當分月九五) 池 田 清 直

七級(月九〇) 白井次郎 同 同 池 田 清 直

教 員 嘱 託  
 (手當月一〇〇) 福 島 德 平 (手當月一〇〇) 東 川 愛 胤  
 (同 九〇) 秦 重 春 (同 七五) 澤 延 常

(同 四〇) ジョセフ、エス、パイン (兼)(手當月一〇) 書記 田 澤 幸 吉

書 記 田 澤 幸 吉

一級俸(月二二〇) 兼教員嘱託 勳七 功七 田 澤 幸 吉  
 (兼)(手當月九) 教諭 村 山 寛 治  
 兒 玉 熊 太 郎

校 醫 嘱 託 (手當年二四〇)

(七) 市立實踐高等女學校 (北區扇町) 北四三八番  
 須 藤 甚 之 助 西區五條通二ノ二三

校 長 七等待遇 五級俸(年二、六〇〇)

(教 諭)  
 七級等待遇 七級俸(當分年一、六八〇) 岡 部 嘉 一  
 三級(當分月一二五) 岩 田 覺 藏 四級(月一二〇) 本 城 龜 夫

七級(月九〇) 吉 田 津 ヤ 七級(月 九〇) 米 増 壽 賀 野

九級(月七〇) 蜂 谷 ミ シ 子 書記 坂 本 金 一 郎

助 教 諭 (兼)(手當月三〇) 書記 坂 本 金 一 郎

教 員 嘱 託 (手當月七〇) 川 北 樹 子 (手當六五) 安 野 美 仁 子

(手當月三〇) 内 藤 俊 二 兼助教諭 坂 本 金 一 郎

書 記 五級俸(月八〇) 兼助教諭 坂 本 金 一 郎

校 醫 嘱 託 (手當年八〇) 越 智 豊 (手當年八〇) 大 阪 市 技 師 余 田 忠 吾

(同) 伊 藤 知 教

(八) 市立盲啞學校 (南區南桃谷町) 南一六九一番

校長 (月二〇〇) 宮島茂次郎 東成郡天王寺村大字天王寺一〇七七

(教諭)

(月一四〇) 兼舍監 高橋 潔 (月一〇) 兼舍監 西淵 峻

(月一〇五) 兼舍監 室井庄四郎 (月六〇) 兼舍監 谷口富次郎

助教諭

(月一〇〇) 佐藤 靖 (月九五) 兼舍監 櫻田 茂

(月九五) 兼舍監 關 安三郎 (同) 兼舍監 櫻田 茂

(月八五) 渡邊 健 (月八二) 兼舍監 櫻田 茂

(月八〇) 大曾根源助 (月八〇) 兼舍監 櫻田 茂

(月七五) 藤本敏文 (月七五) 兼舍監 櫻田 茂

(月七〇) 廣間ひで (月五〇) 兼舍監 櫻田 茂

教員 心得

(月二五) 高平久雄 (二〇) 川端米逸

(月五) 兼雇 河端一二郎 (手當月七〇) 柳 槌 三

教員 囑託

(手當月八〇) 阪神河藏 (手當月七〇) 柳 槌 三

(同 六〇) 端野達之助 (同 五五) 南館きぬ

(同 五五) 吉田政雄 (同 五〇) 洋内ハルエ

(同 五〇) 波田三之助 (同 四〇) 原田達三  
 (同 四〇) 大村恕三郎 (同 ) 高階徑世  
 (同 二八) 小林吉之助 (同 二五) 菊田歌雄  
 (同 二〇) 杉江泰一郎 (同 一八) 熊谷鐵太郎  
 (同 一〇) 菊原琴治  
 書記 心得 (月七五) 山田清一  
 書記 心得 (月五〇) 辻本善三郎  
 兼教員心得 河端一二郎 (同 一、五〇) 寺原覺太郎  
 校醫 囑託 兼教員心得 高階徑世 (年手當六〇) 山田有時  
 (手當年九〇) 兼教員心得 北方了嚴 (同 六〇)

(九) 市立阿波座圖書館 (西區阿波座小公園内) 新町六九番

館長 七級俸(年一、八〇〇) 兼市立西野田、御藏跡、清水谷圖書館長事務取扱 從七 片山信太郎

司書 心得 (月七〇) 長谷川義宏

出納手 野神宗太郎 (日一、五〇) 小畑亮市

(日一、〇〇) 森田正芳 (日 七〇) 北島太一

(十) 市立西野田圖書館 (北區西野田小公園内) 土佐堀七九九番

館長 事務取扱(兼) 市立阿波座圖書館長 片山信太郎  
司書 四級俸 (月一〇〇) 國澤照光  
出納手 (日一、二〇) 今井繁

(日八〇) 宮下己三郎 (日八〇) 中村元太郎  
(同) 中村久雄

(十一) 市立御藏跡圖書館 (南區御藏跡小公園内) 南六〇一〇番

館長 事務取扱(兼) 市立阿波座圖書館長 片山信太郎  
司書 七級俸 (月七〇) 加藤弘三  
出納手 (日一、二〇) 寺師猛器  
(日一、一〇) 和田幸藏 (日八〇) 藤原廣良  
(日七〇) 松田米藏

(十二) 市立清水谷圖書館 (東區清水谷小公園内) 南六〇七〇番

館長 事務取扱(兼) 市立阿波座圖書館長 片山信太郎  
司書 事務取扱(兼)

五級俸 (月九〇) 戸田百尺 七級俸 (月七〇)

司書 心得 (月七〇)

記 八級俸 (月六〇)

(日一、八〇)

出納手

(日一、三〇) 國田彌之助 (日一、二〇)

(日一、〇〇) 小池隆太郎

藤村梅三郎  
吉田秀太郎  
田中熊次郎  
津田宣州  
芦澤 浩

鐵工所鋼管部職工 其(十一)

それは昨年八月妻君が朝四時に起き髪を結ふて居ると筆筒の中で、パチパチと云ふ異様な音がして、煙が出て来るので不思議と思ふて筆筒を開けて見るに中が一杯の火になつて居た。主人も驚いて飛び起き、水をかけて消し止めたが、その爲め筆筒の中にあつた價格に見積れば三十圓程のものが皆焼失してしまつた。何故に火が出たかと云ふことについては、翌日お稻荷様にお願ひして聞いて見たら、その原因が分明了、此稻荷様は今も王川町四丁目の處を少し行つた處に店を出して居られる主人はそれ迄はこのお稻荷様は少しも知らなかつた。今でも其稻荷様を信じて居もせず、巫女の名も記憶して居ないが、小火の原因については「西洋マッチに乾燥綿ぞよ」云ふお知らせであつた。

## 第五章 附帶事業 第一節 弘濟會

大阪市當局が市直接經營する機關では無いが管理しつゝある附帶事業には弘濟會、教育會、青年團、婦人會等がある此等を順次事業の一般を紹介するに次ぎの通りである。

### (一) 弘濟本會の成立 (同會の發表したもの)

大阪市に市制が實施された時から、商工業の大都市として、是非救濟事業が必要になつて、随分苦しい中に、種々の調査が進められたのであるが、時運未だ熟せず、その實現を見る事が出来なかつたのであります。處が明治四十二年の夏に、北區の大火がありまして、恐ろしい大慘事が起りました誰れかこの有様を見て無關心で居られませう。多くの方の同情から火災義捐金が集まつたのであります。これより先、市には救濟事業の必要を認め既にその事務があつたのであるが、四十四年三月にこれらの事から益々その確立の必要に迫り、現會長稻田穰氏が市の囑託をうけて慈惠救濟事務主幹なられたのであります。その時の市長は植村氏でありました。その後火災義捐金處分 盡力せられた方々が本會の法人設定の豫備調査に苦心され、四十四年二月十一日、御下賜の御勅語中から弘濟の二字を拜戴して、本會の名稱とし、財團法人の申請をするに至つたのであります。處が四十五年の一月に、再び東南兩區の一部に涉つて、大火があつたため、益々本會成立の機運を進めて、大正元年八月十七日、愈々財團法人の設立を許可されたのであります。

かく成立の事を考へて見ると、本會の成立から今日に至るまでは、全く公私多くの方々の厚き御同情によつて、曲りなりにも成長して來たのであります。殊に畏れ多い事には、皇室から、御下賜金がありまして、斯の道に御心を御注か

せ給ふた事は、深く感銘して行かねばならぬと思ひまして、本會の大使命を果すために、益々粉骨碎身する決心で居るのであります。

### (二) 本會事業の目的

本會の目的は當初にあつては、北區罹災者の救濟は勿論南區及東區大火罹災者を救濟するのであつて將來までも是非やらねばならぬ事柄ではあるが、種々の事件が生るにつれて、廣く事業をすゝめて世のために、最大の努力をせねばならぬ事になつた、云はゞ本會の目的は、人を救ひ世を救ふと云ふのである。

### 各部

1、育兒部……社會の事情や家庭の事情で、東西もわからぬ頃から、憂い目を見ねばならぬ子供ほぎ、不幸な者、かうした子供は田舎より都會に、都會が大になればなるほぎ多いのであつて、暗黒から暗黒に、あたり人生を無にしてしまふのであります。これは人道からも、社會上からも放置して置くわけには出来ないのであります。これを解決すべき重大なる使命を負ふて出來たのが當部であつて、大正元年から今日に至るまでに、收容養育した實數が千二百七十三人です。自分の子供を育てる事でも、大事業であるのに、これだけの子供を教養する事は、血と汗とを要するのであります。子供が成人するに、その將來の道をつけてやらねばならぬ大問題が、更に出て來るのであります。

育兒の本當の目的に苦辛とは、此の點にありますが、本會はそれらその計畫を立て、居るのであります。

ロ、弘濟尋常小學校……子供に教育の必要なる事は申すまでもありません。義務教育が制定されてある事は、個人にも國家社會にも、重大必要事でありますから、國民である以上は何人もうけねばなりません。本會はこれによつて、小學校を設立し、育兒部に收容する子供は、學齡に達すれば勿論、學齡に達せる不就學兒童は本校に就學せしめて義務教育を授くるのであります。育兒部に来る子供は純な心を荒されて居るので、本校では智的教育をなすと共に、感情教育にも力を入れて居るのであります。目下就學兒童は八十五名、外部の學校に入學して居るものが十名餘あるのであります。

ハ、臨海養育所……育兒部收容兒童で身體の弱いものとが變質を有して居る者とかを移して教養する處であります。此處は極めて健康地であり、景色も云ひ全くの子供の別荘であります。只今二十五名、此處で學齡に達した者はその所在地の學校に入學せしめて居るのであります。

ニ、授産部……一種の感化事業であつて府立修徳館に入る事の出来ないやうな少年達を收容し感化授産をなすのでありますから、非常に困難な事業であります。それで種々研究の結果概してこの種の少年は、社會と家庭との缺陷から、浮浪生活に入り不良性を帯びるものであります。興味中心で動き廻るのであります。それで當部では少年達の興味を善導するために種々の作業施設をなして居りまして、それはミシン裁縫、印刷、木工、雜作業等であります。この他義務教育をうけない者には學校教育を部内で施し、心の改良をなすつゝありまして、當部で收容して感化教養した實數は大正六年以降今日に至るまでに、千六百七十四人であります。

この他外部の貧民や無職者にも種々の方法で、授産の目的で仕事を與へて居る次第であります。

ホ、大阪慈惠病院……人には病氣は禁物であります、況んやその日働かざれば食する不能なる者には、病氣ほご恐ろしいものはありません病んで食ふ不能且つ治療に道なき人達が、入つて来るのがその病院であります。世に貧すれば鈍する云ふ事がありますが、入院して来る人達は、この種の者が多いのでありますから、只だ身體の病のみを治療するだけでは不十分であるので、心の病の治療にも力を盡して居るのであります。社會のあらゆる病氣で入れ替はり、收容治療した實數は大正二年以降今日までに、九千六百七十三人であります。

ヘ、生野保養所……慈惠病院で、病氣輕快したものであつても、全然退院の出来ない者を移して全快まで靜養治療せしむる處でありまして、云はゞ慈惠病院の分院に申すべきものであります。當所では亦獨立の醫局がありまして、大阪醫科大學の卒業學士が二人宛交代出張して治療につこめて居ります。當所内に肺結核患者であつて、直接刀根山病院に入院出来ない者を、一時收容する處もありまして仲々困難な事業であります。當所に收容治療した實數は大正二年以降今日まで、二千五百十四人であります。

ト、養老部……老て頼るべき者なき、老いの身の最後は、傍の露路に消ゆるか、野獸の餌となるか、かゝる人は全く世からすてられた者であります。然し彼等も同じく人である以上は、何人か彼等の最後を見届けてやらねばならぬのであります。かゝる者を收容して、何の不安なく日を送らすのが、當部でありまして、大正二年から今日まで收容した實數は、七百十八人であります。

チ、保育部……當部の事は詳細保育事業一覽にありますから略しまして、大正二年以降今日まで預つた子供が延にするに七十六萬八千九百六十人あります。



リ、軍人遺家族援護事業……國家に血税を拂ふ軍人の任務は尊いものでありますが、家貧にして生活を支ふる事の出来ない者は、軍事救護法に適合する者であれば生活の解決も出来るのでありますが、戸籍の不完全から、この恩恵を與へる事の出来ない者が多いのであります、これらの家族を本會は救護するのがこの事業であります。

### (三) 従事員

救濟事業團としては、東京には養育院、大阪では本會吾が國に於ける斯業界の二大重鎮でも申しませうか従つて本會の中樞となるべき従事員は、百七十名でありまして、事務員、教師、醫員、藥劑手、授業師、舍監、保母長、看護婦長、準教師、雇、藥劑生、授業助手、守衛、看護婦及看病婦、保母、農夫、其他使丁、炊事人、及雜役等であります、而してこれらの従事員はいづれも斯業を多大の趣味を有する者ばかりである事は、本會の誇りとする處であります。

### (四) 豫算

本會は宛然一大家族であつて、收容者が日平均千二百餘名それに従事員が百七十名従つてこれに使用する費用は莫大なもので現在九年度の豫算は二十一萬圓以上でありまして、どうしても二十萬圓内外になるのであります處が大正二三年では、歳入が歳出に比して非常に多額になつて居りますがこれは、基金を基本財産に組み入れるために、多額になつ

たのであります。

### 財 産

財産の事を御話しいたします。

イ、基 本 財 産 貳拾九萬參百六圓七拾貳錢五厘

ロ、特 別 基 本 財 産 六萬七千參百圓

ハ、事業擴張準備積立金 壹萬參千四拾參圓

以上は、債券、公債及現金であります、

合計 參拾六萬貳千六百四十九圓七拾貳錢五厘

なるのであります。土地としては、

イ、宅地、田畑 (市外生野村大字林寺育兒部養老及保養所) 八千九百四拾壹坪九合

ロ、宅地、其他 (北長柄、授産部) 參千七百貳拾貳坪

ハ、宅 地 (南區貝柄町、保育部) 貳百參拾四坪

ニ、山 林 (泉北郡助松、臨海養育所) 貳百貳拾五坪

合計 壹萬參千百貳拾貳坪九合

時價 參拾九萬五百拾七圓五拾錢

となります。建物は、

イ、授産部 七百六拾七坪貳合四勺八分  
 ロ、育兒部及學校 六百參拾貳坪七合參勺七分  
 ハ、養老部 貳百四拾參坪參合〇五分  
 ニ、慈惠病院 參百六拾七坪七合〇〇  
 ホ、臨海養育所 六拾八坪七合五勺〇  
 ヘ、保育部 六拾七坪五合〇〇  
 合計 貳千六百拾六坪壹合壹勺五分  
 時價 拾六萬五千六百六拾六圓參拾錢五厘  
 となりまして他に器械器具などでこれを時價にすれば約參萬圓を降らざらぬと思ふのでありますこれでは本會の全財産は  
 總合計 九拾四萬八千參百參拾參圓五拾參錢なるのであります

収入

以上の財産を有する本會は、如何にして支出の費用を捻出するか、大體は基本財産から生ずる利子と市から年々下渡さる貳萬壹千圓と事業収入とであります、利子と云ふのは、極めて僅少で、これら三つの金數を合したものが、本會の費用となるのです。

市費に屬するもの	棄兒養育料
市費に屬するもの	市窮民擁護料
府費に屬するもの	行旅病人救護料
	准行旅病人救護料
	癩患者假救護料

これは本會が市及府から收容者の費用をうけるのでありまして右の他に棄兒には國庫米が下附され、費用となるのであるけれど、これも實費以下のもので、不十分のものであります。

實費 これは自分で費用を支辨し得るものに支辨させて居るのであります、實費だ、からと云ふて、實際の費用を徴収する事は、本人には非常に重過るのでありますから、公費に準じて支辨させて居るのであります、従つて本會では非常な損失を負擔して居るのであります。

保育料 これは日三錢で要するに各保育所に於ける子供の一日の世話料であります農藝收入及工賃  
 農藝收入 育兒部に稍廣大な農園がありまして、此處に出来る農作物の他、授産部にもある小さい農園からの收入等が極めて僅少なものではありませんが、これが農藝收入となるのであります。

工賃 授産部に印刷、ミシン裁縫、木工等の事業がありまして産業的に進めて居るのですが、働く者が殆んど收容者であるために収入も思ふ様には行かないのであります。養老部及保養所でも、手足の動く者には徒食させない云ふので、仕事をやらせて居るのですが、これは殆んど目の中に入る様な收入で、以上のこれらが、工賃とまつて一旦は収入するけれども大部分仕事する者に支給するのでありますから、剩餘として収入になるものは、極めて僅少なものであります。

以上の他に雜収入があるがこれも話しにならぬ程度のものであります。

寄附金 これには本會へ寄附金と、費途指定の寄附金があつて、前者は基本財産に入れ、後者は適當なる費途を考へて使ふものであります。  
 補助金 斯道の如き本會の成立はに、當然市も協力すべきものとして、市には一種同額出資の意味にて、年々利貳萬壹千圓を本會へ下渡さるゝのであります。

## (五) 歳入と歳出及事業の將來

本會の經費は、以上の収入が基となるので、従つて出來上る豫算の歳入は事實に於て常に限定されたものでありますから、歳出も極めて切り詰め、事業の性質には適合しないものであります、限りある資を以て、無限の救済を進め本會は少しでも事業を積極的に進めねばならぬのであります、惜しむらくは、忽ち經濟に打撃をうけるのであります。世の中が益々進んで益々複雑になつて來るに、世態が様々に變化して様々の事件が起るのであります。従つて本會の如き事業は、益々世のために大に活躍せねばならぬのであります。さうしなければ、世の中に解決の出來ない闇を益々多く生ずる事は、火を見るよりも明白であります。それで本會が過去に於ても、將來に於ても、如何に必要であるかを見るならば、各部が手分をして今日まで取り扱つた總延人数が、二百三十六萬六千七百九十二人でこれに費した費用が、百八十三萬千六百七十圓で過去に於ても如何に社會に必要であるかわかりません。過去に於てもかゝる多數の收容人数になつて居るのであるから、現今及將來の世態の變遷から推察しても、無限に増加して行く事は、明白な事であり、處々本會は限りある財産を、不確實なる収入で無限に問題を生んで行く社會に、應ずるに云ふ事は、非常な難事であり、云つて本會が沈滞する事は本會の使命を忘る事ばかりでなく、社會を困難ならしむる事になるのであるから本會は社會のために何等かの方法で經費を充實せしめねばならぬと思つて居ります、此處に本會は先づ歳入を豊富にして、歳出を十分ならしむる必要があるので運轉資金を作りたいと覺悟して居るのであります。

彼此思ひめぐらせば、本會の事業の如きは、少數従業者の働きに一任すべきものでなくて、世間多數の御同情と御理解による御贊助によらねばならぬ性質のものでありますから、本會の事業の盛衰は、實に、社會に重大なる關係を有するものだと思つて次第であります(以上は同會の趣旨に則る)

## 元弘濟會長 稻田 穰氏

□……往年警察政治家の異名を深刻せる大浦兼武子には四天王と通稱さる、股肱ありき、稻田君は則ち其の一人にして尤も斯界に權威を揮ひし人なり、敏眼慧智を拂つて行動する所遂ひに徹透明察なくんば已まず、行くとして可ならざる無き剛直の怪腕を示したり、既にして官界の寵を得累進亦榮進明治三十一二年の交には徳島、大分兩縣の警部長に任じ辛辣的確なる警察行政に隆名盛んなりき。

□……後拔擢せられ警視廳の要路に起ち東都警備の重任を果たし棹尾の異彩を印象を放射し明治三十四年要望に應じて清國政府に赴き北京警察學堂の教頭となり君獨特の警察學を注入し前後五ヶ年間隣邦の爲めに熱誠盡力之れ勉め一面清朝末期の社會狀態を攻究怠らず、功を以て三等寶星章を授與せられ日露戰役當時遽かに歸朝せり之義警察よりれ行政の盡功に依り從六位勳六等に叙す、

□……歸來君は深く清朝の社會面に想到し人間救恤の急務なるに着眼し飄然悟道を啓きて意を官途に斷ち熱烈灼くが如き信念を抱いて一身を挺して救済事業に盡さんご決意し殊に弱者薄命者の爲めに伴侶たらんご自ら劃策する所ありしが偶々明治四十三年植村市長が大阪市救済事業の中心人物を物色するに當り他の懇懇を受諾し慈惠事業に没頭する事ごせり。

⊠……是従市當面の救恤事務を處理し傍ら普く救済に關する調査研究を遂げ弘濟會創設に従事し財團法人の組織成るや擧げられて會長となり而して今日に及べり、他面、警察官の啓發に染手し大阪新舊警察官より成る有終會の幹事に擧げられ尙郷黨を後援する河州俊才獎勵會を設け之れ亦幹事に招せらる、

⊠……君は大阪府下北河内郡四條村字北條の人、安政六年五月十五日を以て生れ、幼時郷土の學校に學び京阪兩郡の和漢塾を來往し又法律政治及英語等を東都並に大阪の諸學校に於て修得せり、明治十五年始めて官途に就き大阪府部警たり、専ら内事部を整理し其副部長として漸次快腕を發揮し進んで高等課長に任じ勤続十餘年

⊠……其の間故大浦子の寵兒として大井憲太郎等一味の企起せる朝鮮事件を處理し二十五年内務省警保局に入り保安課長に任じ次いで佐賀縣警察部長に轉じ爾後政治警察の要職を経たりき、此の半生史に於て君は雅然たる言論機關取締方法を整頓し隱謀政治事犯壯士輩の監將視た亦惡徳新聞雜誌の嚴重禁壓等凡ゆる方面に鬼稻田の別名さへ得るものありし也、

⊠……彼れや叩けば鏗鏘として壯者を凌ぐの氣溢れ默せば犯すべからざる威嚴を保有す、試みに言を聞け曰く、我れ恨むもの三つあり、老聾視さる、其一也、故大浦子に報せざる其二也最後に未だ國家に奉公意の如く盡さざる其三也と以て彼れの心事を窺知するに足らん、又餘生を持する嚴に、而も過去の豊富なる經驗を練つて時々意見を發表し社會貢獻の一端を盡す、

此の老常に戸外運動は悉く趣味とし殊更に射擊、弓術、銃獵、釣魚、乘馬等を好み、撞球、花卉、栽培其他動物飼育を受す、射擊の如きは深甚に究め萬一の場合國防の前線に立たんのみを豪語し敢て各種射擊會に關係す氏は後輩の道を啓くため大正十一年九月優退したのである

## 弘濟會長心得主事 上山善治氏

⊠……稻田老の幕下に在りて青春の氣鋭を副ふるは上山君なり、従つて君は弘濟會の爲めに失ふべからざる逸材を其謂ふ所誠に輕妙にして如才無く平易にして何人にも徹底す、然も策計を回さば甚だ周到節に膺り、切々として社會落伍の群れの心絃に反映あり且つや確的の採算を美録を求めずして招くあり

⊠……君は青春尙未だ脈々として戀愛を語り情歌を奏すべき文學士の身を以て殊更に頽齡枯木の如き老輩を養ひ孤立漂泊の幼者を育成すべき無味乾燥甚だ枵格ある弘濟事業に従事せり、其豐艶の體軀と天稟の英裝を委するには餘りに哀情深き對照に非ざるなきか、然れども彼れは無下に冷評を棄て、顧みず、

⊠……故ある哉君や國文學を専攻して大正三年京都帝國大學文科を卒業後純潔なる理想を抱き乍ら會つて母校たる新潟縣立三條中學教諭赴任し後輩の爲めに萬丈の氣焰を吐き盡身盡心悉く捧けて訓育に従事する年餘に及び泰西の文物を攝取せしめて大ひに生徒を便じたりき

⊠……然るに時恰も東西思潮の過渡期にあり且つ夫れ新舊思想の交渉其の絶頂に達し爲めに上山君の趣旨は時代に適合する甚大なるに拘らず一夜青年の固性を尊重して育成すべしと論破したる事、端し無くも縣當局の固陋なる指彈點となり兩者敢て下らず主張を繰り生徒は上山君の爲めに騒動さへ起すに至れり、

⊠……固より主義に殉ずるは君の素志なれば潔く優退し茲に始めて社會生存の缺陷を痛切に自覺し半生を捧げて救濟事業に致さんご決意するに至れり、君の如きは實驗倫理より歸納したる不動の直覺にして名利を拭ふ敬すべき當代の模範なるべし、君は新潟縣西蒲原郡島上村の人明治二十二年二月六日生れ郷里三條中學を卒へ四十三年京都第三高等學校を卒業したる俊才なり、常に文筆に親しみ六合雜誌に俊筆を馳せ思想原理の文藝を好愛す、今や稻田老優退し爲めに有田助役に代つて會長代理の事務に従ひつゝあり

#### 鐵工所鋼管部職工（其十二）

何故に早く見附けたかについては『箆筒の上の天照皇大神が御自身焼けたくなかつたが爲めお前の所に知らせたぞ』とあつた。宜なる哉、彼はそれ迄は單に棚の上にお祭りしてあつた大神なりしを、其後は立派な箱を新調してお遷して一層の熱心を以つて朝夕禮拜するのである。

是等の信仰上の問題については未だ充分なる研究が出来て居ない爲め之に對して科學的の批判を下す事は出来ない。唯彼が巫女の言葉が『西洋マツチに乾燥綿ぞよ』とあつたので歸宅後取調べて見るこ、弟から預かつてゐた品物の中に西洋マツチがあり、妻君が前日炎天に綿を乾して其下の引出しに入れてあつた事が明瞭になつた天照皇大神も亦其箆筒の眞上にお祭りしてあつたのを見て、巫女の事象に對する原因探究術が如何に理想的なるかと云ふ點については彼は勿論、予も亦深く感心する次第である。



教育會主事  
故鹽崎左一氏

大阪市教育會は優に一府縣教育會と同等なる實體と勢力とを兼ね任務亦従つて重要調大なり、市教育家ミす稱る者を義務教育方面に數ふも尙且つ三千人に達し此等教員の側面的助成機關としては益々意義深遠なるもの儼存すべし、故に苟も其の主事たる者は之れを多年の經驗者に求め經驗に富む人を要するや明かなり、

鹽崎君は此の標準と試験に適したる好箇の人物にして資性温健着實、和風に満ちたる好々爺なり、然も想ふ所と述ぶる所とは雄大にして明快以て人の腦裡に徹す、以て健實なる力量手腕を併有する事敢て衆人の想到する所なるべし、宜なる哉君は益々時代思潮を研究して教育界の歸趨を思索し努力を拂つて壯者を啞然たらしむる蘊蓄を造詣せり、偶々義務教育の本質に逆行する施設あらんか自ら率先して事に當り熱烈なる反證を集めて衆論を決し進んで惡策打破に獻身的の傾力をなす所豈によく萬人の傲模を容れんや、君は石川縣大聖寺町の人慶應二年十二月二日を以て生る、始め郷黨に學びしが性來教育事業に興味を有したる結果乃父の任地に從ひ滋賀縣に赴くや入りて同縣師範學校を卒業し小學教員たる事約六年にして知名の敬慕を博し京都市小學校長たる事數年拔擢せられて京都府視學に任じ極力府下の教育界に盡す所あり名遂げ功終りて大阪市教育會に主事となり現在せり最近棹尾の貢獻を劃策し教育會館の建設に全力を傾かしつゝありしが不幸病魔の犯す所となり他界す此著靈前に捧ぐるを惜む

## 第二節 大阪市教育會

### 沿革

曩に本市有志者の發起にて本市教育の進展を圖るべき私設上の機關として設立したる大阪市教育會は都合に依り一旦解散するに至りしを以て市有志者並教育關係者等は深く之を遺憾として更に教育會を設立せんと欲し明治四十四年六月創立總會を開き同年十月發會式を挙げ茲に本會の組織成立を見るに至れり爾來益々本市教育の發達進歩を圖ることに努力を爲し今や會員數一千八百名基金一萬八年有餘圓を有し猶市より毎年補助金を受け其の基礎鞏固なるのみならず由來私設の團體なるを以て自由活動の餘地や存するを以て事業の進行上極めて便宜なり。

### 役員

理事十一名（内一名理事長）主事一名監事二名評議員三十五名にして理事監事評議員は總會に於て選舉し主事は會員中より理事長之を囑託す

### 機能

本會の事業部を左記五部に分ち各部に部長一名主事一名常任委員若干名を置き之に本會理事分任し各事業を審議實施す

#### 一、會社教育部

本部の事業を通俗講演、市民教育、社會教化、感化保護の四部に大別し本部に屬する役員等之が審議實施の展に當り現下企畫中のものは大阪市民讀本編纂、教育會館建設、學制發布五十年記念事業、音樂會並講演會の開催等にして其他社會教育に關する諸般の調査研究は本部に於て行ふ。

#### 二、學校教育部

本部は前項の如く事業を分類せざれども主として教員並兒童及生徒の方面に事業を進め本年度に於て實施したるものは市民科講習會並時局講習會にして小供會、全市私立小學校兒童の娛樂會等は實施計畫中に係り更に教員の學力向上の方法に關する件は審議中に屬せり尙學校教育に關する諸般の調査研究を行ふ

#### 三、體育獎勵部

本部には前記役員の外に二名の指導監督者を常置し中の島、天王寺兩公園に於て公衆運動を指導獎勵し時々役員會を開き各種の計畫を立て隨時陸上及水上の運動を實施す陸上運動としては體操教練、競争、跳躍、投擲、球技、相撲、野球、庭球、歩行、運動會等にして水上運動としては水泳及漕艇等を實施す其他講演講習會を行ひ尙體育に關する諸般の調査研究を行ふ

#### 四、女子教育部

本部に屬する事業は女子修養に關する講演及講習會育兒保育家政家庭教育等、生活改善及女子體育等に關する調査研究其他女子に必要な事業を行ふ本年に於て實施せる主要の事業は家庭の婦人に對し裁縫改良講習會並勤勞婦人慰安會等なり

#### 五、庶務會計部

本會理事及主事之を分掌し庶務會計の事務を扱ふ

### 第三節 青年團

#### (一) 大阪市青年聯合團概要

大阪市の青年團は所謂中央集權主義自治體の折衷方法により組織されて居る今設立當時の趣旨書を左に紹介する

輓近歐米諸國に於ける青年教養に關する施設は實に教育上の一大事實たるのみならず國家存立の基礎を確立し國民實力の源泉を涵養する所以となりこの見地より列國共に頗る之を重視し各相競ひ汲々乎として唯其及ばざらんことを是懼る、情勢に在り而して之が實績の現下の戰亂に於て發露せらるゝもの又極めて顯著なるものあるが如し

惟ふに青年は國民の後繼者にして國家將來の運命を其の双肩に荷ふべき使命を有するものなり而も青年の時期たるや心身の發達變化頗る急激にして思想未だ堅固ならず情意動もすれば粗放に流る所謂人生の危險期なり、雖亦一面修養上重要な時期たるを忘るべからずされば之が指導教養は有司識者の等困に附すべからざる國家的大事業にして又實に現代國民の次代國民に對する最大の義務なり云はざるべからず而して近時學校教育の施設益充實せられつゝあり、雖大多數の青年は小學校教育を終了すると共に直ちに社會の實務に就くの己むを得ざる境遇に在るを以て之が指導教養は所謂社會的教育の施設に待たざるべからず然り而して青年團體の設置は補習教育の施設と共に此目的を達する最も適切な方法にして先進諸國が夙に此種の施設に腐心せる固より偶然にあらざるなり

今や世界戦局の趨勢は國民實力の充實を促すこと益急にして青年教養に關する施設の振興一日も忽にすべからざるものあり朝野有識の士の主張論議近時頗る盛なるを致せる固より其所なりと云ふべし斯くて我國青年教養の施設漸次發達

の機運に趨かんとする時に當り恰も大正四年九月内務文部兩大臣の訓令を發せらるゝあり青年團體施設の方針指導の要綱を指示し地方有司に對し之が設置改善を勸奨する所ありたるは最も時宜に適合せる處置なり是より先き本市當局に於ても市内青年の實情調査を行ひ徐ろに之が指導の方法考究しつゝありしが此に至りて本市青年團に對する施設は最早一日の遷延を許さざるの時運に際會せるなり顧るに本市は東洋の要樞處り夙に帝國の商權を握り將に來らんとする世界經濟戰に於て重大なる使命を荷へるものにして實に我が國運の消長に特殊の關係を有するの地位にありされば本市並に市民の責任の重大なる固より言を待たずと雖其後繼者たる本市青年將來の任務は更に一層の重きを加ふるもの謂はざるべからず而して小學校教育を終りて更に高等の教育を受くるものは暫く措き直ちに以て實務に就くものありては其の徳性智能並に身體の發達は未だ復雜なる社會生活に順應するに足らざるのみならず動もすれば隨所に伏在する危険と誘惑との其の心身を萎微衰耗せしむるものあり先覺者の指導に青年自身の發奮修養と相俟ちて最善の方策を廻らすにあらずらば以て本市將來の市民として其責務を果すに足らざらんとす幸にして本市有識の士既に深く此點に留意し或は商店會社同業組合等に於て小學校を中心とし又は地方有志の發起による團體に於て夫々特殊の關係にある青年に對し或は精神修養に或は智能の啓發身體の鍛鍊に各適切なる施設を試み來りたるもの甚少からざるものありしは實に本市の誇とする所なるのみならず亦實に本聯合團組織の基礎を成せるものなり

兩省訓令の發布せられたる以後各地に於ける青年團體の創設改善一にして足らず、雖大都市に於ける青年の統一的團體は未だ本邦に其類例を見ざるが如し然りと雖本市既存の團體を聯合し相互の聯絡統一を圖り以て本市青年教養上の一大機關たらしむるは最も宜にして而も喫緊の要務に屬す本聯合團は實に此の自覺に基き各團體責任者相共に考究熟議し更に本市當局者及一般の協力を得て茲に其の成立を見るに至りたるものなり若し夫れ青年教養上の眼目團員修養の規準は本團綱領の明示する所の如し、雖加盟各團體實際の施設は名其特質に應じ自發的に目的の遂行に努むべく本聯合團は

之が中央機關として其連絡統一に任ずると共に各團の事業を指導援助し又此種團體の新に施設せらるゝことを勸奨するを以て其本領ミすべし

惟ふに本聯合團の將來は常に國家並に本市に對し重要な任務を荷へるのみならず又實に本邦都市青年の教養施設に對する模範を示すの覺悟を要する立場にありミ云はざるべからず而して此の大使命を完うするは固より本團關係當事者及青年各自の發奮努力に俟たざるべらずミ雖有司並に一般市民の同情ミ援助とに期待する所亦甚大なるものあり希くは内外一致の力により本團の健全なる發達を見るに至らんことを

大正六年六月

## 大阪市青年聯合團紀

綱領

- 一、忠孝義勇を重んじ國民精神を發揚すべし
- 一、誠信公正を尙ひ社會に對する責務を全くすべし
- 一、剛健實實を旨とし向上進取の意氣を盛にすべし

## 大阪市青年聯合團々歌

一、高津の宮の大御代に  
津の國人と生れたる

み恵うけし民の裔  
若き男の子に誠あり

二、つはものの夢跡絶て  
いで入る港大阪の

三、市のしるしはみをつくし  
まどはぬ道に舟を行る

今なりはひの百千船  
若き男の子に誇あり  
汐さる高く立つ時も  
若き男の子に望あり

## (二) 大阪市青年聯合團事業概要

第一、加盟團體の事業を援助又は指導に關する事

一、各青年團經費補助

補習教育を條件として大正九年度に於て左記の補助金を市及區より支給せり

市補助金 參萬六千圓

學區補助金 參萬六百五拾圓

二、各青年團指導

- 1 青年團振興に關し參考資料提供す
- 2 大阪市青年團補習教育實施施設を指示す
- 3 大阪市青年團事業概要並に豫管形式標準の指示す
- 4 青年文庫設立及青年讀物に關する標準指示す
- 5 平素各團を觀察して青年の指導方法に關し指導をなす



- 6 青年團幹部養成の目的を以て幹部講習會を開催す
  - 7 大阪市青年聯合團綱領の趣旨を宣傳する爲め特に講師を依頼し一團一ヶ年一回以上實施の豫定を以て各團に巡回講演を開催す
  - 8 大講演會を開き思想問題、時事問題等の講演をなせり
  - 9 各團の會合の際は係員出張して青年團に關する諸般の問題につき講話をなし且協議し居れり
  - 10 各青年團に講演會講習會等を開催する時は講師の周旋をなし其遂行を援く
  - 11 各青年團に於て砲兵工廠、會社、工場、學校、軍隊、官署等の實地見學をなす場合は本團に於て豫め交渉をなし其便宜を圖れり
  - 12 以上の外青年教養上參考となるべき事か又注意すべき事かにつき絶へず指導に努め居れり
- 第二、加盟團體相互の連絡に關する事
- 1 代表者總會
  - 加盟團體代表者總會は毎年三月末之を開催し諸般の報告を爲し且翌年度事業の方針其他諸種の問題につき協議せり
  - 2 區別並に種類別代表者會
  - 年三回以上區別又は種類別に各青年團長又は正團員代表者を集會し青年教養上の問題に付協議をなし各團の連絡統一を圖れり
  - 第三、加盟團體の聯合事業を主催に關する事
  - 1 智能啓發並に情操陶冶に關する事

- イ、區別講演會
- 年三回各區別に代表者會(團代表者並に青年代表者)を開催し其際講演會を開催すことせり
- ロ、大講演會
- 春秋二回各團の幹部并に成る可く多くの團員を集め名士を招聘して講演會を開催せり
- ハ、創立記念式
- 毎年六月十日に青年聯合團創立の日を記念するため創立記念式を舉行し併せて識見會を開催せり
- ニ、其他臨時必要に應じ青年教養上必要と認むる事業を行へり(例へば令旨拜戴及傳達式或は明治神宮鎮座式舉行の如く然り)
- 2 體育獎勵の爲め各種運動の實地指導、年一回大運動會及相撲大會、講演會等を開催し又體育法を指示せるが又運動競技の指導武道及野球大會の主催及體育に關する思想上の指導をなす豫定なり
- 第四、加盟團體團體指導者及團體所屬青年表彰に關する事
- 各青年團體の中成績佳良なる團體並に性行善良にして他の模範となるべき個人を團長より表彰する爲め年一回表彰式を舉行せり
- 第五、青年の指導教養に關する研究調査に關する事
- 青年團員教養上重要な問題として補習教育施設、公休日利用方法、青年讀物及青年文庫、女子青年會の組織、青年團の振興方法、青年團體等に付研究調査せり
- 第六會議に關する事項
- 1 理事會

毎月一回以上市青年聯合團理事會を開き青年團に關する諸事項の協議をなせり

2 評議員會  
年二回以上評議員會を開催して青年團に關する重要事項の協議をなせり

3 代表者總會  
年一回代表者總會を開催せり但必要に依り臨時總會を開催す

### (三) 大阪市青年聯合團役員

- |              |       |           |       |
|--------------|-------|-----------|-------|
| 團長           | 池上四郎  | 大阪市役所教育部長 | 福士末之助 |
| 理事           | 飯田吉太郎 | 豫備陸軍中將    | 權藤傳次  |
| 汎愛尋常小學校長     | 中條熊次郎 | 北區役所第一課長  | 勝賀野鹿衛 |
| 東區役所第一課長     | 片山宇一  | 市團聯合青年團長  | 杉村徳治郎 |
| 南區役所第一課長     | 兼田嘉藏  | 評議員議長     | 山口房五郎 |
| 大阪市教育部青年教育課長 | 多田豊毛  | 市會議員 辯護士  | 高山圭一  |
| 攝津青年團長       | 田中吉太郎 | 議長代理者     | 今井貫一  |
| 御津青年團長       | 成田軍平  | 桃園青年團長    | 池川大次郎 |
| 大阪府技師        | 中川伊作  | 評議員       | 堀居左五郎 |
| 大阪府技師        | 村井基一  | 大阪府立圖書館長  |       |
| 中川青年團長       | 村上熊太郎 | 西區長       |       |
| 大阪印刷業青年團長    |       | 市民博物館長    |       |
| 濟美聯合青年團長     |       |           |       |

- |              |        |            |        |
|--------------|--------|------------|--------|
| 中央電信局同寮彰誼會長  | 八木鐘次郎  | 大阪市視學      | 小畑富記   |
| 西區役所第一課長     | 松尾源太郎  | 大阪聯隊區司令官   | 中村直藏   |
| 南區長          | 高久 要   | 廣教青年團長     | 津田勝五郎  |
| 北區長          | 田中兵太郎  | 下福島青年團長    | 田中次太郎  |
| 市立大阪高等商業學校長  | 武田千代三郎 | 會根崎青年團長    | 吉本彦太郎  |
| 市會議員 辯護士     | 山口房五郎  | 菅南青年團長     | 増田種松   |
| 東區長          | 阪本重英   | 西野田聯合青年團長  | 餘部市郎兵衛 |
| 大阪市助役        | 木南正宣   | 金甌青年團長     | 吉村安兵衛  |
| 大阪基監教青年會名譽主事 | 佐島啓助   | 大寶青年團長     | 本田友衛   |
| 大阪醫科大學教授     | 木下東作   | 難波聯合青年團長   | 橋 善四郎  |
| 大阪市學務委員      | 鹽見伊八郎  | 渥美青年團長     | 山本藤助   |
| 大阪市助役        | 關 一    | 天王寺第三青年團長  | 安本作兵衛  |
| 大阪府學務課長      | 坂間 棟治  | 難喉場青年團長    | 和田徳之助  |
| 大阪天王寺師範學校長   | 和田廉之助  | 村木商親尙會長    | 藪岡猪三郎  |
| 大阪商業會議所副會長   | 稻畑勝太郎  | 十合吳服店青年團長  | 十合徳太郎  |
| 實業家          | 勝本快兵衛  | 工業補習學校々友會長 | 杉田 稔   |
| 堺聯隊區司令官      | 小野 庄造  | 西六青年團長     | 濱口駒次郎  |
| 玉造青年團長       | 佐々木計次郎 | 浪華青年團長     | 種谷喜兵衛  |
| 久寶青年團長       | 松山與兵衛  | 南大江青年團長    | 久保田種吉  |
| 三軒家青年團長      | 福原吉兵衛  | 船場青年團長     | 中山新七   |

本田青年團長  
西九條青年團長

岡本藤三郎  
西山卯之助

愛日青年團長  
清堀青年團長

芝川又四郎  
後藤幾太郎

### (四) 大阪市青年聯合團規約

(大正九年三月改正)

#### 第一章 第 則

第一條 大阪市内各聯合團體は其相互の連絡統一を圖り且各團體の進歩發達を助成せんがため本聯合團を組織す

第二條 本團を大阪市青年聯合團と稱す

第三條 本團の事務所を大阪市役所教育部内に置く

#### 第二章 組 織

第四條 本團に加盟し得る團體は青年修養を目的とせる團體にして左の各號の一に該當するものとす

- 一、學區を區域としたる團體及同窓會
- 二、名稱學校に於て補習教育を受けつゝある團體
- 三、官公衛會社工場及商店等の團體
- 四、同業組合員の子弟及使用人の團體
- 五、其他之に類する諸團體

#### 第三章 事 業

第五條 本團加盟團體は本團評議員會の承諾を経たるものとす

第六條 本團の事業凡左の如し

- 一、加盟團體の事業を援助又指導すること
- 二、加盟團體相互の連絡圖ること
- 三、加盟團體の聯合事業を主催すること
- 四、加盟團體團體指導者及團體所屬青年を表彰すること
- 五、青年の指導教養に關する研究調査をすこと

#### 第四章 役 員

第七條 本團に左の役員を置く

團 長	壹 名	但し内一名を常任理事とす
理 事	十六名	
評 議 員	若干名	
顧 問	若干名	

第八條 團長には大阪市長を推舉す  
團長は本團を代表し本團の事務を總理す

第九條 理事其半數を評議員會に於て選舉し他の半數(常任理事を否む)は團長之を依囑し其任期を二ケ年とす但常任理事は別に任期を定めず

第十條 評議員は其半數は加盟團體代表者總會に於て互選し他半數は團長之を依囑し其任期を之を二ケ年とす

評議員は本團重要事項の協議にもつ

第十一條 顧問は本團之を推薦す

#### 第五章 會 議

第十二條 加盟團體代表者總會は毎年三月之を開く諸般の報告を爲し翌年度事業の方針を決定す但必要に應じ臨時總會を開くことあるべし

第十三條 評議員會は毎年二回之を開く但必要に應じ臨時開會することあるべし

第十四條 評議員會に於て議すべき事項は左の如し

- 一、財産の管理並に處分に關する事項
- 二、豫算並に決算に關する事項
- 三、加盟團體の聯合事業に關する事項
- 四、其他團長に於て必要と認むる事項

第十五條 加盟團體代表者總會の議長は團長之に當り團長事故あるときは理事の一人之に當る

第十六條 評議員會の議長代理者は評議員會に於て互選す

第十七條 議事は一般會議法による

#### 第六章 會 計

第十八條 本團の經費は補助金並に特志者の寄附金を以て之に充つ

#### 第七章 附 則

第十九條 本規約の變更は加盟團體代表者總會の決議に依るものこす

第二十條 本規約の施行に必要な細則は團長之を定め評議員會の承認を経るものこす

### (五) 大阪市青年團準則

#### 第一章 通 則

第一條 本團は大阪市青年聯合團綱領の趣旨を體し青年相互の親睦を厚し身體を鍛鍊し智能を磨き品性の向上を圖り以て健全なる國民善良なる公民たるの修養をなさしむるを以て目的とす

第二條 本團は(各團別)と稱し事務所を(各團別)に置く

第三條 本團の目的を達する爲め行ふ事業の概目左の如し

- 一、補習教育の施設又は獎勵
- 二、講演會の開催
- 三、文庫の設置
- 四、各種運動の練習及運動會の開催
- 五、公益に關する事業
- 六、修養娛樂に關する施設

#### 第二章 團 員

第四條 本團員を名譽團員、贊助團員、特別團員、正團員の四種とす

一、名譽團員は學識名望あるもの及本團に對し功績あるものにして本團より推薦したる者